令和２年度　県民意識調査報告書

令 和 ２ 年 ８ 月

秋　　田　　県

目　　次

第Ⅰ部　調査の概要
1　調査の目的 3
2　調査の内容 3
3　調査の設計 3
4　回収結果 3
5　集計・分析に当たって 3
6　統計表 3
7　有効回答者の属性 4
8　標本抽出方法 8

第Ⅱ部　調査結果の概要 11

第Ⅲ部　調査結果の詳細
第１章　「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」について
1　各戦略の施策に関連する事柄についての満足度
（1）　戦略１　秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について
ア　社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保 19
イ　若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり 21
ウ　結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート 22
エ　女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現 23
オ　活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり 24
（2）　戦略２　社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について
ア　成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成 25
イ　中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上 26
ウ　国内外の成長市場の取り込みと投資の促進 27
エ　産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備 28
（3）　戦略３　新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について
ア　秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成 29
イ　複合型生産構造への転換の加速化 30
ウ　秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用 31
エ　農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化 32
オ　「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化 33
カ　つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興 34
キ　地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり 35

（４）　戦略４　秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略について
ア　地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
イ　「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
ウ　文化の発信力強化と文化による地域の元気創出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
エ　「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
オ　県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
カ　交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
（５）　戦略５　誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について
ア　健康寿命日本一への挑戦・・42
イ　心の健康づくりと自殺予防対策・・43
ウ　医療ニーズに対応した医療提供体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
エ　高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
オ　次代を担う子どもの育成・・46
（６）　戦略６　ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について
ア　自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成・・・・・・・・・・・・・47
イ　子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
ウ　世界で活躍できるグローバル人材の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
エ　豊かな人間性と健やかな体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
オ　子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
カ　地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
キ　地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供・・・・・・・・・・・・・53

２（参考）各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

第２章　県政の重要課題について
重要課題として県に力を入れて欲しいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58

第３章　県の特定課題について
１　県の広報活動について
（１）　県が発信する情報の取得方法・・・63
（２）　広報活動の現状評価・・65
２　家庭での防災活動について
（１）　家庭での災害時に備えた備蓄状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
（２）　災害に備えた家庭での防災活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
３　読書活動について
（１）　読書への興味・・69
（２）　１日の平均読書時間・・70

４　農業への就業について
（１）　農業への就業についての興味・・・71
（２）　農業へ就業するとした場合、希望する勤務形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
５　海岸漂着ごみ対策について
海岸漂着ごみ問題に関する認知度・・・73
６　がん対策について
（１）　日本人のがん発症率に関する認知度・・・74
（２）　がん検診の受診時期に対する考え方・・・75
７　社会活動・地域活動について
社会活動・地域活動への取組の頻度・・・76
８　自転車の安全な利用について
自転車損害賠償責任保険への加入状況・・77
９　男女共同参画について
「男は仕事、女は家庭」の考え方・・・78
10　環境保全活動について
環境保全活動への参加状況・・79
11　高齢者の社会参加について
60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和元年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
12　子ども・若者への支援について
子ども・若者への支援で、県に特に力を入れてほしいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

第４章　県政への自由意見について
１　自由意見の項目別件数・・・85
２　主な自由意見・・86

付属資料：調査票・・・97

第Ⅰ部　調査の概要

１　調査の目的

（１）県政に対する県民意識を把握し、第３期ふるさと秋田元気創造プランの進行管理に活用する。
（２）政策評価において、県民意識を取り入れる手法の一つとして活用する。
（３）県民の提案や要望を把握し、政策立案や問題解決、計画の策定に反映させる。
（４）特定課題に関する県民意識を把握し、取組の推進に活用する。

２　調査の内容

（１）プランに掲げた戦略の施策に関連する事柄についての満足度（選択式）
（２）県政の重要課題について（選択式）
（３）特定の課題に関する意識（選択式）
① 県の広報活動について
② 家庭での防災活動について
③ 読書活動について
④ 農業への就業について
⑤ 海岸漂着ごみ対策について
⑥ がん対策について
⑦ 社会活動・地域活動について
⑧ 自転車の安全な利用について
⑨ 男女共同参画について
⑩ 環境保全活動について
⑪ 高齢者の社会参加について
⑫ 子ども・若者への支援について
（４）県に力を入れて欲しいことや、取り組むべきだと思うこと（自由記述式）

３　調査の設計

（１）調 査 対 象： 県内に居住する満 18 歳以上の男女個人
（２）標　　本　　数： 5,000 人
（３）標本抽出方法： 全県 25 市町村の選挙人名簿を基にした層化抽出法
（４）調 査 手 法： ア　郵送による調査票の配布
イ　郵送回答とインターネット回答の併用
（５）調 査 期 間： 令和２年５月 21 日（木）～6 月５日（金）
（６）調 査 機 関： 株式会社フィデア情報総研

４　回収結果

（１）調査票回収数　　3,047 人（回　収　率　60.9%）
（２）有効回答数　　3,044 人（有効回答率　60.9%）

５　集計・分析に当たって

（１）比率（%）は、小数点以下第２位を四捨五入して表示する。このため、各回答の比率の合計が 100%にならないこと（99.9%、100.1%など）がある。満足度の平均点は、小数点以下第３位を四捨五入して算出する。
（２）18～19 歳を 10 歳代として集計する。

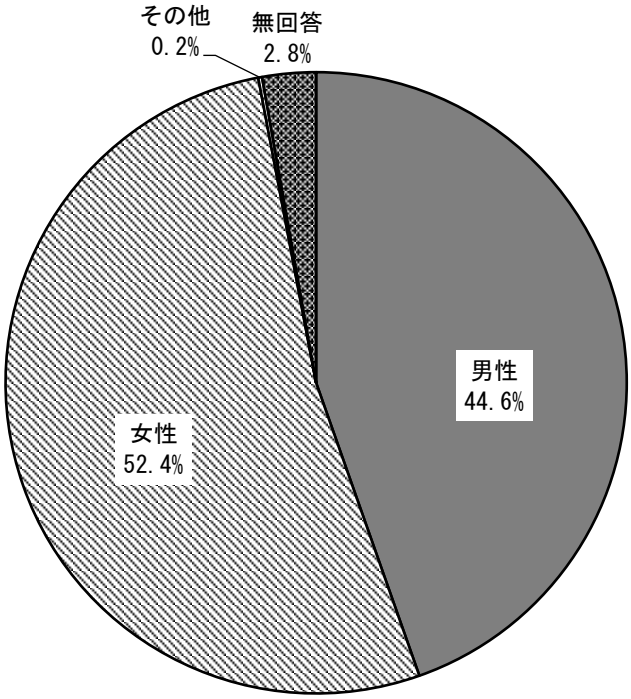
６　統計表

各設問の回答に関する統計データは、県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」(https://www.pref.akita.lg.jp）に掲載している。

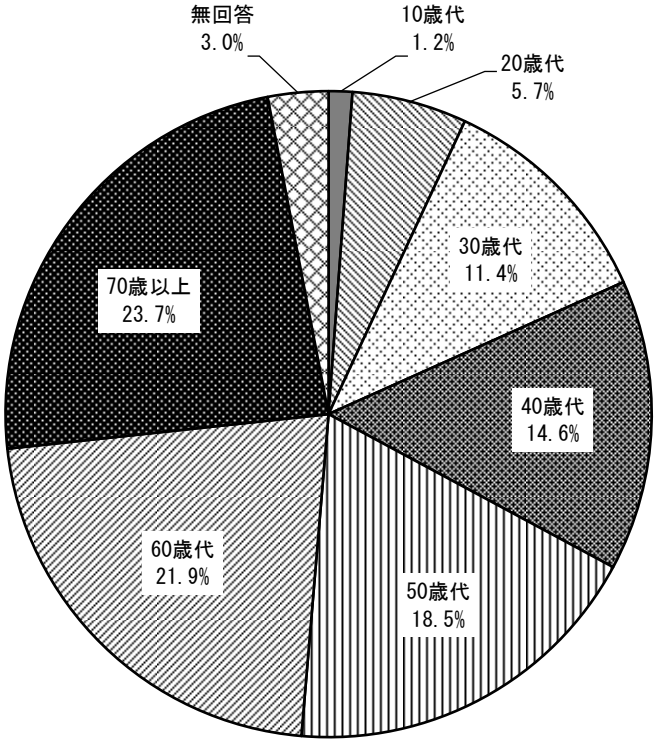
7　有効回答者の属性

属　性		有効回答者		推計人口（R1.10.1 現在）	
		客体数	構成比	18 歳以上人口	構成比
合　計		3,044	100.00%	838,921	100.00%
性別	男性	1,358	44.6%	389,028	46.4%
	女性	1,595	52.4%	449,893	53.6%
	その他	6	0.2%	―	―
	無回答	85	2.8%	―	―
年齢	18～19 歳	36	1.2%	15,280	1.8%
	20～29 歳	175	5.7%	59,581	7.1%
	30～39 歳	346	11.4%	88,413	10.5%
	40～49 歳	443	14.6%	120,647	14.4%
	50～59 歳	563	18.5%	124,120	14.8%
	60～69 歳	668	21.9%	162,902	19.4%
	70 歳以上	721	23.7%	267,978	31.9%
	無回答	92	3.0%	―	―
18歳未満の子の有無	養育している	565	18.6%	―	―
	養育していない	2,300	75.6%	―	―
	無回答	179	5.9%	―	―
出身	秋田県の出身	2,740	90.0%	―	―
	秋田県以外の出身	202	6.6%	―	―
	無回答	102	3.4%	―	―
居住地域	鹿角地域	105	3.4%	30,255	3.6%
	北秋田地域	300	9.9%	90,553	10.8%
	山本地域	206	6.8%	66,751	8.0%
	秋田地域	1,169	38.4%	330,513	39.4%
	由利地域	319	10.5%	86,062	10.3%
	仙北地域	398	13.1%	107,100	12.8%
	平鹿地域	267	8.8%	75,196	9.0%
	雄勝地域	185	6.1%	52,491	6.3%
	無回答	95	3.1%	―	―
職業	農業	214	7.0%	―	―
	林業	12	0.4%	―	―
	漁業	2	0.1%	―	―
	建設業	162	5.3%	―	―
	製造業	262	8.6%	―	―
	情報通信業	31	1.0%	―	―
	運輸業・郵便業	57	1.9%	―	―
	卸売業・小売業(観光関連)	21	0.7%	―	―
	卸売業・小売業(観光関連以外)	185	6.1%	―	―
	宿泊業	16	0.5%	―	―
	飲食サービス業	88	2.9%	―	―
	学術研究・学校教育・学習支援	80	2.6%	―	―
	医療・保健	141	4.6%	―	―
	福祉	161	5.3%	―	―
	公務（上記以外）	115	3.8%	―	―
	その他の業種	418	13.7%	―	―
	学生	47	1.5%	―	―
	無職	918	30.2%	―	―
	無回答	114	3.7%	―	―

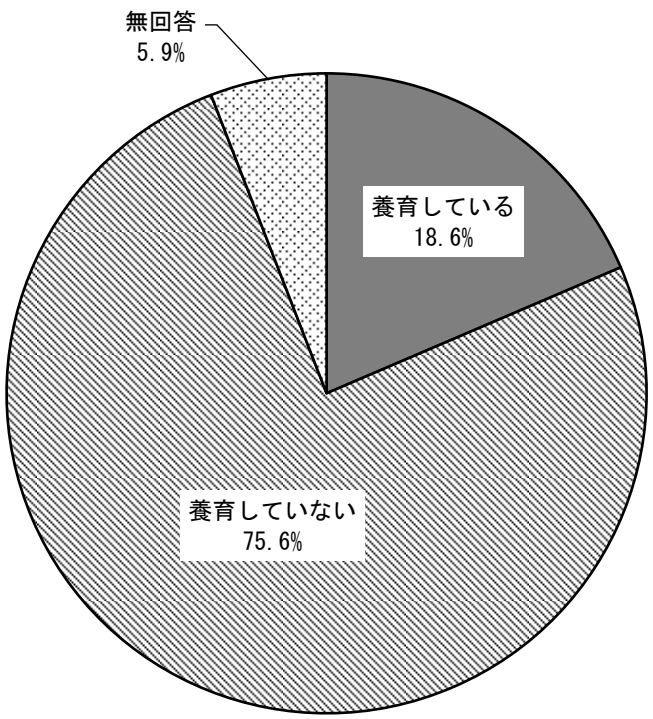
性別


その他
0.2%
無回答
2.8%
男性
44.6%
女性
52.4%

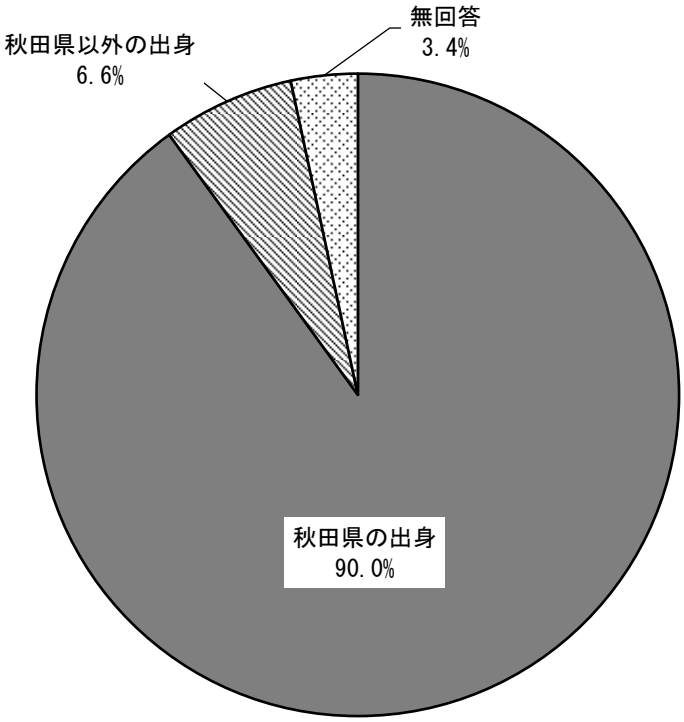
年齢


無回答
3.0%
10歳代
1.2%
20歳代
5.7%
30歳代
11.4%
40歳代
14.6%
50歳代
18.5%
60歳代
21.9%
70歳以上
23.7%

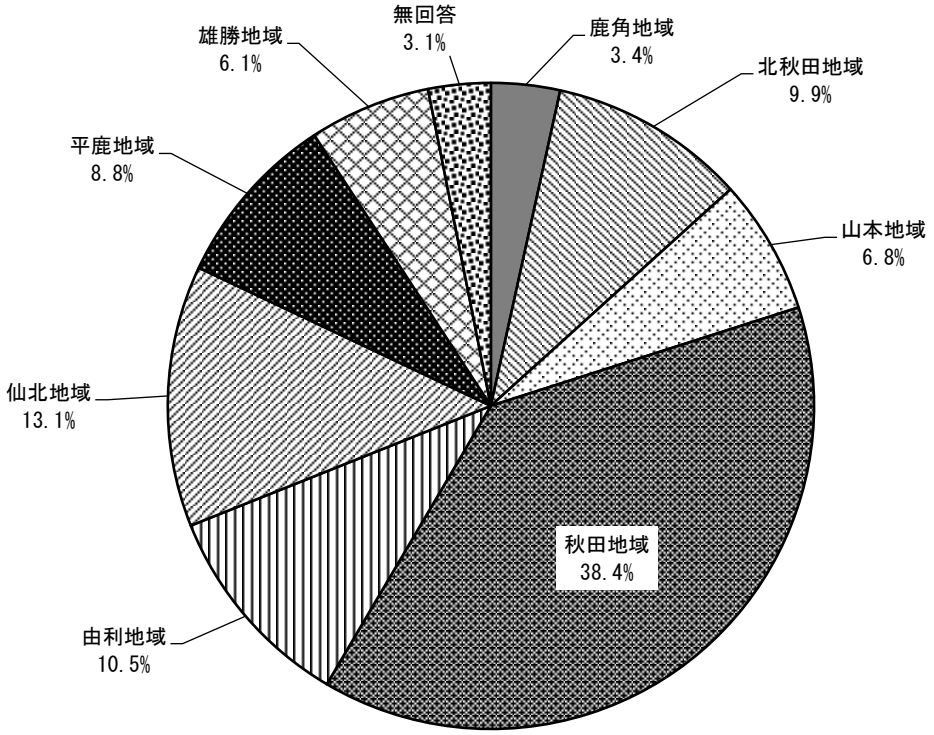
18歳未満の子の有無



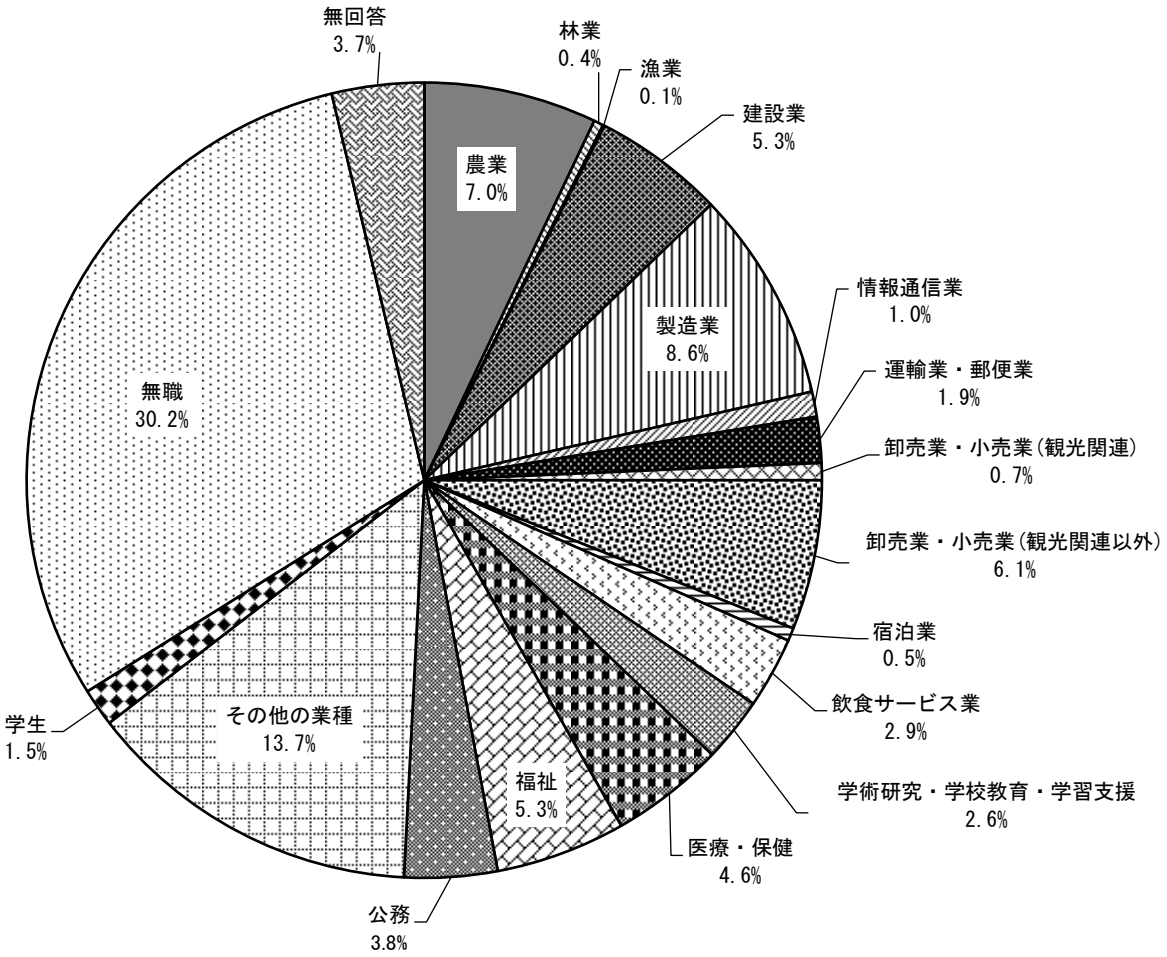
出身



居住地域


無回答
3.1%
鹿角地域
3.4%
北秋田地域
9.9%
山本地域
6.8%
秋田地域
38.4%
由利地域
10.5%
仙北地域
13.1%
平鹿地域
8.8%
雄勝地域
6.1%

職業


無回答
3.7%
林業
0.4%
漁業
0.1%
建設業
5.3%
農業
7.0%
製造業
8.6%
情報通信業
1.0%
運輸業・郵便業
1.9%
卸売業・小売業(観光関連)
0.7%
卸売業・小売業(観光関連以外)
6.1%
宿泊業
0.5%
飲食サービス業
2.9%
学術研究・学校教育・学習支援
2.6%
医療・保健
4.6%
福祉
5.3%
公務
3.8%
その他の業種
13.7%
学生
1.5%
無職
30.2%

８　標本抽出方法

（１）層化及び標本数の配分

調査対象を県内 25 市町村で層化し、各市町村の満 18 歳以上の人口（令和元年 10 月 1 日現在）の構成比に応じて 5,000 の標本を比例分配した。

地域名	NO	市町村名	18 歳以上人口 (R1.10.1 現在)	18 歳以上人口 構成比	調査地点 人口按分
		県　　計	838,921	100.00%	5,000
鹿角地域	1	鹿角市	25,922	3.09%	154
	2	小坂町	4,333	0.52%	26
北秋田地域	3	大館市	61,363	7.31%	366
	4	北秋田市	27,243	3.25%	162
	5	上小阿仁村	1,947	0.23%	13
山本地域	6	能代市	44,018	5.25%	262
	7	藤里町	2,725	0.32%	16
	8	三種町	13,976	1.67%	83
	9	八峰町	6,032	0.72%	36
秋田地域	10	秋田市	260,148	31.01%	1,550
	11	男鹿市	23,306	2.78%	139
	12	潟上市	27,661	3.30%	165
	13	五城目町	7,694	0.92%	46
	14	八郎潟町	5,029	0.60%	30
	15	井川町	4,118	0.49%	25
	16	大潟村	2,557	0.30%	15
由利地域	17	由利本荘市	65,495	7.81%	390
	18	にかほ市	20,567	2.45%	123
仙北地域	19	大仙市	68,051	8.11%	406
	20	仙北市	22,379	2.67%	133
	21	美郷町	16,670	1.99%	99
平鹿地域	22	横手市	75,196	8.96%	448
雄勝地域	23	湯沢市	37,974	4.53%	226
	24	羽後町	12,308	1.47%	73
	25	東成瀬村	2,209	0.26%	14

（２）報告書の見方

母集団全体の中から一部を抽出する標本調査では、母集団全体を対象に行った調査と比べ、何らかの誤差が生ずる。本調査では信頼係数を95％と設定しており、誤差は以下の式で得られる。第Ⅲ部では点推定値を掲載しているが、以上のような誤差をもっている。

①回答割合の誤差
　標本誤差＝ $1.96 \times \sqrt{p(1-p)/n}$
②回答結果の平均値の誤差
　標本誤差＝ $1.96 \times s/\sqrt{n}$

N=母集団数
n=標本数
s=標本標準偏差
p=回答比率

①の回答割合に関しては、本調査における誤差の早見表を以下に記載する。この表では、例えば、「全体」の50％から「十分」という回答比率が得られた問について、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合、95％の確率で母割合（全県民が「十分」と考える割合）を50％±1.8％の範囲内に含むことを表しており、例えば、100回中95回は誤差を含めた範囲内に母割合を含むが、５回は含まないときがある。

回答割合の誤差の早見表

項目名	N:母集団数（人）	n:回答者数（人）	p ：回答比率（％）				
			10％または90％前後	20％または80％前後	30％または70％前後	40％または60％前後	50％前後
全体	838,921	3,044	1.1%	1.4%	1.6%	1.7%	1.8%
年代別							
18～39歳	163,274	557	2.5%	3.3%	3.8%	4.1%	4.2%
40～59歳	244,767	1,006	1.9%	2.5%	2.8%	3.0%	3.1%
60歳以上	430,880	1,389	1.6%	2.1%	2.4%	2.6%	2.6%

※無回答の92人を含むため、年代別の計と一致しない。

②の回答結果の平均値に関し、誤差を考慮した区間推定結果を以下に掲載する。この推定の精度は、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合に95％の確率で母平均（母集団である全県民の回答の平均値）をその範囲内に含む程度であり、例えば、100回中95回は信頼区間の中に母平均を含むが、５回は含まないときがある。

回答結果の平均値の区間推定

質問No.	全体		年代別					
			18～39歳		40～59歳		60歳以上	
	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間
1	1.97	1.94～2.01	2.04	1.96～2.13	1.85	1.79～1.90	2.05	2.00～2.10
2	2.22	2.18～2.25	2.27	2.18～2.36	2.13	2.07～2.19	2.27	2.22～2.32
3	2.77	2.73～2.80	2.80	2.71～2.89	2.79	2.72～2.85	2.75	2.70～2.80
4	2.50	2.46～2.53	2.64	2.55～2.73	2.46	2.40～2.51	2.49	2.44～2.54
5	2.56	2.52～2.59	2.69	2.60～2.78	2.46	2.40～2.52	2.58	2.53～2.64
6	2.27	2.23～2.30	2.40	2.31～2.49	2.20	2.14～2.27	2.26	2.21～2.32
7	2.30	2.26～2.34	2.41	2.32～2.50	2.22	2.16～2.28	2.32	2.27～2.37
8	2.23	2.19～2.27	2.46	2.36～2.56	2.15	2.08～2.21	2.21	2.15～2.27
9	2.34	2.30～2.38	2.48	2.39～2.57	2.24	2.18～2.31	2.36	2.30～2.41
10	2.69	2.66～2.73	3.02	2.93～3.12	2.64	2.58～2.71	2.62	2.56～2.67
11	3.43	3.40～3.46	3.55	3.47～3.63	3.42	3.36～3.47	3.40	3.36～3.45
12	3.41	3.38～3.45	3.67	3.58～3.75	3.33	3.28～3.39	3.37	3.32～3.42
13	3.14	3.11～3.17	3.42	3.34～3.50	3.14	3.08～3.19	3.05	3.00～3.10
14	2.99	2.95～3.02	3.31	3.23～3.40	3.00	2.93～3.06	2.86	2.81～2.92
15	3.01	2.98～3.04	3.34	3.26～3.42	3.01	2.95～3.07	2.89	2.84～2.93
16	2.68	2.64～2.72	3.10	3.01～3.19	2.66	2.59～2.72	2.54	2.48～2.59
17	2.55	2.51～2.59	2.70	2.60～2.79	2.51	2.45～2.58	2.52	2.47～2.58
18	3.14	3.11～3.18	3.42	3.34～3.50	3.15	3.09～3.21	3.03	2.99～3.08
19	2.79	2.75～2.82	2.88	2.79～2.97	2.76	2.70～2.83	2.78	2.73～2.83
20	2.91	2.88～2.95	3.04	2.95～3.13	2.83	2.77～2.89	2.93	2.88～2.98
21	2.78	2.74～2.81	2.78	2.70～2.87	2.72	2.66～2.78	2.83	2.78～2.88
22	2.53	2.50～2.57	2.44	2.35～2.53	2.43	2.37～2.49	2.65	2.59～2.70
23	3.07	3.03～3.10	2.88	2.79～2.96	2.97	2.92～3.02	3.20	3.16～3.25
24	2.49	2.46～2.53	2.36	2.27～2.45	2.41	2.35～2.48	2.61	2.56～2.66
25	2.67	2.63～2.70	2.57	2.48～2.67	2.46	2.40～2.52	2.85	2.80～2.91
26	2.92	2.89～2.96	2.94	2.85～3.02	2.82	2.76～2.88	2.99	2.94～3.04
27	2.92	2.88～2.95	2.91	2.83～3.00	2.86	2.80～2.93	2.97	2.92～3.01
28	3.13	3.10～3.17	3.11	3.02～3.20	3.15	3.09～3.21	3.14	3.10～3.18
29	3.23	3.20～3.27	3.25	3.17～3.34	3.19	3.13～3.24	3.27	3.22～3.31
30	2.90	2.86～2.93	3.03	2.94～3.12	2.87	2.81～2.93	2.87	2.82～2.92
31	3.14	3.11～3.18	3.23	3.15～3.31	3.10	3.05～3.16	3.14	3.10～3.19
32	3.10	3.07～3.13	3.19	3.11～3.27	3.07	3.02～3.13	3.09	3.04～3.13
33	2.95	2.92～2.99	3.08	3.00～3.17	2.93	2.87～2.99	2.93	2.88～2.98
34	2.95	2.92～2.98	3.06	2.97～3.14	2.92	2.86～2.98	2.94	2.89～2.98

第Ⅱ部　調査結果の概要

1　第１章「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」について　（P19～57）

「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」の６つの戦略の各施策に関連する事柄について、５「十分」、４「おおむね十分」、３「ふつう」、２「やや不十分」、１「不十分」及びN「わからない」の中から１つを選択する形式で満足度の状況等を調査した。

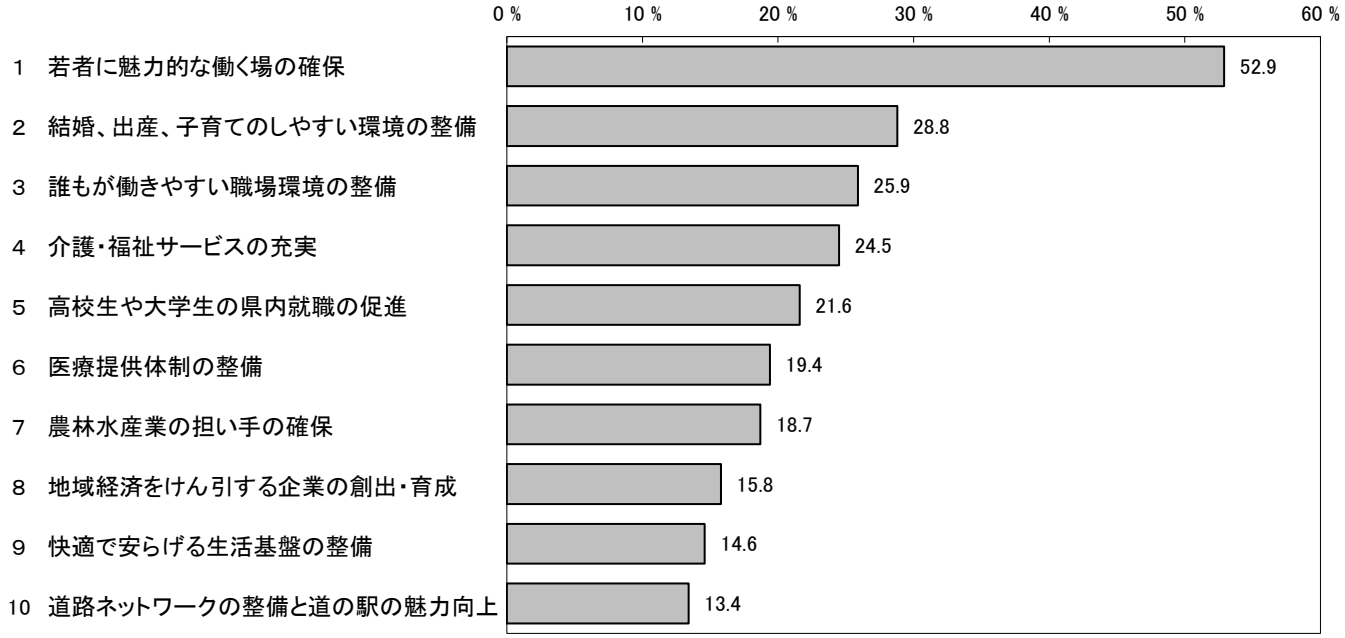
			満足度	回答の割合（%）						
				十分（5）	おおむね十分（4）	ふつう（3）	やや不十分（2）	不十分（1）	わからない	無回答
戦略1	1	若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	1.97	0.3	2.2	27.5	24.0	35.2	9.5	1.3
	2	高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	2.22	0.3	4.1	31.1	25.6	22.2	15.4	1.3
	3	安心して子育てができる社会になっている。	2.77	2.0	15.5	43.2	17.9	11.2	8.9	1.3
	4	女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	2.50	0.9	7.6	41.5	23.6	15.1	10.0	1.4
	5	地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	2.56	1.9	11.0	42.3	21.2	17.7	4.3	1.5
戦略2	6	地域経済を牽(けん)引することができる競争力を持った企業が増えている。	2.27	0.3	3.7	30.7	21.2	19.0	22.3	2.8
	7	中小企業の安定した経営が確保されている。	2.30	0.1	3.7	31.1	24.2	16.1	22.6	2.1
	8	企業誘致が進んでいる。	2.23	0.4	5.2	27.0	21.6	21.3	22.3	2.2
	9	産業人材の確保・育成が進んでいる。	2.34	0.5	3.9	31.8	21.3	16.0	24.4	2.1
戦略3	10	農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。	2.69	1.4	10.0	37.3	15.7	9.9	21.7	4.0
	11	えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。	3.43	7.3	33.2	36.7	6.0	2.4	12.6	1.7
	12	あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。	3.41	8.8	33.5	35.9	8.0	3.1	8.8	1.8
	13	飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。	3.14	4.1	21.6	44.1	11.0	3.4	13.8	1.9
	14	秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。	2.99	2.4	14.8	36.9	10.2	5.2	28.6	2.0
	15	ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。	3.01	3.0	17.1	44.5	12.6	4.8	16.3	1.7
	16	豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。	2.68	1.9	9.2	38.8	16.9	10.3	21.0	2.0

			満足度	回答の割合（%）						
				十分（5）	おおむね十分（4）	ふつう（3）	やや不十分（2）	不十分（1）	わからない	無回答
戦略4	17	国内外から観光誘客が進んでいる。	2.55	1.5	11.4	35.2	20.6	16.1	12.3	2.9
	18	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	3.14	3.8	23.6	42.4	10.6	4.2	13.2	2.1
	19	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.79	2.5	14.5	40.6	18.9	9.4	11.9	2.2
	20	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。	2.91	3.3	16.4	45.0	15.8	7.4	9.9	2.3
	21	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	2.78	2.0	14.4	43.7	17.7	10.1	10.1	2.1
	22	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	2.53	1.6	9.7	39.8	21.8	16.4	8.5	2.3
戦略5	23	食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。	3.07	2.5	21.9	48.3	10.9	5.1	9.3	2.0
	24	誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。	2.49	0.8	6.7	36.8	19.7	13.9	20.3	1.8
	25	どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。	2.67	2.6	14.0	40.0	20.4	14.8	6.3	1.9
	26	高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。	2.92	2.9	17.2	44.8	14.9	7.3	11.2	1.7
	27	全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。	2.92	2.3	14.5	47.5	12.5	6.8	14.6	1.9
戦略6	28	学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。	3.13	3.7	18.4	46.8	8.4	3.4	16.4	3.0
	29	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。	3.23	4.1	22.2	44.4	6.7	2.5	18.0	2.0
	30	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。	2.90	2.4	13.2	41.6	14.2	5.8	20.7	2.1
	31	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。	3.14	3.3	19.2	48.3	7.0	3.5	16.5	2.1
	32	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。	3.10	3.0	19.2	47.9	9.6	3.5	14.8	2.0
	33	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。	2.95	1.4	11.8	40.3	10.4	3.7	30.2	2.1
	34	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。	2.95	2.2	12.5	47.5	12.0	4.4	19.6	2.0

２　第２章　県政の重要課題について　（P58～62）

今後の県政を推進していく上で、「重要課題として県に力を入れて欲しいこと」を 50 の選択肢の中から５つまでを選ぶ形式で調査した。

重要課題として県に力を入れて欲しいこと（上位10項目）



３　第３章　県の特定課題について　（P63～84）

県の特定課題として、次の 12 課題について調査した。

（１）県の広報活動について
（２）家庭での防災活動について
（３）読書活動について
（４）農業への就業について
（５）海岸漂着ごみ対策について
（６）がん対策について
（７）社会活動・地域活動について
（８）自転車の安全な利用について
（９）男女共同参画について
(10) 環境保全活動について
(11) 高齢者の社会参加について
(12) 子ども・若者への支援について

4　第４章　県政への自由意見について　（P85～95）

県に力を入れて欲しいことや、取り組むべきだと思うことについて、749 人から 1,210 件の意見が寄せられた。

項番	項　　目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	94
B	移住・定住に関すること	59
C	女性・若者の活躍支援に関すること	16
D	地域社会の維持・活性化に関すること	53
E	商工業・雇用・労働に関すること	177
F	農林水産業に関すること	65
G	観光に関すること	29
H	文化・スポーツに関すること	22
I	道路・交通ネットワークに関すること	51
J	健康・医療・福祉に関すること	99
K	教育に関すること	55
L	県土の保全・防災に関すること	7
M	身近な生活・環境に関すること	46
N	県政全般に対する意見・その他	437
	合　　計	1,210

第Ⅲ部　調査結果の詳細

第１章　「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」について

１　各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問１）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を５「十分」～１「不十分」の５段階で質問した。

（１）　戦略１　秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

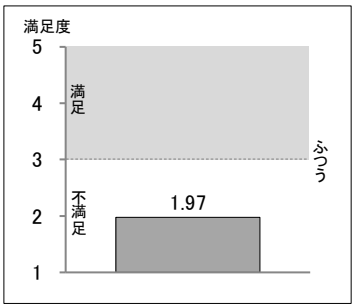
ア　社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

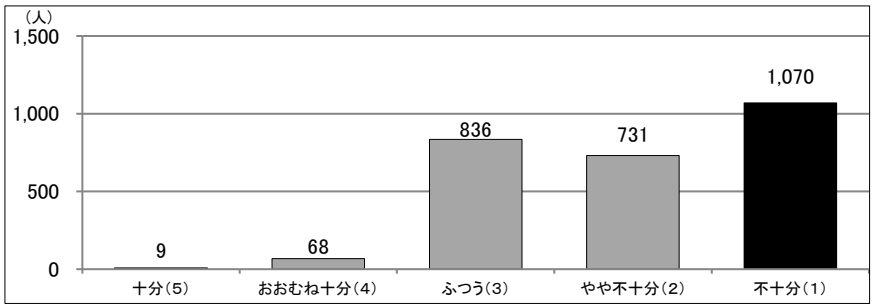
問 1-1　若者にとって魅力的な働く場が確保されている。

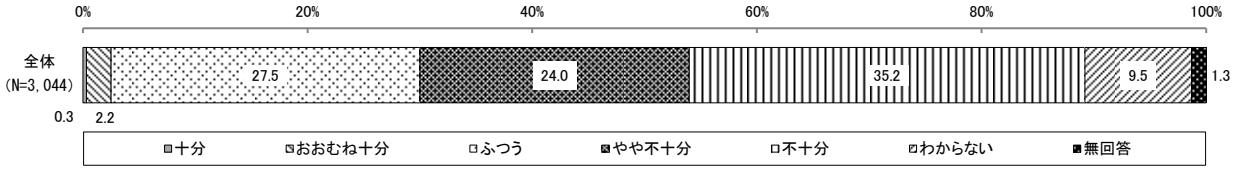
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 1.97 で、「ふつう」の３より 1.03 低かった。回答では「不十分」が最も多かった。

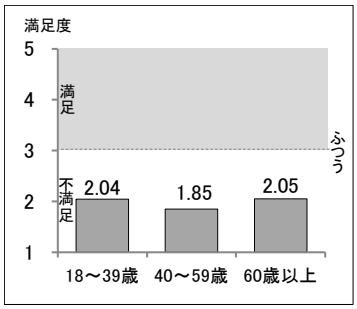
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 2.5%、「ふつう」は 27.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 59.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 30.0%であった。

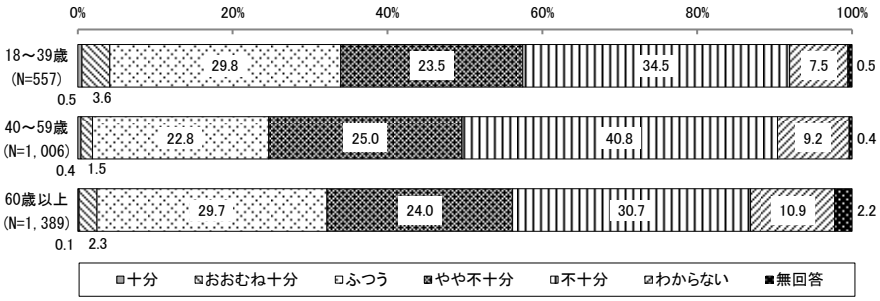






年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.05 であり、不満を感じていない人の割合は 32.1%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 1.85 であり、不満を感じていない人の割合は 24.7%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,801 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、742 人（41.2%）から回答があった。

回答の一部

- まだまだ就職口は少ないと思います。起業の推進や県外企業の誘致などを進めていく必要があると思います。（男性／40 歳代／秋田地域）
- 若者の働く場所が少ない。働く場所が無いのでやむをえず県外に就職する人が多い。（男性／70 歳以上／秋田地域）
- 賃金が低く、福利厚生の整っていない職場が多いと思う。中小企業も大変と思うが、将来の事を考えると、首都圏に行ってしまうと思う。（女性／50 歳代／秋田地域）

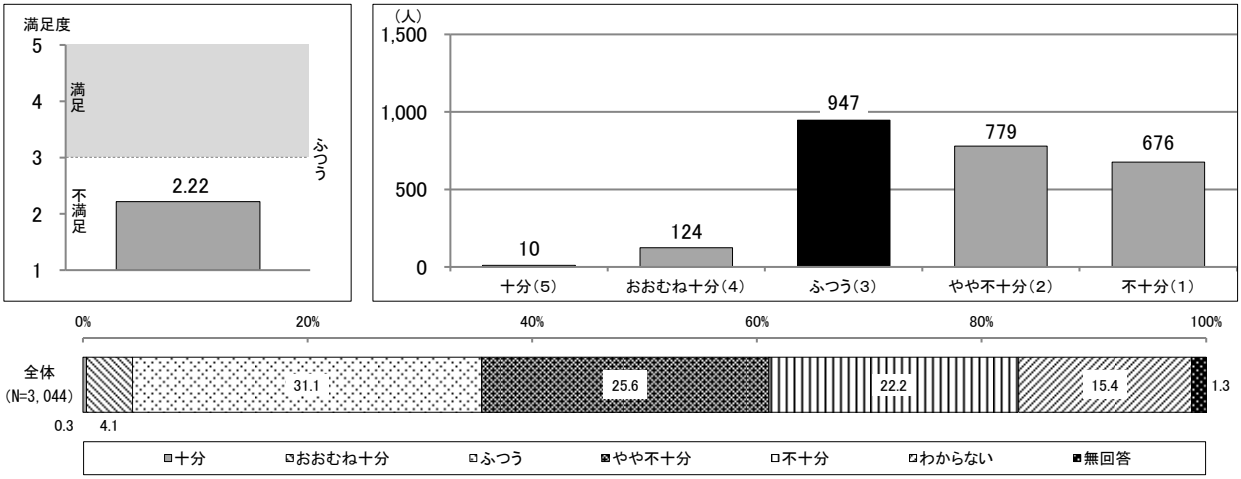
イ　若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

問 1-2　高校生や大学生の県内就職が進んでいる。

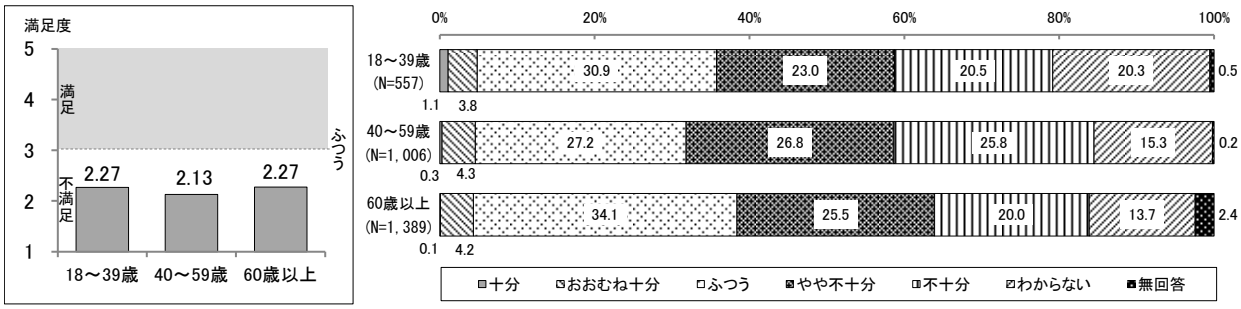
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.22 で、「ふつう」の３より 0.78 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 4.4%、「ふつう」は 31.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 47.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 35.5%であった。



年代別では、「18～39 歳」及び「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.27 であり、不満を感じていない人の割合はそれぞれ 35.8%、38.4%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.13 であり、不満を感じていない人の割合は 31.8%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,455 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、458 人（31.5%）から回答があった。

回答の一部

- 進学で県外に行ってしまうと、地元での就職は考えないと思う。（女性／50 歳代／山本地域）
- 努力してきているのは感じますが、学生を活かせる企業が少なく、賃金が低く福利厚生面が充実していない企業が多いです。頑張っている企業は、もっと県民に知名度をアピールしてほしい。（女性／60 歳代／仙北地域）
- 県外のほうが、職種の幅も広く、多く稼ぐ人が多いイメージ。県内でも活躍し、稼げることを知れる場が増えると良い。（男性／30 歳代／秋田地域）

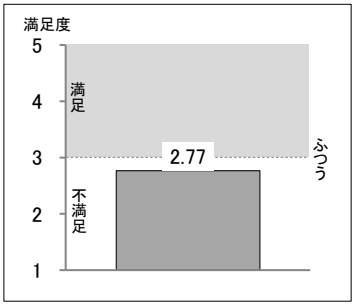
ウ　結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

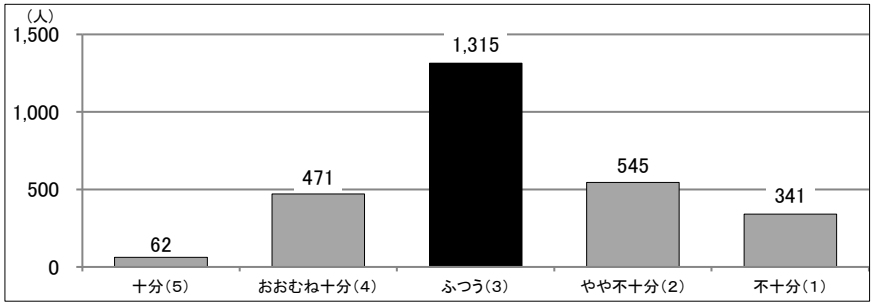
問 1-3　安心して子育てができる社会になっている。

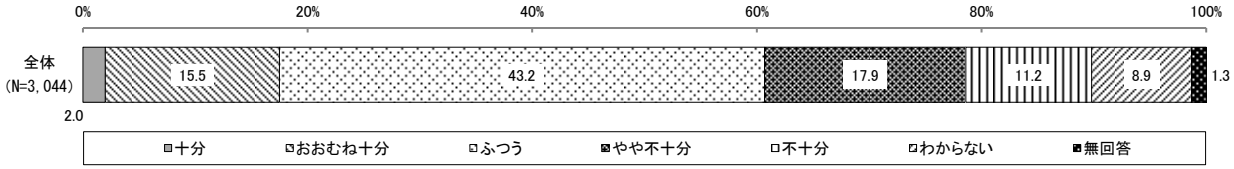
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.77 で、「ふつう」の３より 0.23 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

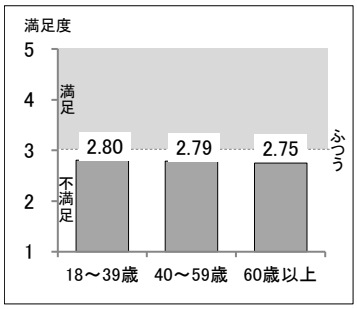
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 17.5%、「ふつう」は 43.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 29.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 60.7%であった。

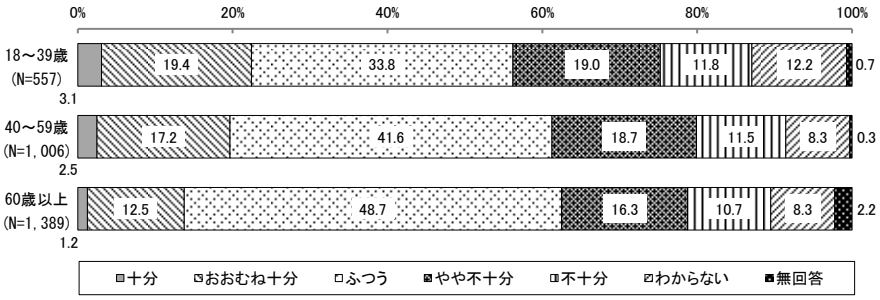






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.80 であり、不満を感じていない人の割合は 56.3%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.75 であり、不満を感じていない人の割合は 62.4%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 886 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、248 人（28.0%）から回答があった。

回答の一部

- 子どもが遊んだり、学んだりできる施設が少ないと思う。（女性／30 歳代／秋田地域）
- 子どもを産み育てるには、対象者への経済的支援と併せて、経済団体（特に中小企業）の理解と協力が必要と考えます。県のサポートを望みます。（男性／70 歳以上／秋田地域）
- 経済面で負担を軽くするような支援を今以上に増やす。（女性／50 歳代／仙北地域）

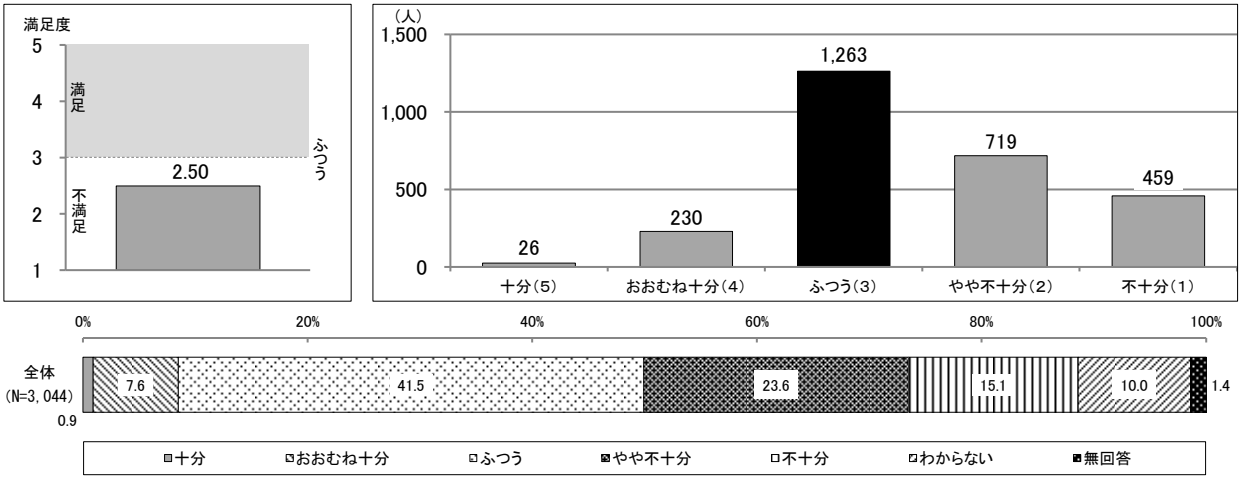
エ　女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

問 1-4　女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。

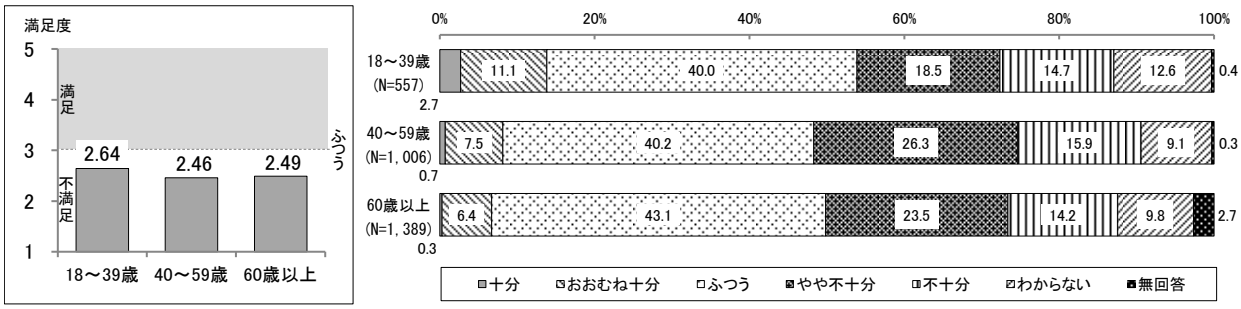
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.50 で、「ふつう」の３より 0.50 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 8.5%、「ふつう」は 41.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 38.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 50.0%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.64 であり、不満を感じていない人の割合は 53.8%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.46 であり、不満を感じていない人の割合は 48.4%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,178 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、302 人（25.6%）から回答があった。

回答の一部

- 若者が働きたいと思う企業が少ないのではないか。子供がいると仕事を急に休んだりしなければいけないが、まだまだ女性には優しくない気がする。（女性／30 歳代／北秋田地域）
- 女性だけが家事・育児と仕事の両立をする必要がある社会ではなく、男性も協力できるよう、各職場での理解と、働き方の改革がさらに必要。（女性／40 歳代／北秋田地域）
- 若者が自由に発言できる社会の雰囲気ができていない。「昔はこうだった」と昭和世代を押し付けず社会人として育ててほしい。（女性／50 歳代／仙北地域）

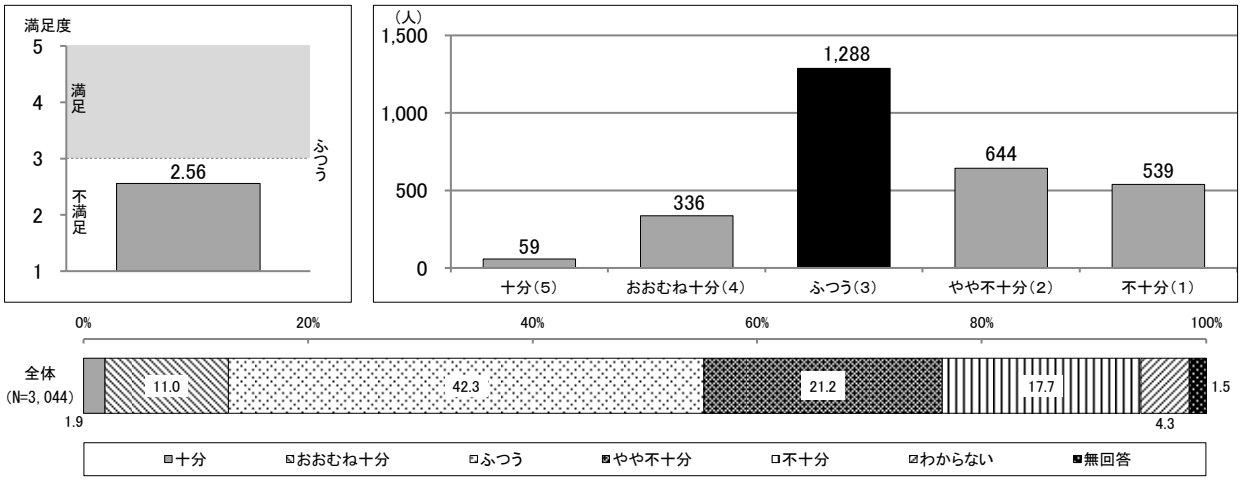
オ　活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

問 1-5　地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。

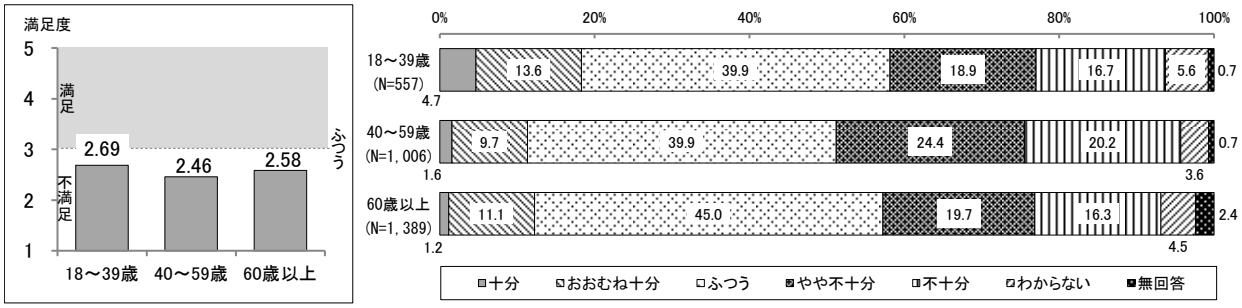
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.56 で、「ふつう」の３より 0.44 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 12.9%、「ふつう」は 42.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 38.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 55.2%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.69 であり、不満を感じていない人の割合は 58.2%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.46 であり、不満を感じていない人の割合は 51.2%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,183 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、417 人（35.2%）から回答があった。

回答の一部

- 過疎化が進んでいるところでは、車を運転できない人が移動に困っている。コミュニティバスの充実や個人の車両を借り上げての送迎などを行ってほしい。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 地域の公共交通機関が減少したことで地域間の交流が少なくなった。また、住民の高齢化が進んだため地域活動が少なくなった。（男性／70 歳以上／山本地域）
- 高齢化が進み、買い物弱者が増えているので、地域全体で対策を考える必要がある。県の支援、補助が必要。（男性／70 歳以上／北秋田地域）

（２）　戦略２　社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

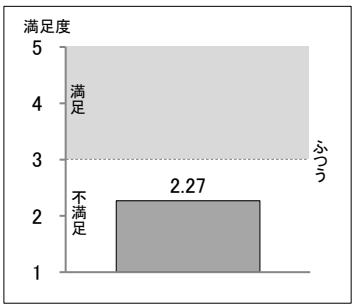
ア　成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

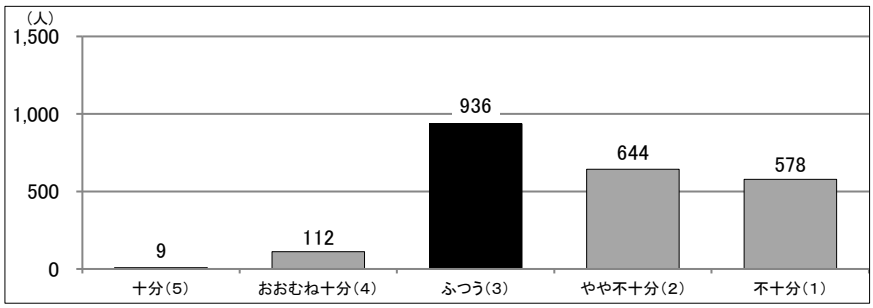
問 1-6　地域経済を牽引（けん）することができる競争力を持った企業が増えている。

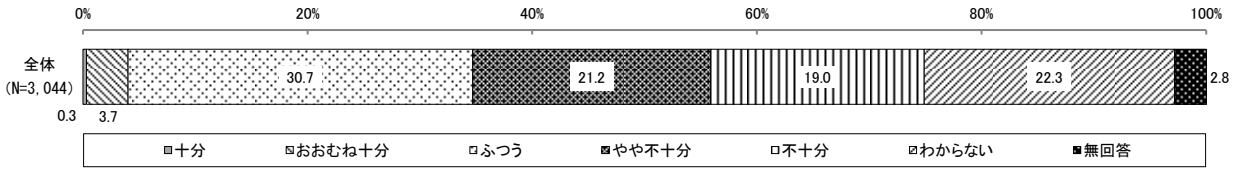
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.27 で、「ふつう」の３より 0.73 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

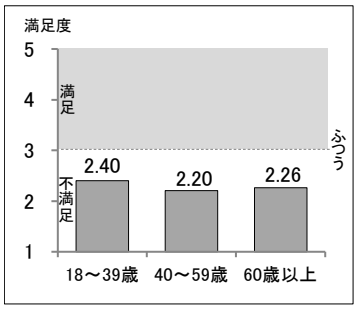
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 4.0%、「ふつう」は 30.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 40.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 34.7%であった。

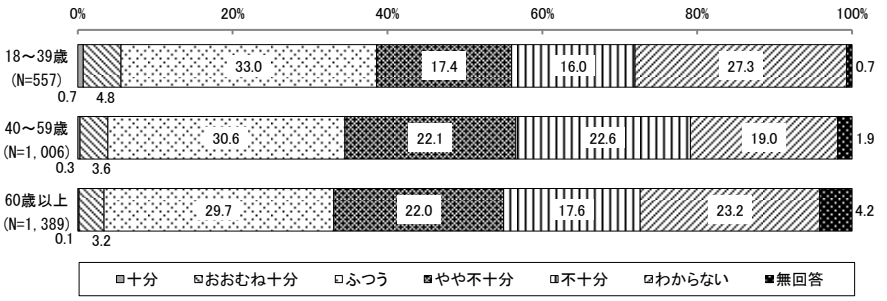






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.40 であり、不満を感じていない人の割合は 38.5%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.20 であり、不満を感じていない人の割合は 34.5%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,222 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、280 人（22.9%）から回答があった。

回答の一部

- 大手医療機器メーカーなどで仕事についている若者は多いが、まだまだ他分野などの企業が足りない。（男性／70 歳以上／北秋田地域）
- 地域経済を牽引することができる競争力を持った企業はまだ少ないと思う。そもそも県央に集中しているので、県南、県北地域だとそれほど感じられない。（男性／50 歳代／仙北地域）
- 競争力を持つ企業はあるが、特定の企業に偏っていて、力のある企業が増えているとはいえないと感じる。（女性／40 歳代／仙北地域）

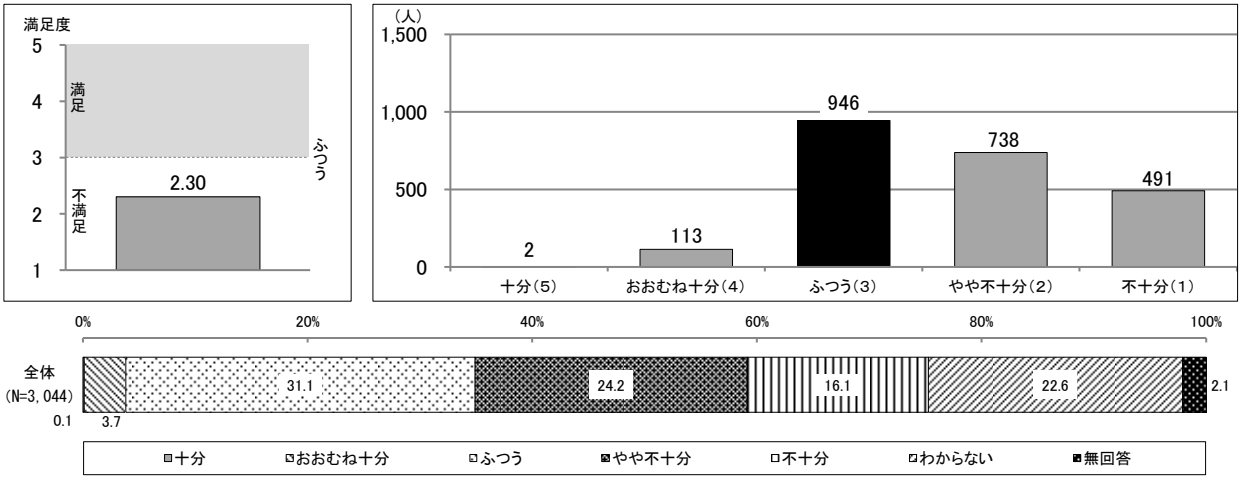
イ　中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

問 1-7　中小企業の安定した経営が確保されている。

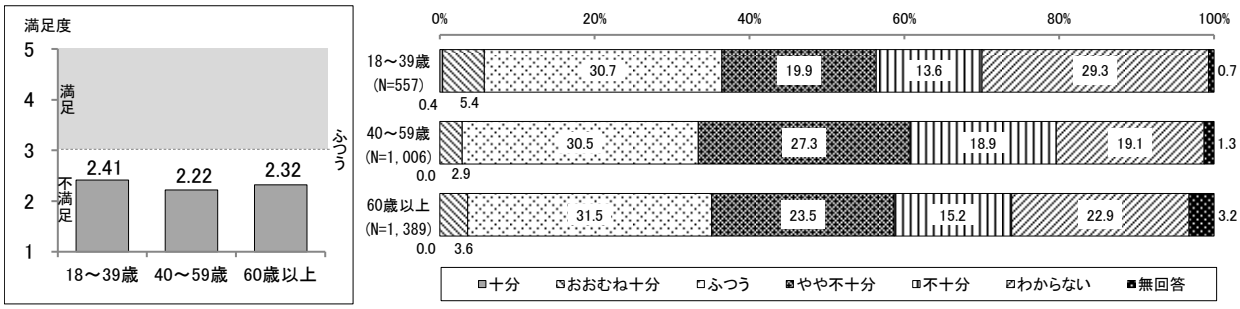
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.30 で、「ふつう」の３より 0.70 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 3.8%、「ふつう」は 31.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 40.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 34.9%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.41 であり、不満を感じていない人の割合は 36.5%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.22 であり、不満を感じていない人の割合は 33.4%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,229 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、235 人（19.1%）から回答があった。

回答の一部

- 後継者の育成が進んでいない。これは秋田の産業全体に感じられる。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 新型コロナウイルスの影響が大きく、休業している企業が多々ある。（男性／50 歳代／仙北地域）
- 余裕のある経営をしている企業はごくわずかだと思う。何かあれば経営が苦しくなる会社がたくさんあると思う。（女性／50 歳代／平鹿地域）

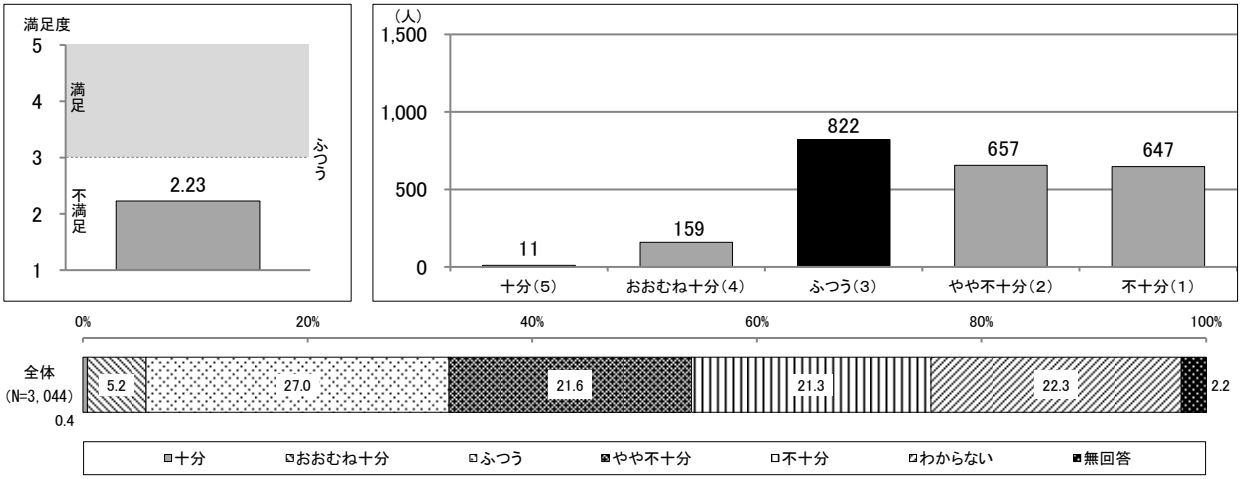
ウ　国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

問 1-8　企業誘致が進んでいる。

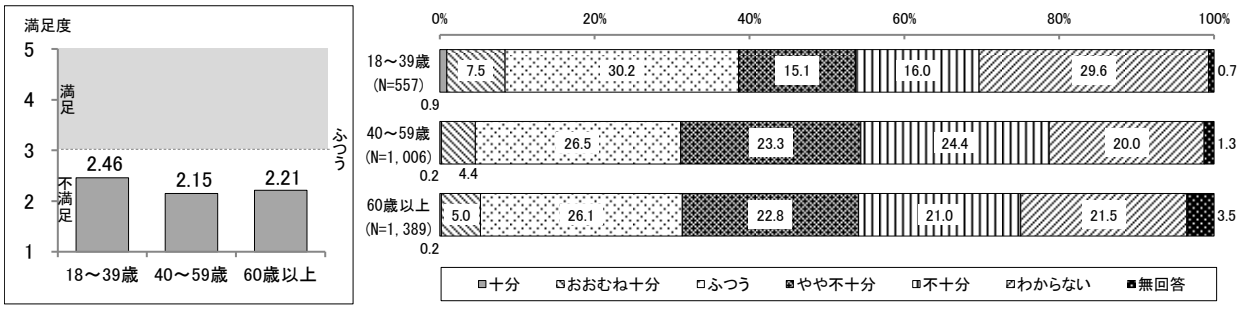
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.23 で、「ふつう」の３より 0.77 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 5.6%、「ふつう」は 27.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 42.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 32.6%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.46 であり、不満を感じていない人の割合は 38.6%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.15 であり、不満を感じていない人の割合は 31.1%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,304 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、285 人（21.9%）から回答があった。

回答の一部

- 企業誘致のために、県内あらゆる所に工業団地を造成したが、ほとんどが空地となっている。（男性／40 歳代／秋田地域）
- もう少し大型の企業誘致をして大規模な雇用を望む。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 企業誘致は、秋田市には増えているかもしれないが、その他の地域はまだまだだと思う。（女性／50 歳代／仙北地域）

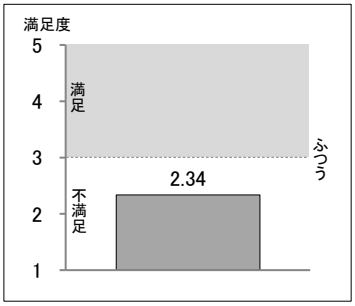
エ　産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

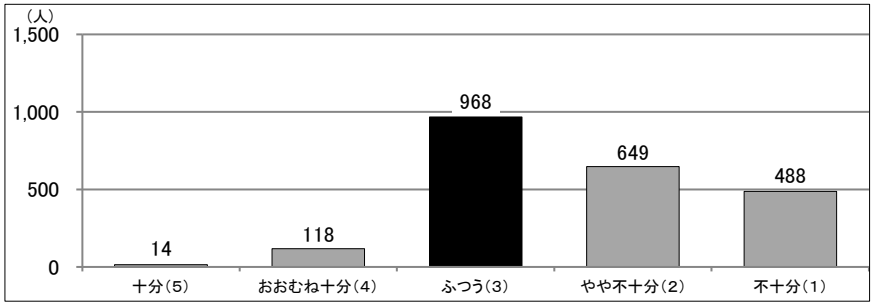
問 1-9　産業人材の確保・育成が進んでいる。

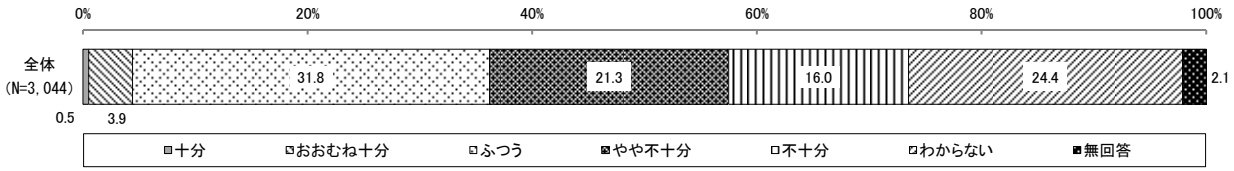
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.34 で、「ふつう」の３より 0.66 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

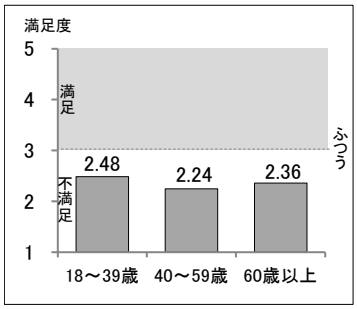
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 4.4%、「ふつう」は 31.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 37.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 36.2%であった。

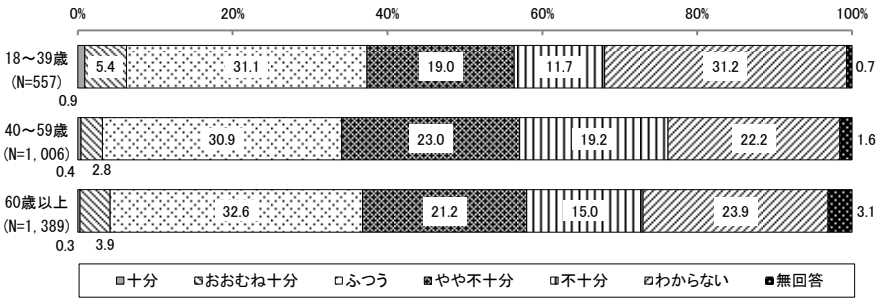






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.48 であり、不満を感じていない人の割合は 37.4%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.24 であり、不満を感じていない人の割合は 34.1%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,137 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、191 人（16.8%）から回答があった。

回答の一部

- 優秀な人材が流出、もしくは地元、地域に帰ってこない。外で育成されそのまま外で活躍しているのが問題。（性別不明／年代不明／居住地域不明）
- 優秀な人材はやはり県外に出る人が多く、県内に残る優秀な人材が少ない中で、自社内での人材育成が一番大切なこととは思いますが、中小企業にとってそのような余裕と部署等を置くのは、現実には無理だと思います。（男性／50 歳代／北秋田地域）
- 専門的な知識を学べる場所が少ない。これでは若者定着に繋がらないと思う。現存の学校で学べる種類を増やすとか、新たに開設してあげたりすることが必要だと思う。（女性／20 歳代／平鹿地域）

（３）　戦略３　新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

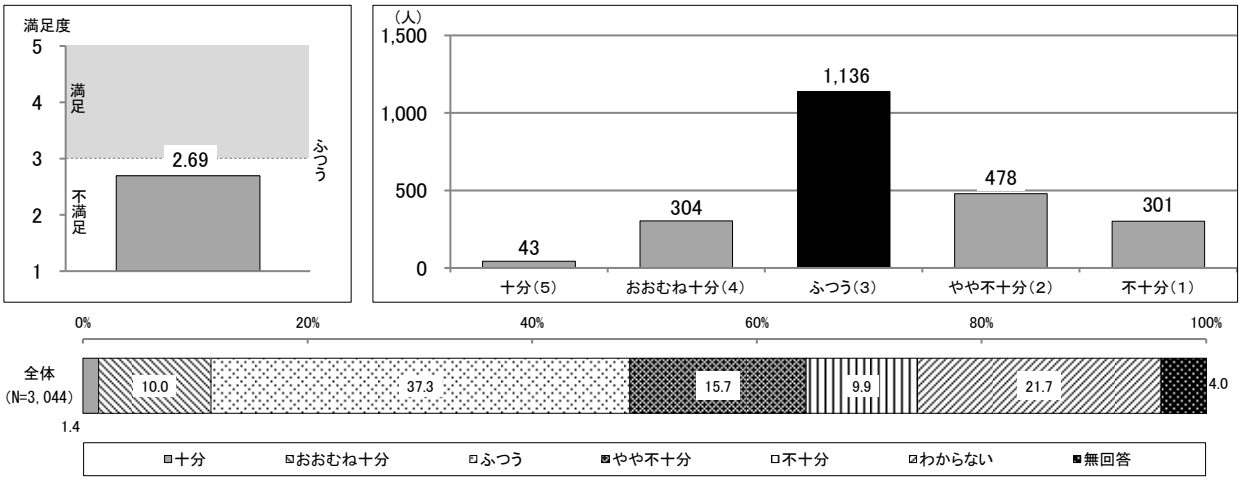
ア　秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

問 1-10　農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。

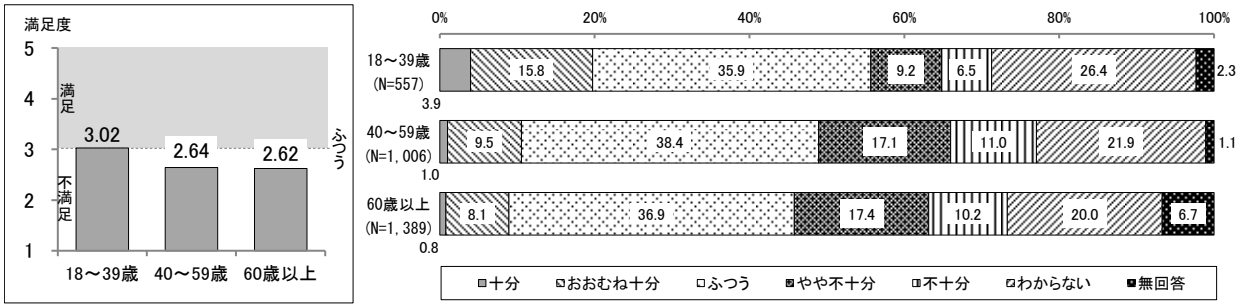
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.69 で、「ふつう」の３より 0.31 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 11.4%、「ふつう」は 37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 25.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 48.7%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.02 であり、不満を感じていない人の割合は 55.6%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.62 であり、不満を感じていない人の割合は 45.8%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 779 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、250 人（32.1%）から回答があった。

回答の一部

- 高齢化により後継者がいない。（女性／70 歳以上／由利地域）
- 若者が農業でもっと働ける環境や組織を整えてほしい。また、学校教育の中で、早くから農業の魅力や秋田の農業に触れたり学んだりする機会を増やしてほしい。そうすることで、若者の意識が変わっていくのではないだろうか。（女性／50 歳代／秋田地域）
- 農業県と言われる本県で、米づくりで採算が取れないと言う声を良く聞くし、林業、水産業も盛んであるとは思えない。このような状況で元気で活躍しているとは言えない。（女性／70 歳以上／秋田地域）

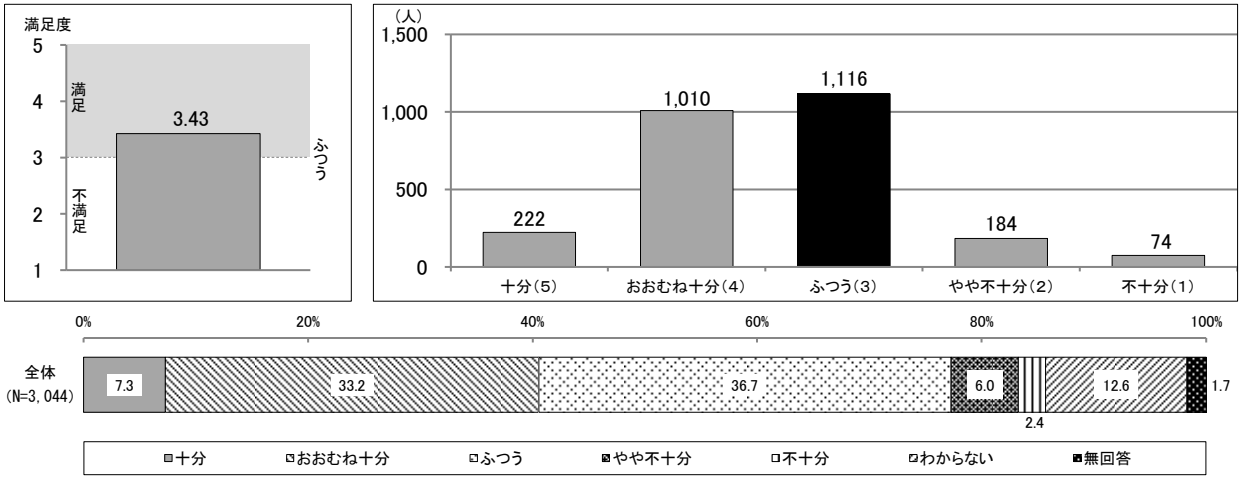
イ　複合型生産構造への転換の加速化

問 1-11　えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。

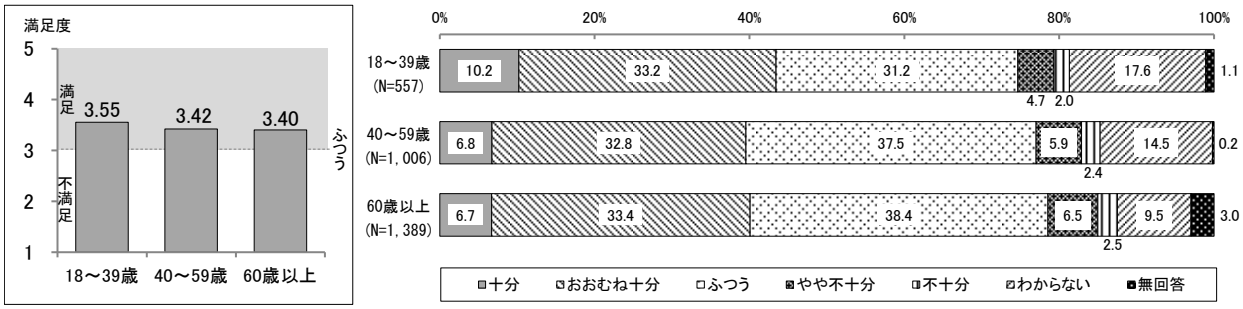
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.43 で、「ふつう」の３より 0.43 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 40.5%、「ふつう」は 36.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 8.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 77.2%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.55 であり、不満を感じていない人の割合は 74.6%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 3.40 であり、不満を感じていない人の割合は 78.5%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 258 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、84 人（32.6%）から回答があった。

回答の一部

- 生産も重要だが、販売はもっと重要。ここをどうするのか。秋田の場合は、売り込みが下手。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 県内のニュース等から、最近野菜づくりでだいぶ頑張っていると感じているが、果たして首都圏でどれほど秋田県の野菜や牛肉が認知されているか疑問である。もっと秋田の食材をアピールして認知度を高める必要があるのではないか。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 県内の人にもっと周知することで県外へも広まっていくと思う。（男性／30 歳代／秋田地域）

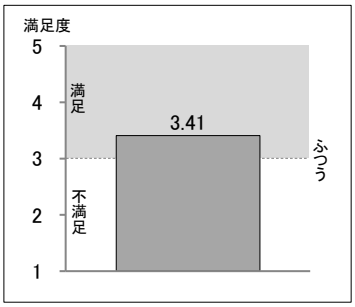
ウ　秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

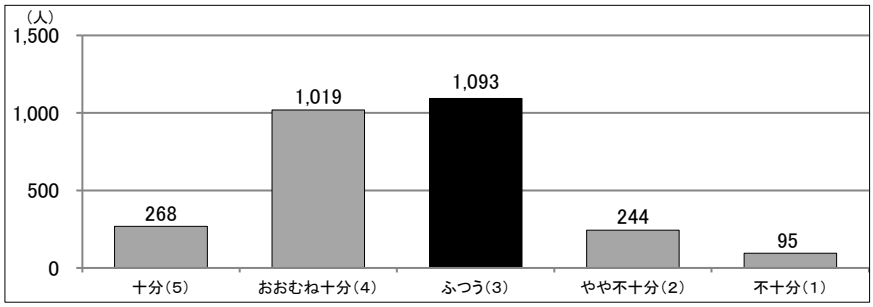
問 1-12　あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。

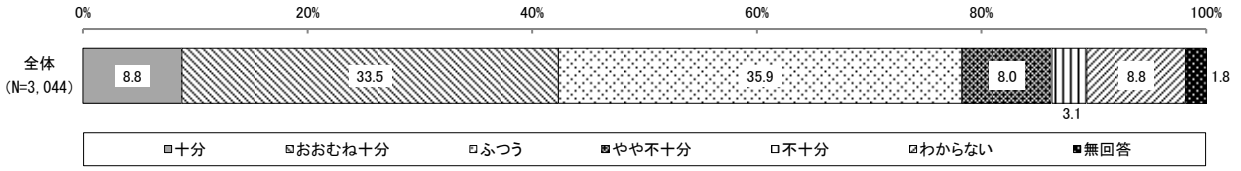
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.41 で、「ふつう」の３より 0.41 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

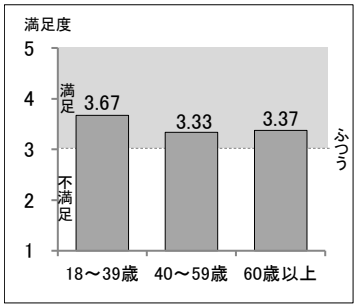
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 42.3%、「ふつう」は 35.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 11.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 78.2%であった。

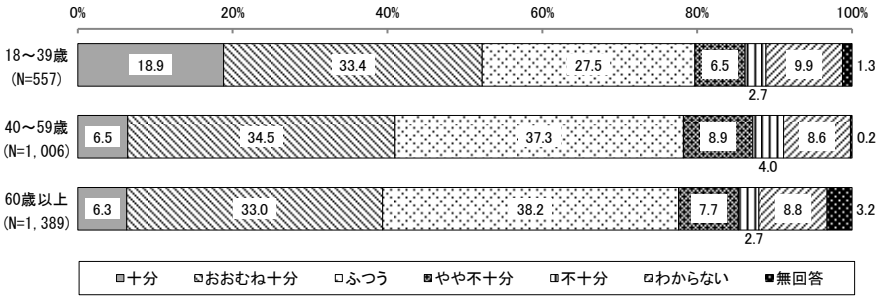






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.67 であり、不満を感じていない人の割合は 79.8%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 3.33 であり、不満を感じていない人の割合は 78.3%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 339 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、123 人（36.3%）から回答があった。

回答の一部

- 他県に比べ、品種や銘柄が少ない。同銘柄でも品質にバラツキがある。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 隣県の青森、山形などに比べて相当遅れている。あきたこまちに頼りすぎ。今年になってやっと新しい品種が出てきたが、これが全国的なブランドになれるのか、すべて県のＰＲ戦略次第。（男性／70 歳代／北秋田地域）
- 間もなく期待の新品種「秋系 821」がデビューするが、産地間競争に打ち勝つためにも良質の米を生産し、大々的に秋田米をアピールするべきである。（男性／60 歳代／秋田地域）

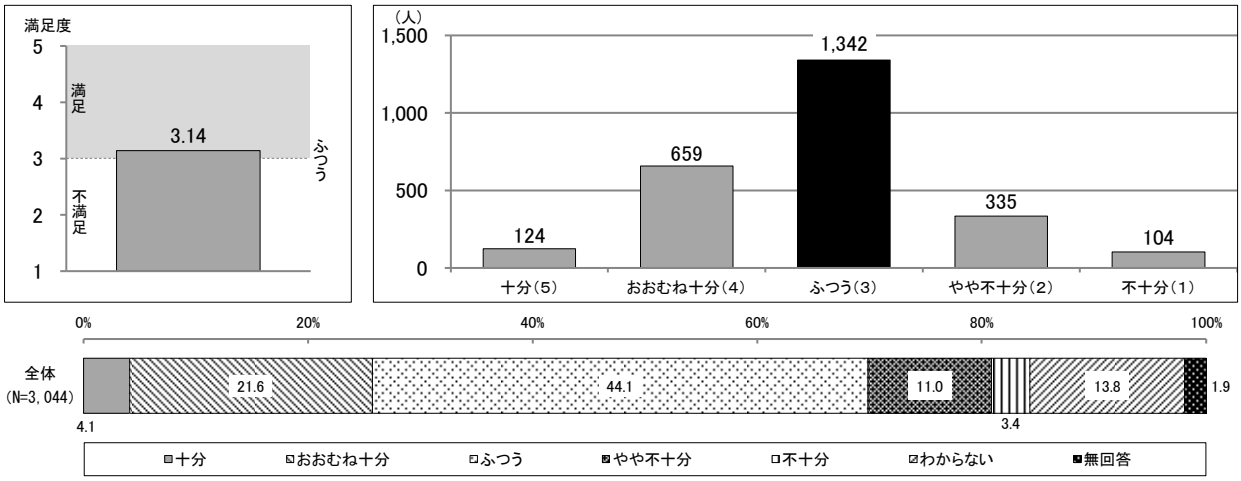
エ　農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

問 1-13　飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。

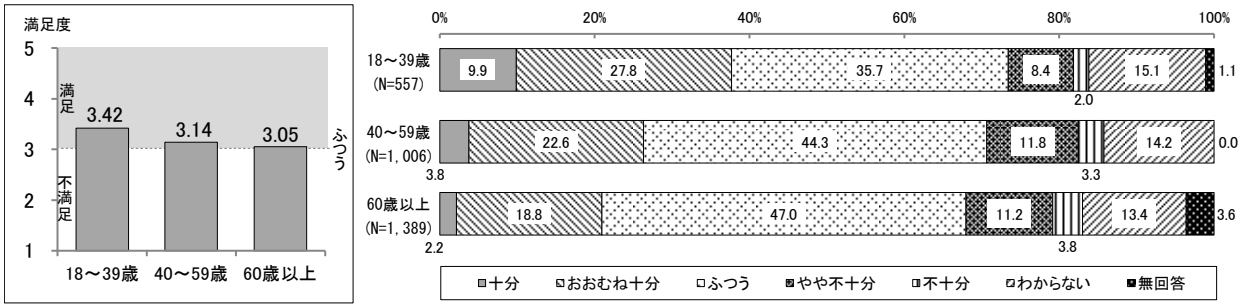
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.14 で、「ふつう」の３より 0.14 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 25.7%、「ふつう」は 44.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 14.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 69.8%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.42 であり、不満を感じていない人の割合は 73.4%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 3.05 であり、不満を感じていない人の割合は 68.0%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 439 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、103 人（23.5%）から回答があった。

回答の一部

- 県産品のポテンシャルは非常に高く、加工品づくりも盛んに行われていると思いますが、ＰＲ不足だと思います。ＳＮＳや動画サイトを有効に使って宣伝してほしい。（男性／30 歳代／由利地域）
- いい食材が多いので、もっと全国的な企業とコラボする等すれば知名度をあげられると思う。もったいない感じがする。（女性／30 歳代／鹿角地域）
- 県内の加工品がなかなか身近に感じられない。地元のスーパー等で見つけづらい印象を受ける。（女性／50 歳代／秋田地域）

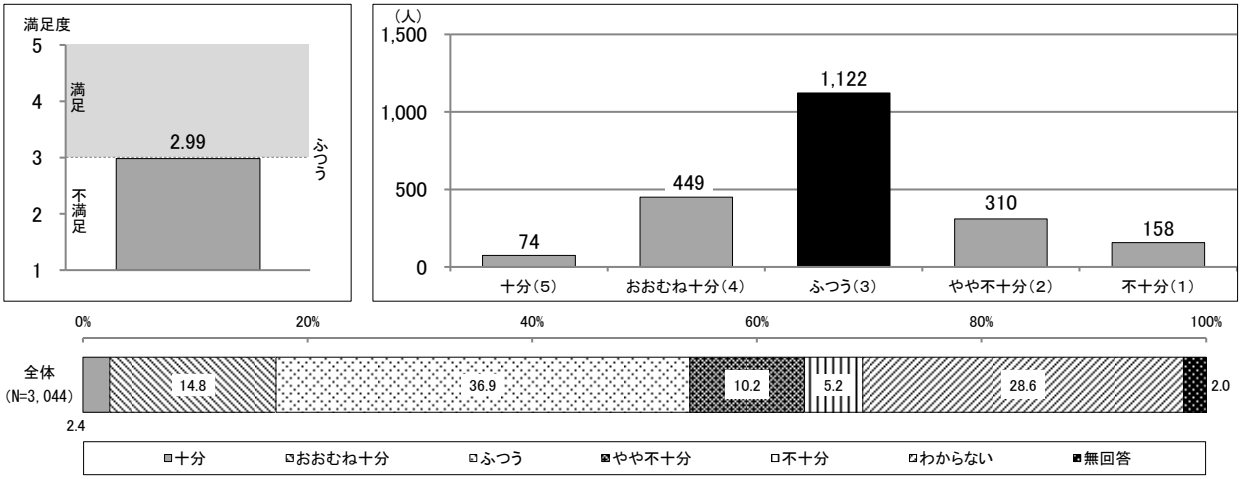
オ　「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

問 1-14　秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。

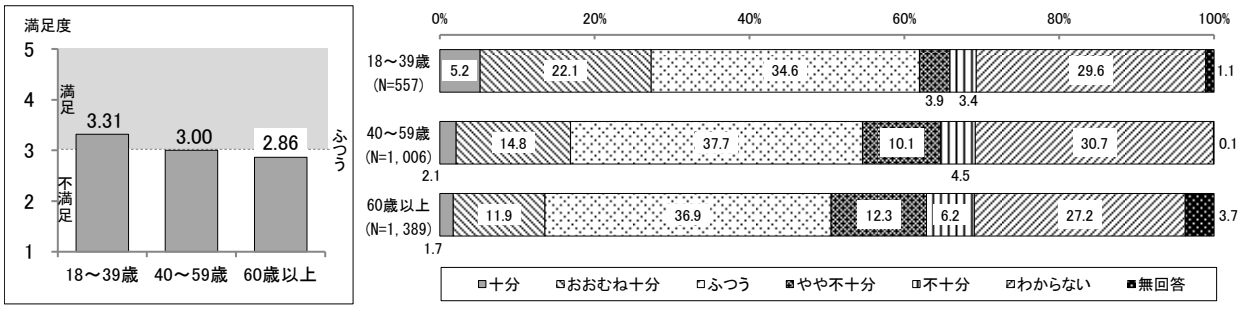
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.99 で、「ふつう」の３より 0.01 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 17.2%、「ふつう」は 36.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 15.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 54.1%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.31 であり、不満を感じていない人の割合は 61.9%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.86 であり、不満を感じていない人の割合は 50.5%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 468 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、91 人（19.4%）から回答があった。

回答の一部

- 県や市、国の事業では建築建材として利用されているが、対個人では安い輸入材が多く使われている。もっと個人での利用を促すべき。（男性／40 歳代／秋田地域）
- 国立競技場建設の一部に秋田スギを使用したと聞いているが、一過性にならずに継続的に建築資材として使用されるよう、大手建築会社と連携を図り販売体制を構築すべきである。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 荒廃しかけている山林も見かける。手入れをきちんとすればもっと良い木材が多く生産でき、値段も下がるのではないか。（女性／60 歳代／由利地域）

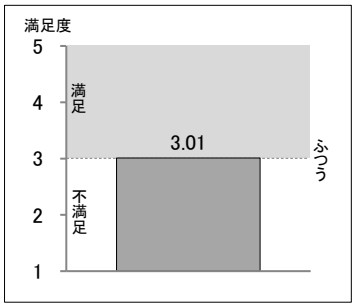
カ　つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

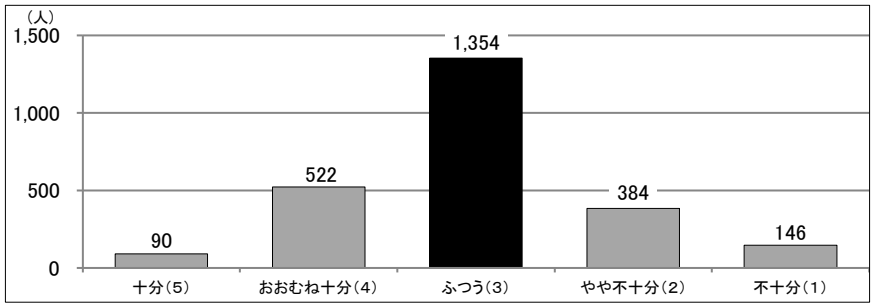
問 1-15　ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。

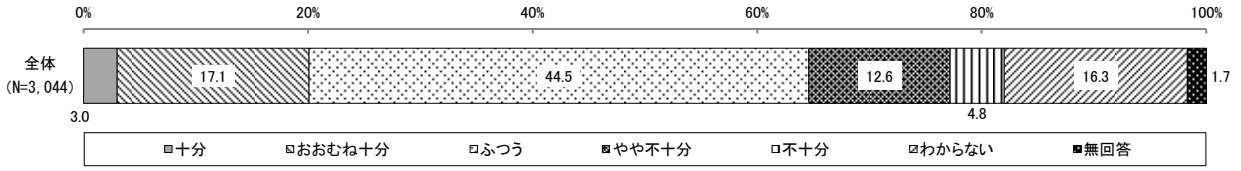
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.01 で、「ふつう」の３より 0.01 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

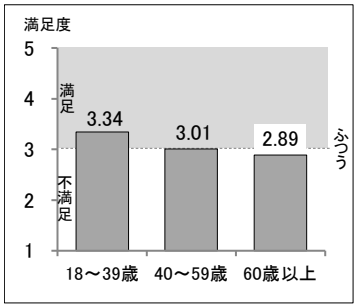
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 20.1%、「ふつう」は 44.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 17.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 64.6%であった。

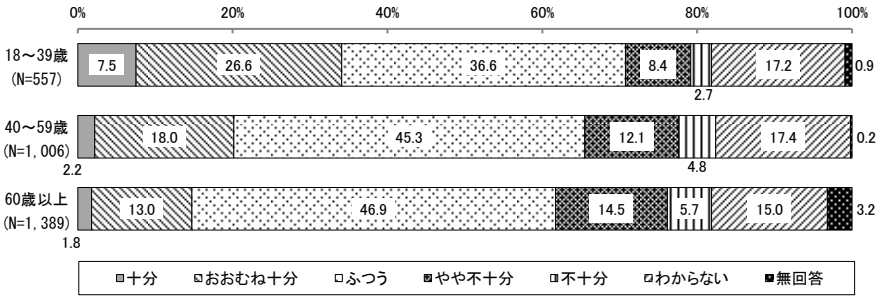






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.34 であり、不満を感じていない人の割合は 70.7%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.89 であり、不満を感じていない人の割合は 61.7%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 530 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、136 人（25.7%）から回答があった。

回答の一部

- 海の近くに行くと道の駅等で県内産の魚をよくみかけるが、内陸部ではなかなか目にすることが少ない。（女性／60 歳代／仙北地域）
- マダイ、ヒラメ、サケに限らず、北限のフグやカニ等について、もう少し宣伝広報してネームバリューを高めることが必要だと思います。（男性／60 歳代／秋田地域）
- ハタハタは何年も食べていない。もっと増やしてほしい。（女性／40 歳代／秋田地域）

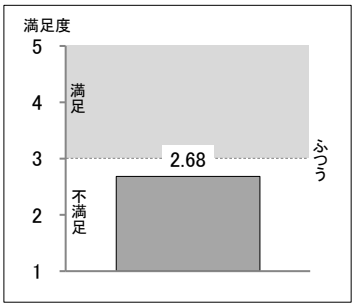
キ　地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

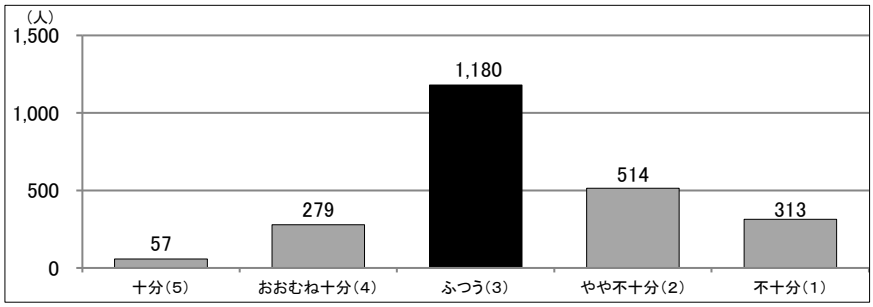
> 問 1-16　豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

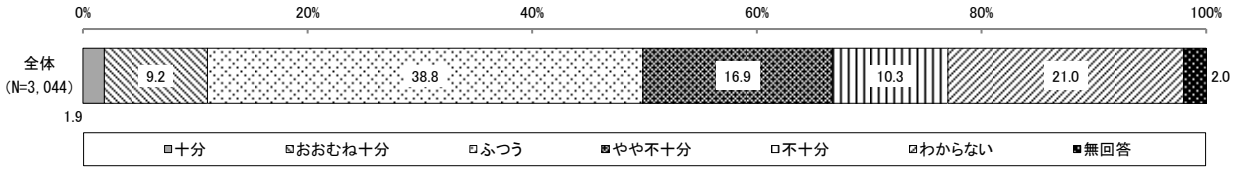
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.68 で、「ふつう」の３より 0.32 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

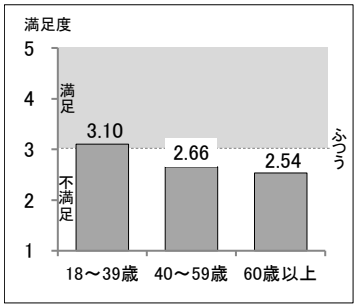
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 11.1%、「ふつう」は 38.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 27.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 49.9%であった。

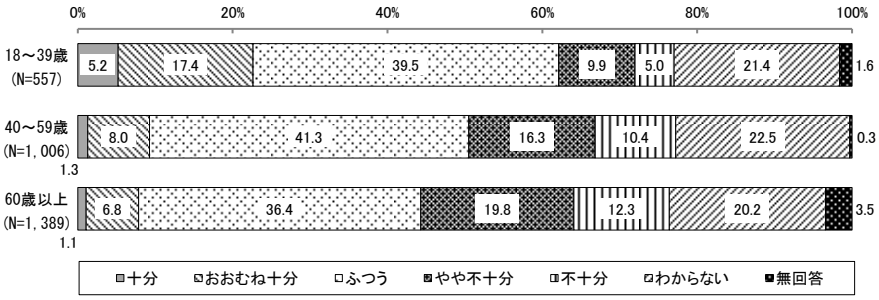






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.10 であり、不満を感じていない人の割合は 62.1%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.54 であり、不満を感じていない人の割合は 44.3%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 827 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、203 人（24.5%）から回答があった。

回答の一部

- 地域の限界集落化が進み、里山は荒れる一方。県は後継者不足にもっと力を入れてもらいたい。休耕田活用のため若い人にもっと農林業の魅力を発信し里山の保全に努めてもらいたい。そのために補助金を出すのもよいのではないかと思う。（男性／70 歳以上／北秋田地域）
- 高齢化・過疎化で、農地・森林が荒れている。（女性／60 歳代／由利地域）
- 以前見た景観と違っている。農地は作付けされてない所が多いし、草刈りもしないような所がある。熊が怖い。（女性／60 歳代／鹿角地域）

（４）　戦略４　秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略について

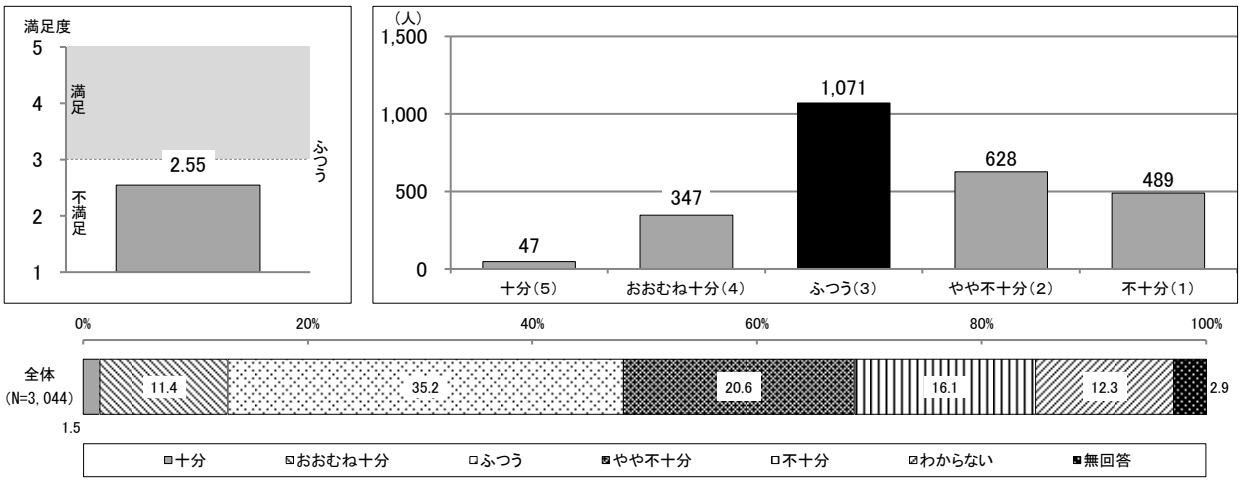
ア　地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

問 1-17　国内外から観光誘客が進んでいる。

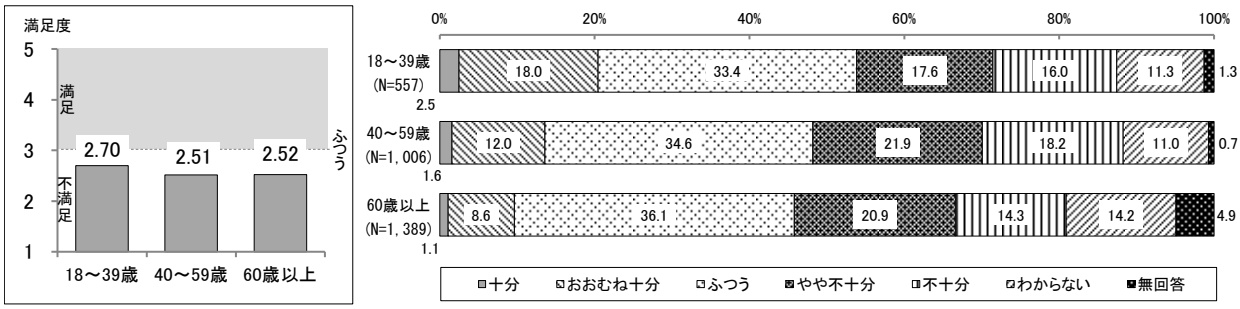
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.55 で、「ふつう」の３より 0.45 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 12.9%、「ふつう」は 35.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 36.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 48.1%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.70 であり、不満を感じていない人の割合は 53.9%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.51 であり、不満を感じていない人の割合は 48.2%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,117 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、299 人（26.8%）から回答があった。

回答の一部

- 通過点的な観光地はあると思うが、宿泊してじっくり観光という点ではまだ足りないと思う。（女性／50 歳代／雄勝地域）
- 観光コンテンツについては、既存の資源に依存し、新規開発、発掘が出きていないように感じる。（男性／40 歳代／秋田地域）
- 県内の観光地について、いろいろな手段をもっと積極的に活用しながらの外部へのＰＲが必要だと思います。（男性／50 歳代／北秋田地域）

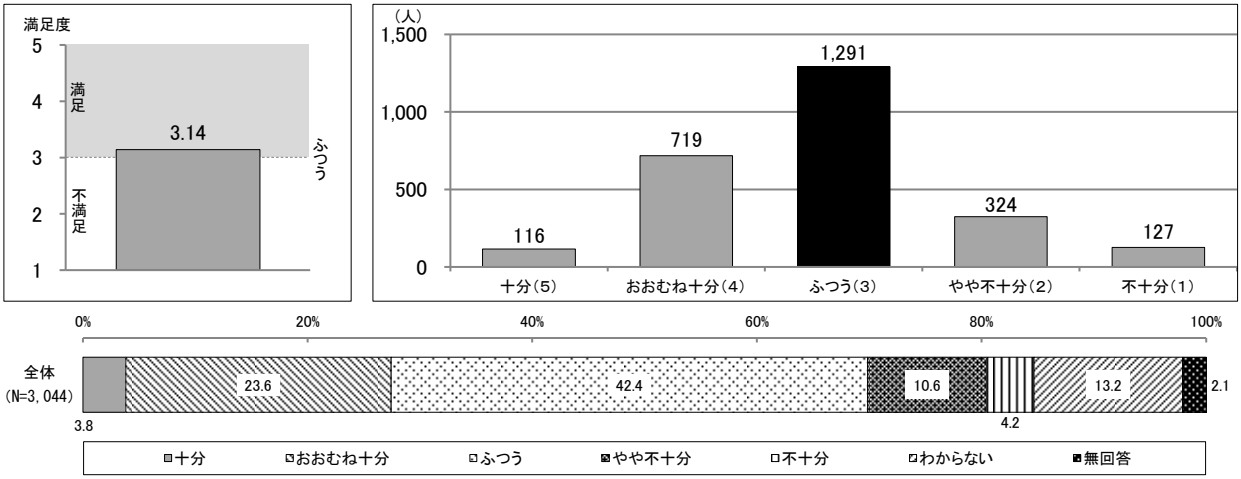
イ　「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

問 1-18　日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

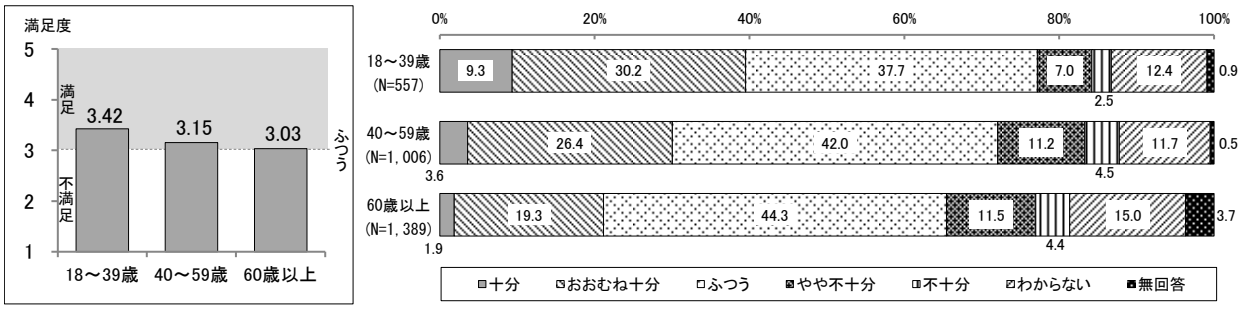
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.14 で、「ふつう」の３より 0.14 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 27.4%、「ふつう」は 42.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 14.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 69.8%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.42 であり、不満を感じていない人の割合は 77.2%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 3.03 であり、不満を感じていない人の割合は 65.5%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 451 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、78 人（17.3%）から回答があった。

回答の一部

- 流通している秋田の食品が他県と比べて盛んとは、とても言えない。（男性／70 歳以上／秋田地域）
- 日本酒の知名度は高いと思われるが、その他の食品は低い状況だと思う。（男性／70 歳以上／山本地域）
- 秋田の食品について、一過性にならないように、積極的なアピールの継続と安定供給の体制づくりに官民一体で取り組む必要あり。（男性／50 歳代／秋田地域）

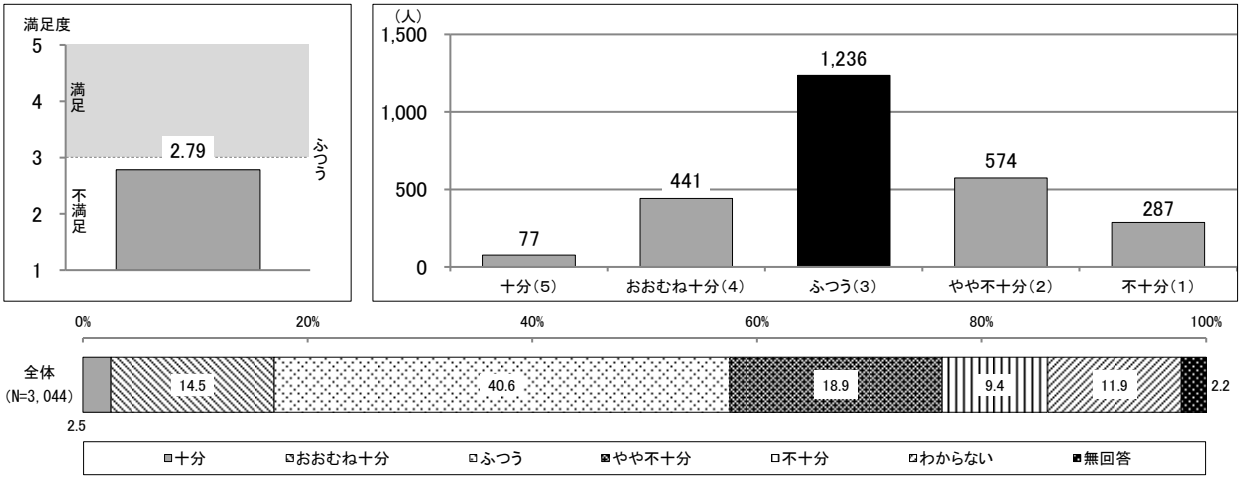
ウ　文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

問 1-19　国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

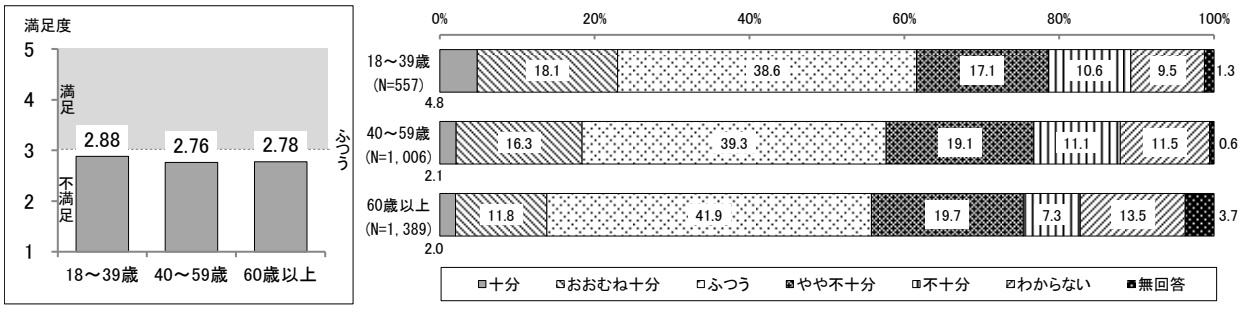
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.79 で、「ふつう」の３より 0.21 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 17.0%、「ふつう」は 40.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 28.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 57.6%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.88 であり、不満を感じていない人の割合は 61.5%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.76 であり、不満を感じていない人の割合は 57.7%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 861 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、153 人（17.8%）から回答があった。

回答の一部

- 秋田ならではの文化の魅力に県民自身が気づいてない。全国に発信するに足る、本当に魅力的なコンテンツを県民を交えて精査するべきである。（性別不明／年代不明／居住地域不明）
- もっと秋田の文化の魅力をネットなどを使って国内外の人に伝えることができればよい。（女性／60 歳代／秋田地域）
- なまはげが、あまりにも強すぎて、他の魅力ある文化が知られていない。（男性／70 歳以上／北秋田地域）

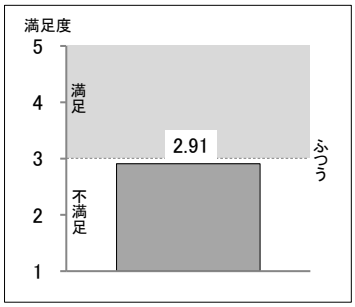
エ　「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

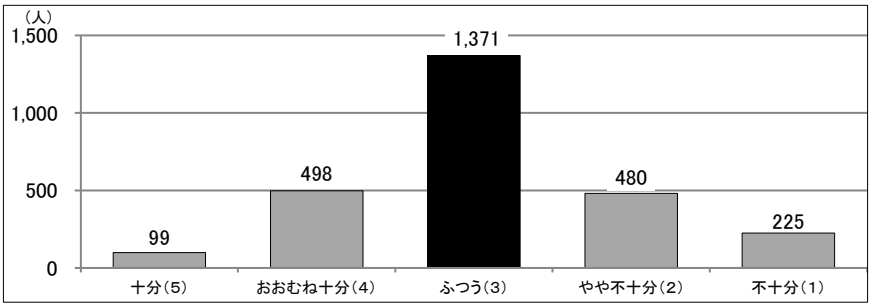
問 1-20　スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。

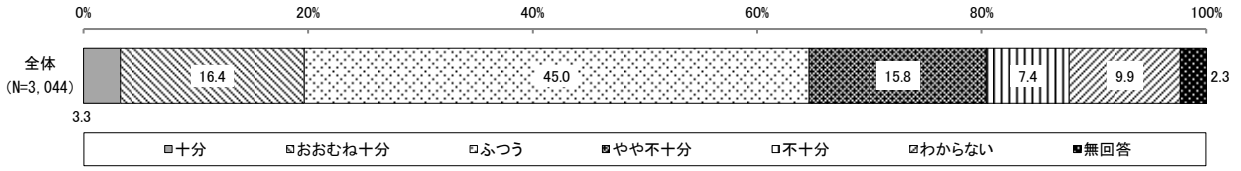
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.91 で、「ふつう」の３より 0.09 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

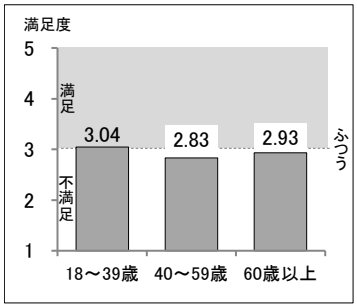
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 19.7%、「ふつう」は 45.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 23.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 64.7%であった。

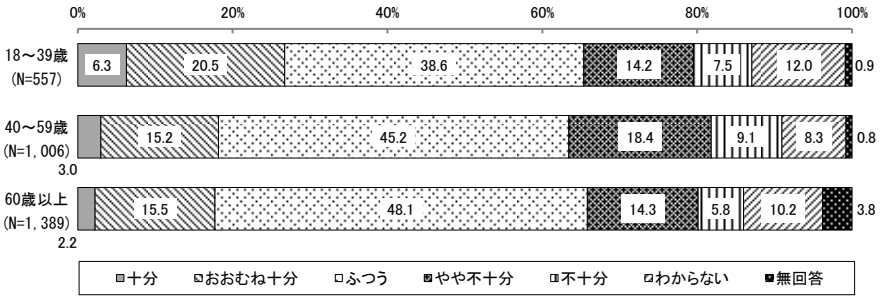






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.04 であり、不満を感じていない人の割合は 65.4%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.83 であり、不満を感じていない人の割合は 63.4%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 705 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、139 人（19.7%）から回答があった。

回答の一部

- 秋田市にいればスポーツの活気が感じられるが、地方に行けば「全く」と言っていいほど活気が感じられない。（性別不明／年代不明／居住地域不明）
- スポーツに関連する活動は増えてきているが、観戦、応援しやすい立地条件、交通手段があればもっとよいと思う。（女性／50 歳代／秋田地域）
- 県内のプロスポーツチームがもっと強くなければ、地域の活気はもたらされないのでは。（男性／60 歳代／平鹿地域）

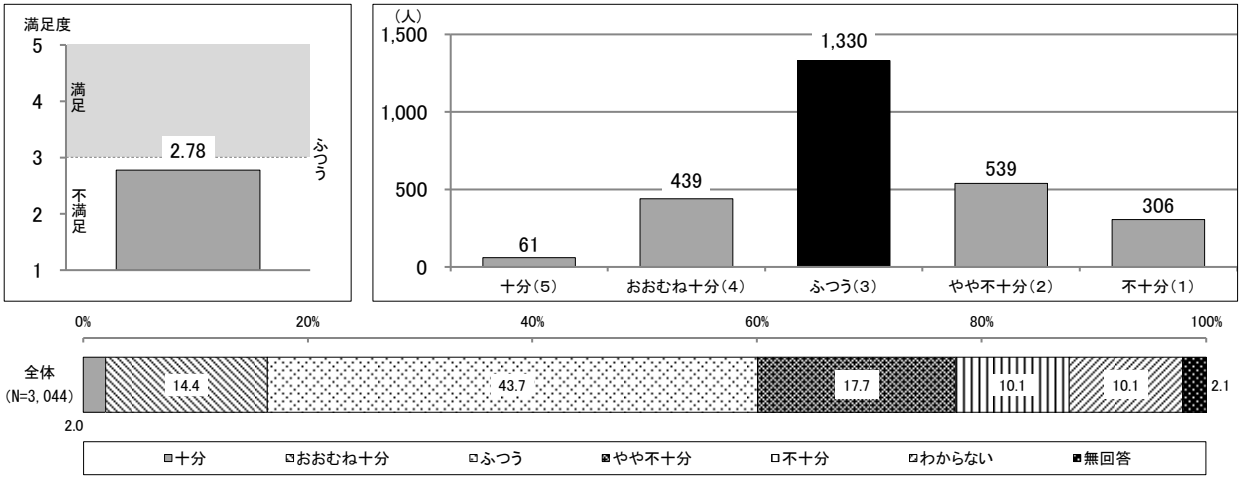
オ　県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

問 1-21　地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

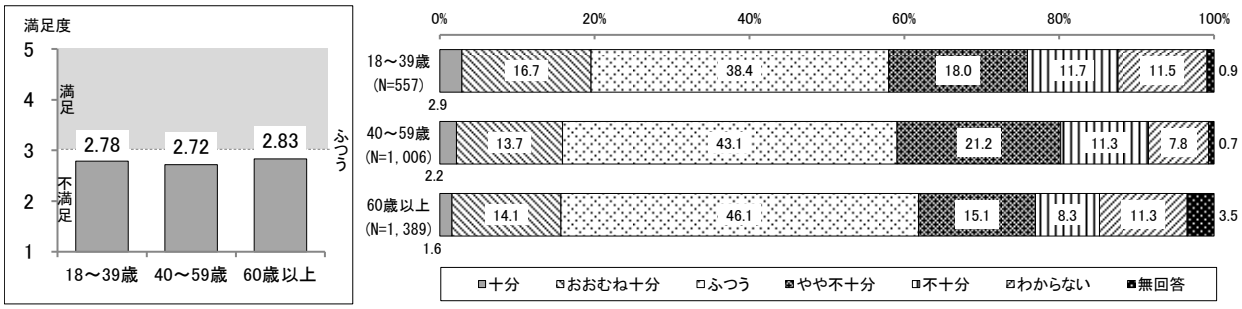
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.78 で、「ふつう」の３より 0.22 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 16.4%、「ふつう」は 43.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 27.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 60.1%であった。



年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.83 であり、不満を感じていない人の割合は 61.8%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.72 であり、不満を感じていない人の割合は 59.0%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 845 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、178 人（21.1%）から回答があった。

回答の一部

- 県南、中央は道路整備が進んでいるが、県北は進んでいない。秋田市まで一時間で行けないのは、県北だけである。（男性／70 歳以上／北秋田地域）
- まだ、ガタガタな道路や整備されていない場所が多いので、そこを重点的に直すことから始めてほしい。（男性／20 歳代／秋田地域）
- 他県に比べ片側２車線の距離が相当短い。（男性／50 歳代／仙北地域）

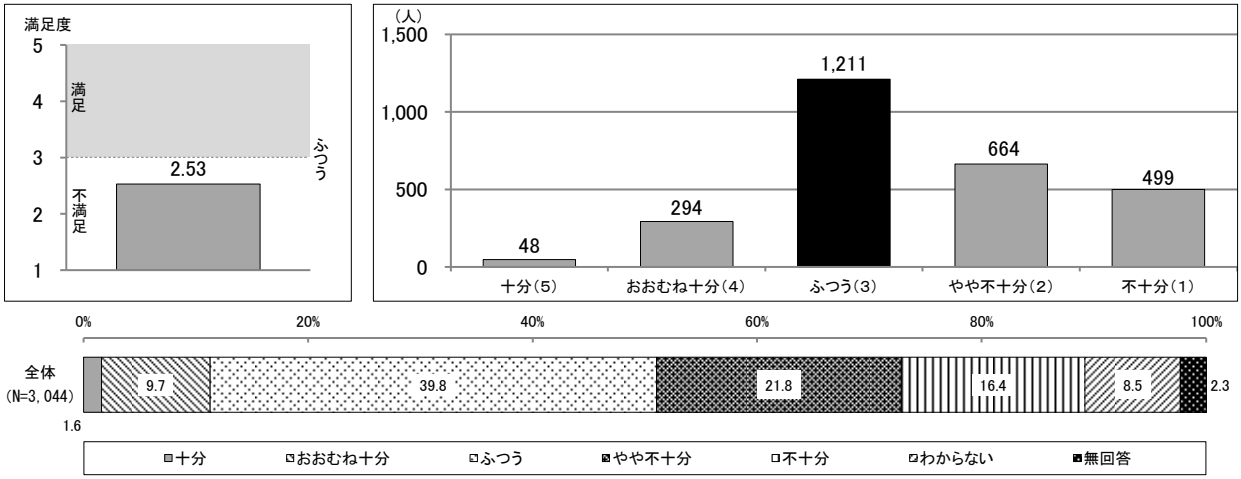
カ　交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

問 1-22　鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。

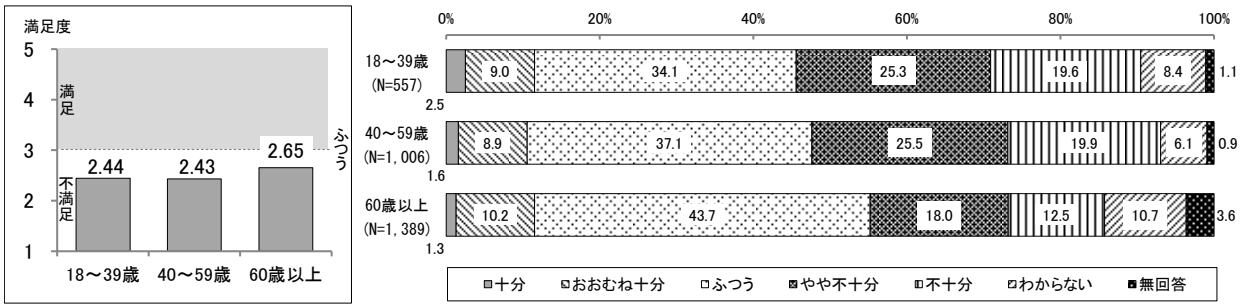
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.53 で、「ふつう」の３より 0.47 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 11.3%、「ふつう」は 39.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 38.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 51.1%であった。



年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.65 であり、不満を感じていない人の割合は 55.2%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.43 であり、不満を感じていない人の割合は 47.6%であった。



（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,163 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、281 人（24.2%）から回答があった。

回答の一部

- 自家用車が普及し、公共交通機関の利用客が少ないためか、公共交通機関の本数が少なく不便である。（女性／50 歳代／由利地域）
- 秋田空港から各都市への便数はそこそこであるが、秋田市内から空港までが不便である。車かリムジンバスしかない。（男性／40 歳代／秋田地域）
- 秋田新幹線の盛岡～角館はカーブが多すぎて超低速と言っても過言でない。（男性／60 歳代／秋田地域）

（５）　戦略５　誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について

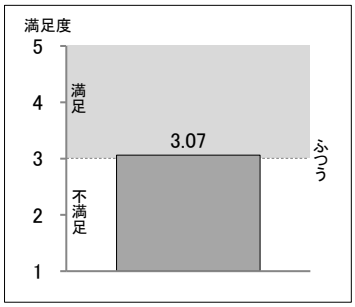
ア　健康寿命日本一への挑戦

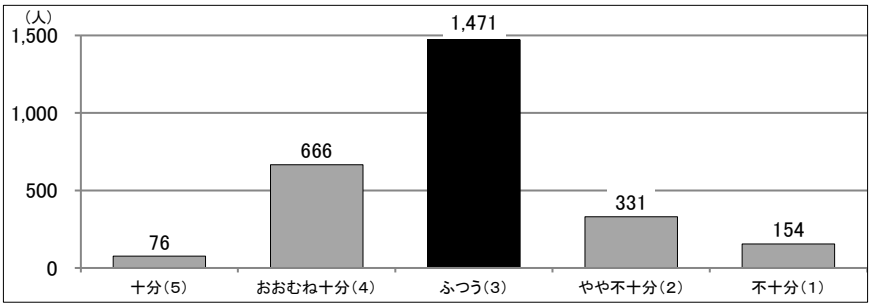
> 問 1-23　食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

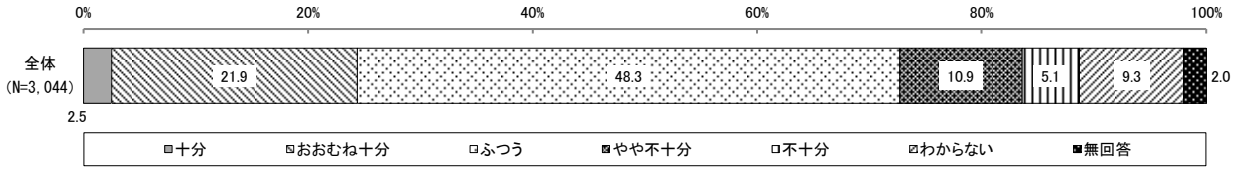
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.07 で、「ふつう」の３より 0.07 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

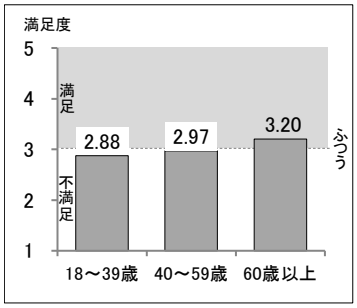
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 24.4%、「ふつう」は 48.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 16.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 72.7%であった。

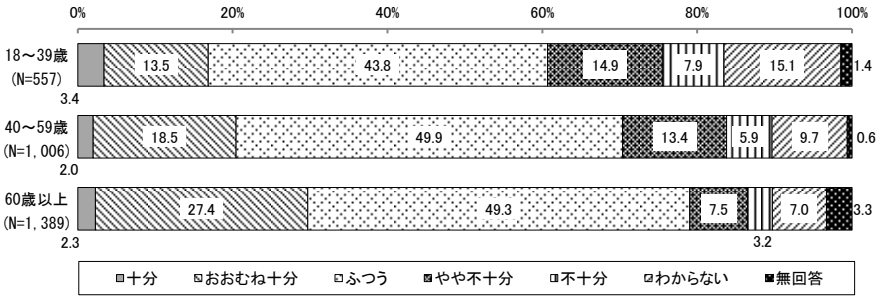






年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 3.20 であり、不満を感じていない人の割合は 79.0%であった。一方、「18～39 歳」の満足度は 2.88 であり、不満を感じていない人の割合は 60.7%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 485 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、127 人（26.2%）から回答があった。

回答の一部

- 年齢による差がある。意識は低い。今まで塩分の多い食事を続けてきた年代の人々は、急に食生活を変えられないだろう。（女性／50 歳代／秋田地域）
- 歩きたばこや自転車に乗りながらの危険な喫煙者が多く、常識の無いところでの喫煙者も目立っているので、それを制限する活動や施策が必要だと思う。（男性／20 歳代／秋田地域）
- 平均寿命は全国で最下位を争っているレベル。受診率も低いと思う。市町村単位で受診率を上げ、健康づくりに取り組んでいくべき。（男性／20 歳代／山本地域）

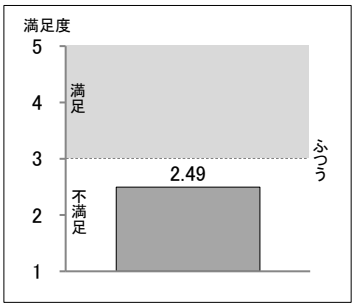
イ　心の健康づくりと自殺予防対策

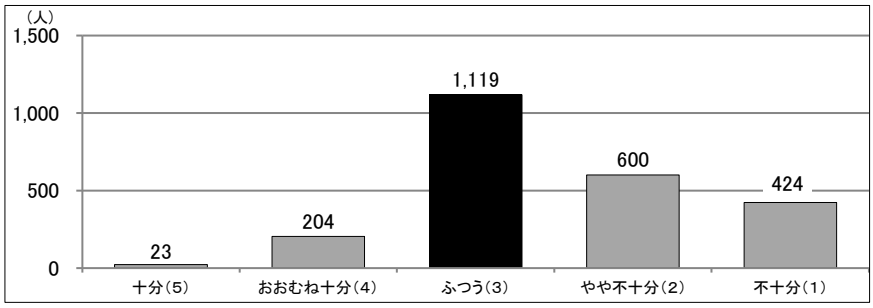
問 1-24　誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

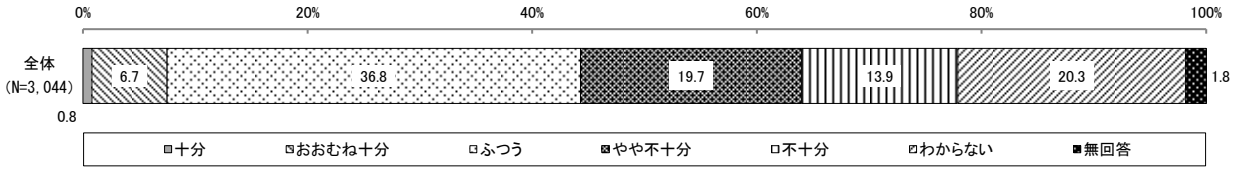
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.49 で、「ふつう」の３より 0.51 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

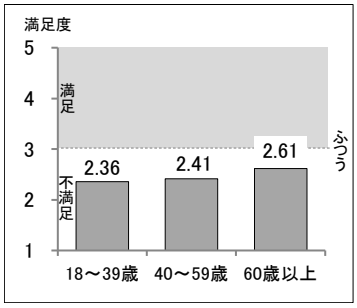
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 7.5%、「ふつう」は 36.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 33.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 44.3%であった。

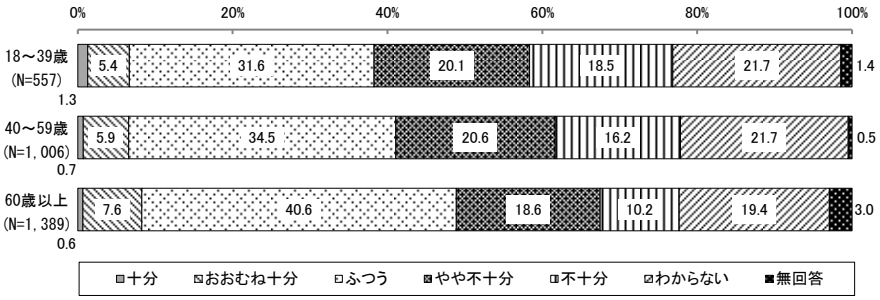






年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.61 であり、不満を感じていない人の割合は 48.8%であった。一方、「18～39 歳」の満足度は 2.36 であり、不満を感じていない人の割合は 38.3%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,024 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、229 人（22.4%）から回答があった。

回答の一部

- 相談することが恥ずかしい、相談先がわからないという方が依然多いという印象を持っている。専門家への無料相談の機会が少ないのも問題である。気軽に相談してみようと思わせる機運づくりが求められる。（男性／40 歳代／秋田地域）
- 対面のみならず、電話やメール、ネット等も駆使して、もっと相談しやすい環境にした方が良いと思う。（女性／40 歳代／秋田地域）
- 自分から助けを求める信号を出せる人は少なく、家族など気づける人を多くすることで相談しやすい環境が整うと思う。（男性／20 歳代／仙北地域）

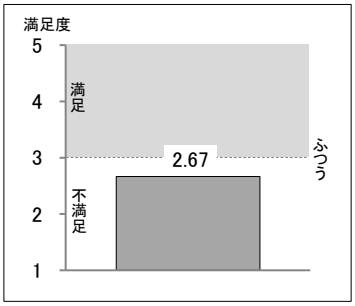
ウ　医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

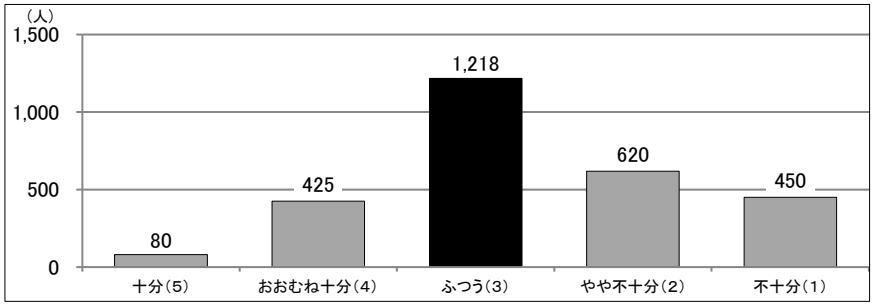
問 1-25　どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

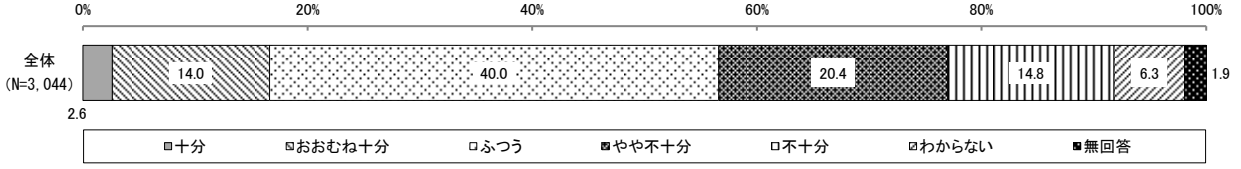
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.67 で、「ふつう」の３より 0.33 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

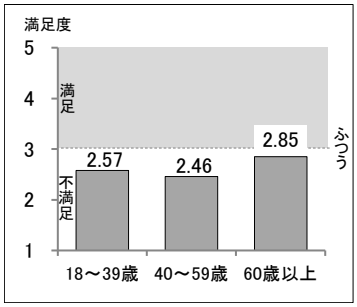
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 16.6%、「ふつう」は 40.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 35.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 56.6%であった。

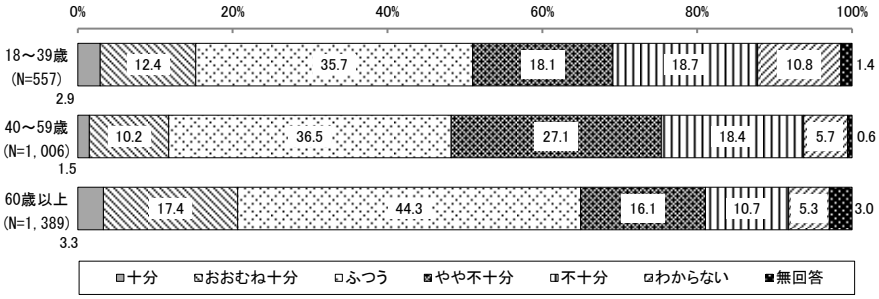






年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.85 であり、不満を感じていない人の割合は 65.0%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.46 であり、不満を感じていない人の割合は 48.2%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,070 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、268 人（25.0%）から回答があった。

回答の一部

- 県中央と、県北、県南の医師の偏差が著しい。秋田大学医学部への県推薦枠が生かされていないように感じられる。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 高度医療体制が秋田市に集中しており、ますます地域格差が広がっている。高齢化社会を迎え、どの地域においても高度な治療を受けられる体制を早急に整備してもらいたい。（男性／70 歳以上／北秋田地域）
- 産婦人科が少なく、出産を始め、婦人科検診などで病院の選択肢がない。（女性／30 歳代／北秋田地域）

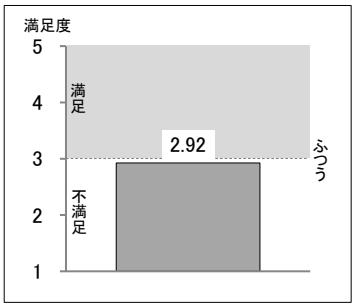
エ　高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

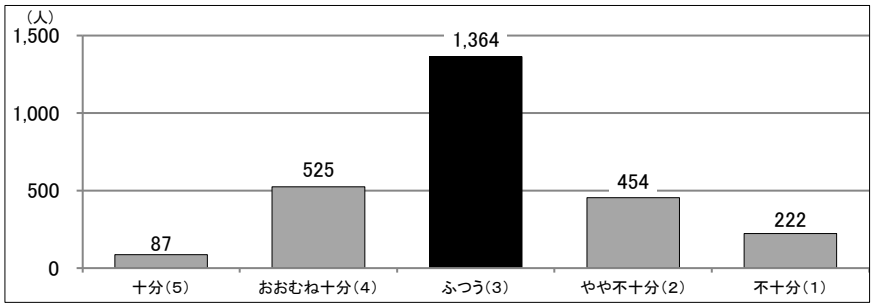
問 1-26　高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。

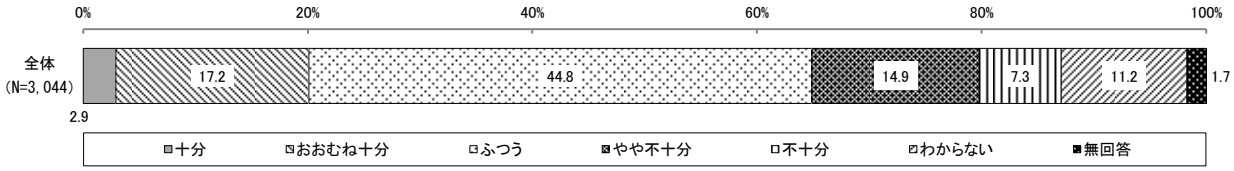
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.92 で、「ふつう」の３より 0.08 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

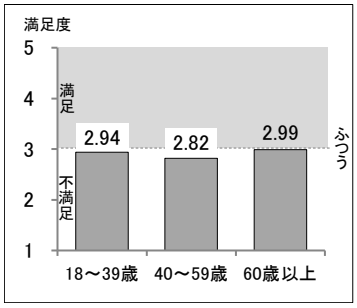
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 20.1%、「ふつう」は 44.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 22.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 64.9%であった。

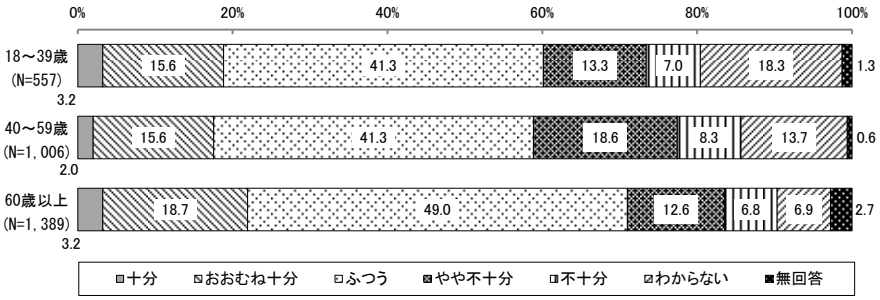






年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.99 であり、不満を感じていない人の割合は 70.9%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.82 であり、不満を感じていない人の割合は 58.9%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 676 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、129 人（19.1%）から回答があった。

回答の一部

- 介護施設はどこも人手不足と聞く。丁寧なサービスが受けられるように人材の確保を進めてほしい。（女性／30 歳代／仙北地域）
- 住み慣れた地域では介護サービス受けることができない。満杯で入所待ちの人が多い。（女性／50 歳代／秋田地域）
- 環境が整っていないのではないか。郊外店を例に挙げると、身体障害者優先駐車ゾーンは整備しているが、誰が停めてもお構いなし。これだと身体障害者の方々は肩身の狭い思いをするだけ。（男性／50 歳代／山本地域）

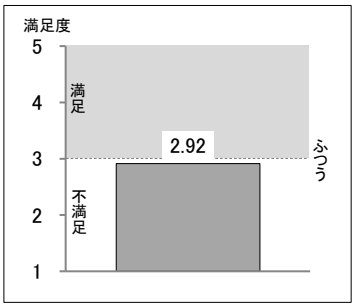
オ　次代を担う子どもの育成

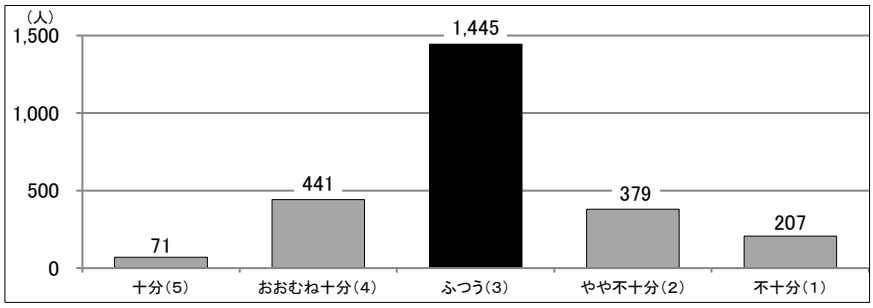
問 1-27　全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。

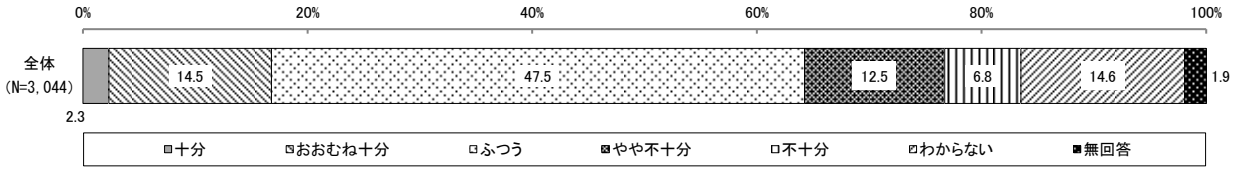
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.92 で、「ふつう」の３より 0.08 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

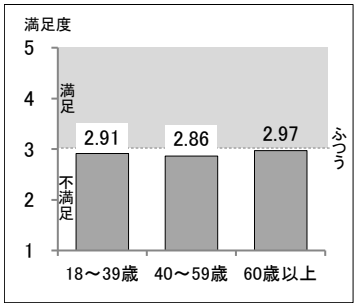
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 16.8%、「ふつう」は 47.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 19.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 64.3%であった。

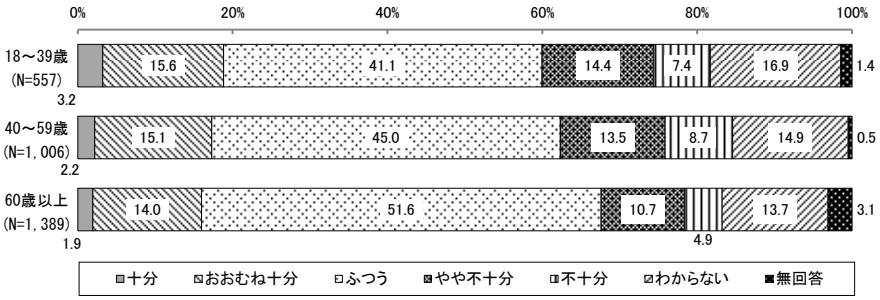






年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 2.97 であり、不満を感じていない人の割合は 67.5%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.86 であり、不満を感じていない人の割合は 62.3%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 586 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、99 人（16.9%）から回答があった。

回答の一部

- 虐待に関して、専門機関と地域の民生委員、学校、幼稚園、保育所などの連携を強化していくべきだと思う。命を守ることを優先してほしい。（女性／40 歳代／秋田地域）
- 支援が中央に集まっていないか。県北、県南はどうか。生活困難世帯が多く、女性の収入が少ないように思う。（女性／60 歳代／北秋田地域）
- 最近は子ども食堂など居場所づくりを頑張っているものの、十分とは言えない。（女性／60 歳代／鹿角地域）

（６）　戦略６　ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について

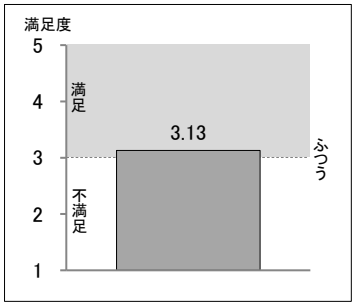
ア　自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

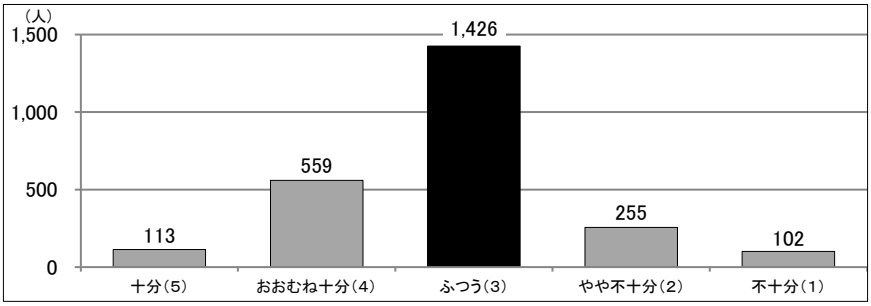
問 1-28　学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。

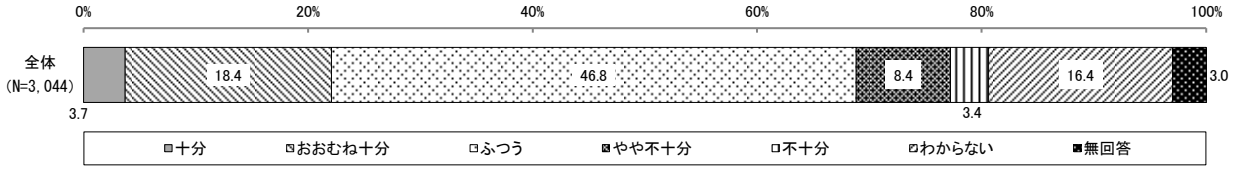
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.13 で、「ふつう」の３より 0.13 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

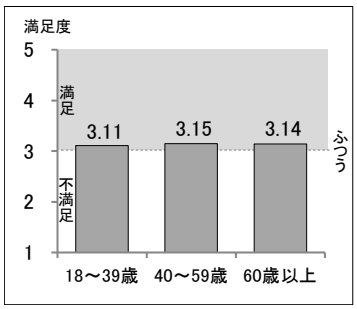
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 22.1%、「ふつう」は 46.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 11.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 68.9%であった。

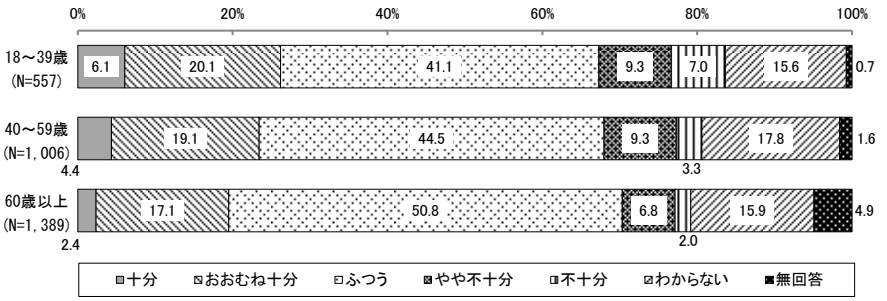






年代別では、「40～59 歳」の満足度が最も高く 3.15 であり、不満を感じていない人の割合は 68.0%であった。一方、「18～39 歳」の満足度は 3.11 であり、不満を感じていない人の割合は 67.3%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 357 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、74 人（20.7%）から回答があった。

回答の一部

- もっと地域の中に入って活動してほしい。教育現場に地域の人が参加する機会があっても良いと思う。（女性／40 歳代／秋田地域）
- ふるさとを愛する心は、両親、家族、地域がまずその気持ちを持っていないと、生まれてこないと思う。（女性／50 歳代／雄勝地域）
- 地域の行事や伝統芸を伝授していくために、もっと校外学習に活発に取り組んでいけば良いと思う。（男性／60 歳代／秋田地域）

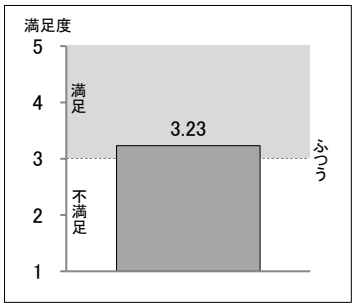
イ　子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

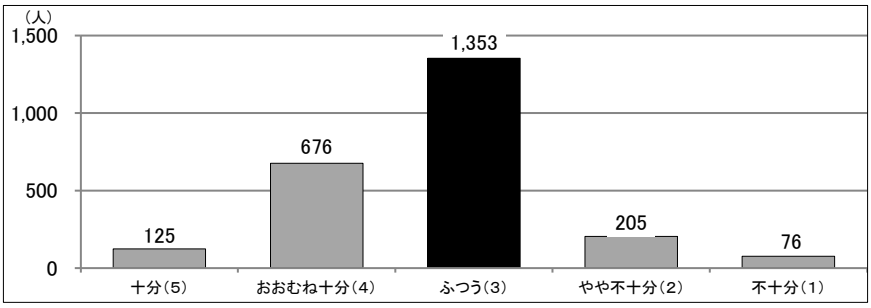
問 1-29　学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

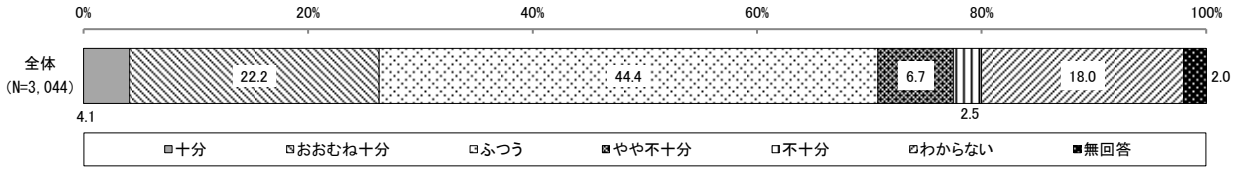
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.23 で、「ふつう」の３より 0.23 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

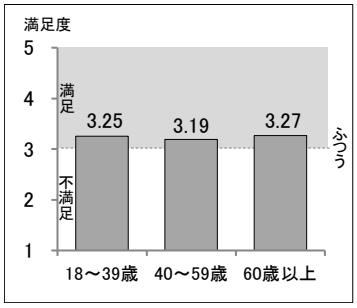
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 26.3%、「ふつう」は 44.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 9.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 70.7%であった。

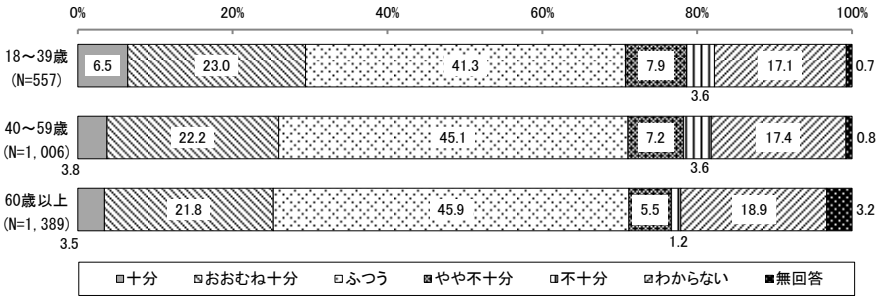






年代別では、「60 歳以上」の満足度が最も高く 3.27 であり、不満を感じていない人の割合は 71.2%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 3.19 であり、不満を感じていない人の割合は 71.1%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 281 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、61 人（21.7%）から回答があった。

回答の一部

- 大学受験のための勉強だけでは、主体性は身につかない。子どもの個性を伸ばす教育をしてほしい。（男性／70 歳以上／北秋田地域）
- 今の子どもは自分で考える発想が乏しい。判断し行動する力も乏しい。色々な方向からの考え方ができていない。（女性／50 歳代／秋田地域）
- 自分の思っている事や考えている事を表現できなかったり、堂々と表現できない子どもが多いと思う。子どもがハッキリと学校外でも表現できる教育や、自信を持ってもらえるような教育が必要だと思う。（男性／20 歳代／秋田地域）

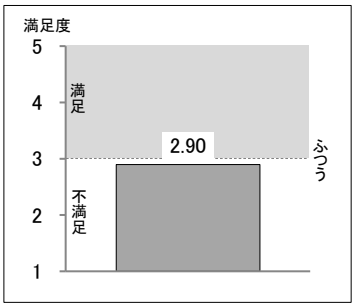
ウ　世界で活躍できるグローバル人材の育成

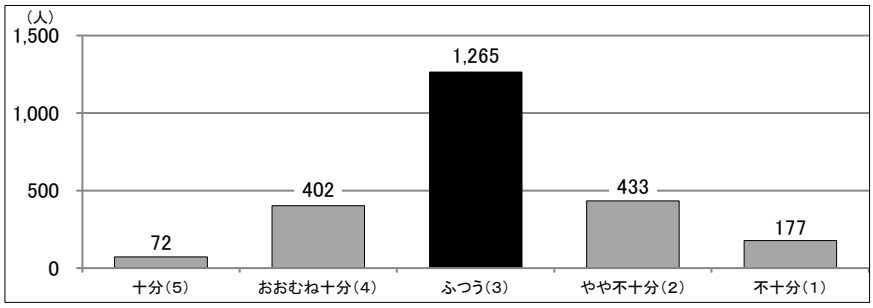
> 問 1-30　学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。

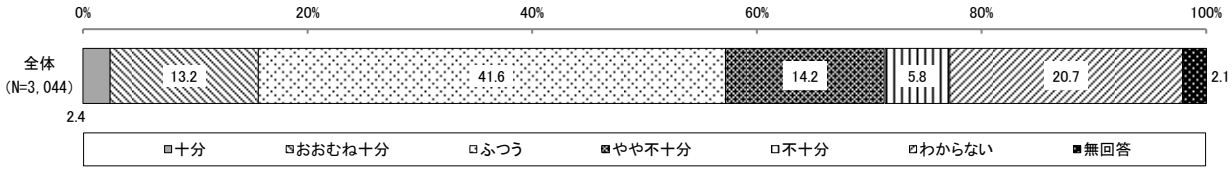
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.90 で、「ふつう」の３より 0.10 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

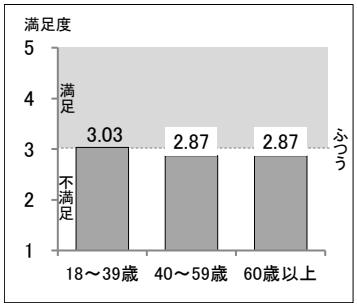
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 15.6%、「ふつう」は 41.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 20.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 57.2%であった。

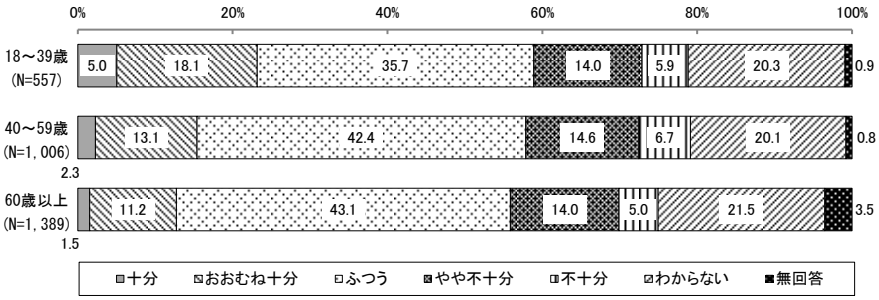






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.03 であり、不満を感じていない人の割合は 58.8%であった。一方、「40 歳～59 歳」及び「60 歳以上」の満足度は 2.87 であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ 57.8%、55.8%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 610 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、96 人（15.7%）から回答があった。

回答の一部

- 教科書の内容だけではなく、日常生活の中で活かせる英語、英会話などを学ぶ機会を充実させるべき。（男性／40 歳代／秋田地域）
- 英語圏にとどまらず、異文化理解、多言語教育がもっと盛りあがってほしい。（女性／30 歳代／秋田地域）
- 国際教養大学は全国でも珍しく、県内外からの入学者も多く人気があるが、県全体ではまだまだ海外文化の受入れや英語等コミュニケーションが十分浸透しているとは言えないと思う。（男性／30 歳代／仙北地域）

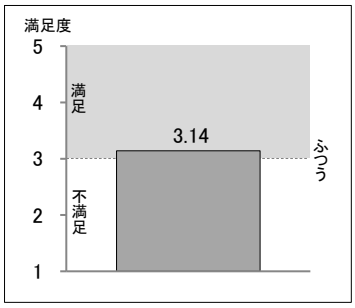
エ　豊かな人間性と健やかな体の育成

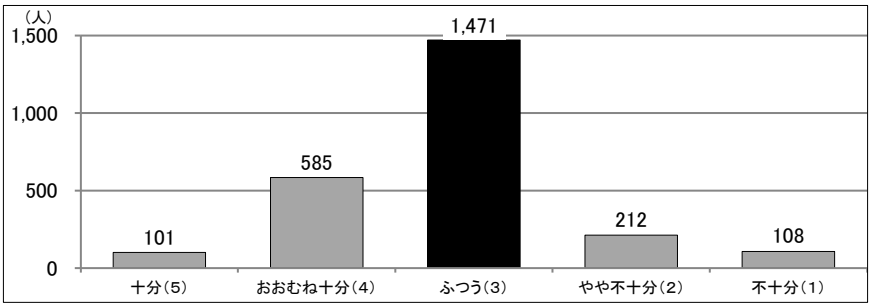
問 1-31　学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。

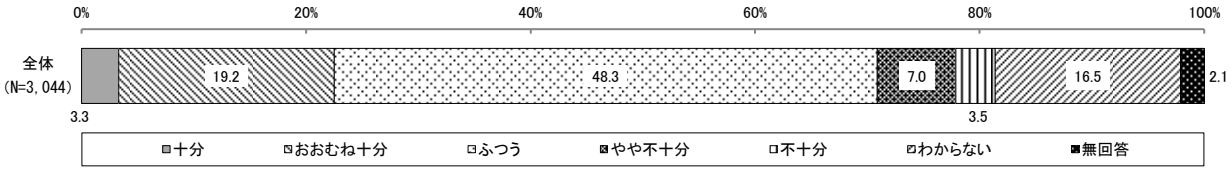
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.14 で、「ふつう」の３より 0.14 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

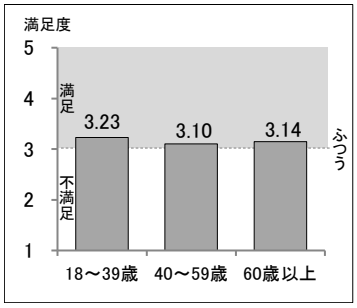
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 22.5%、「ふつう」は 48.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 10.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 70.8%であった。

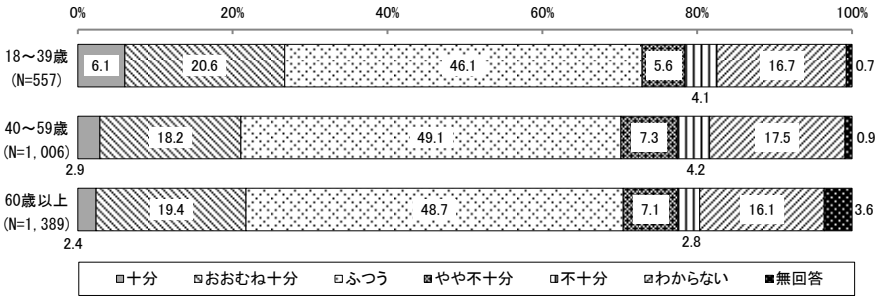






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.23 であり、不満を感じていない人の割合は 72.8%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 3.10 であり、不満を感じていない人の割合は 70.2%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 320 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、59 人（18.4%）から回答があった。

回答の一部

- 地域によっては良い所もあると思うが、面倒くさいことには見て見ぬふりだったりで傍観主義な子が多い。困っている友達がいても声をかけたり手伝ってあげたりする子が少ない。（女性／50 歳代／仙北地域）
- 学校教育だけではなく、その子の経験や人間関係、取り巻く大人、親の関わり等も大いに関係があると思う。（女性／40 歳代／由利地域）
- いじめや不登校など集団からの孤立の問題が増えているのではないか。数字として県民に示し、対策をとるとともに、個性を尊重し合える場になることが望ましいと考える。（女性／50 歳以上／雄勝地域）

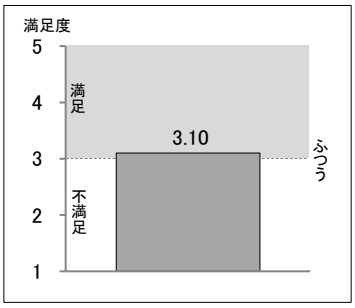
オ　子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

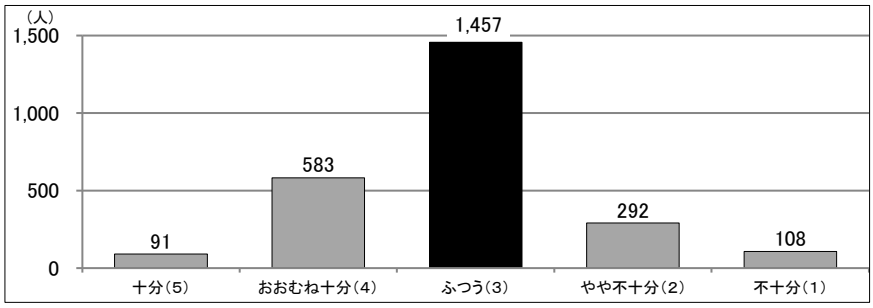
問 1-32　学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。

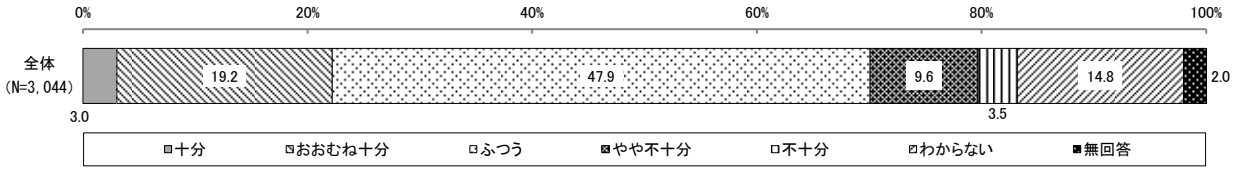
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 3.10 で、「ふつう」の３より 0.10 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

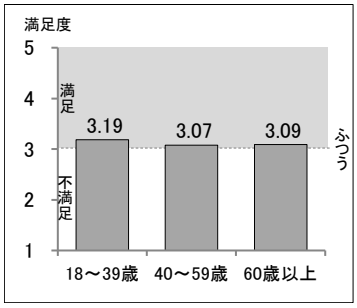
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 22.2%、「ふつう」は 47.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 13.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 70.1%であった。

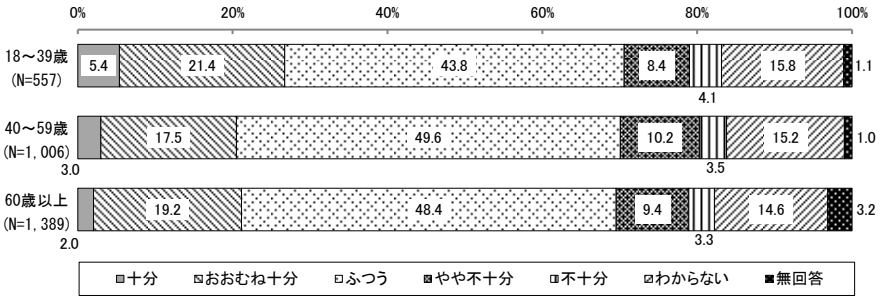






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.19 であり、不満を感じていない人の割合は 70.6%であった。一方、「40 歳～59 歳」の満足度は 3.07 であり、不満を感じていない人の割合は 70.1%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 400 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、55 人（13.8%）から回答があった。

回答の一部

- 昔と違い、口うるさいくらいのおじさん、おばさんが少なくなってきている。子供は地域で育てるものだと思う。（男性／40 歳代／秋田地域）
- 学童はもっと地域と連携するべき。多世代交流の機会を増やす必要がある。（男性／70 歳以上／北秋田地域）
- 地域連携については学校裁量によるところが大きく、社会全体で整備されているとは言い難い。（女性／40 歳代／平鹿地域）

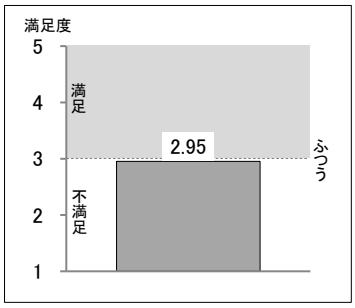
カ　地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

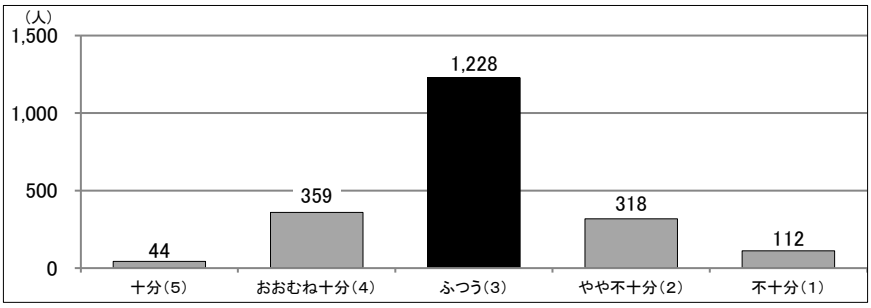
問 1-33　県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。

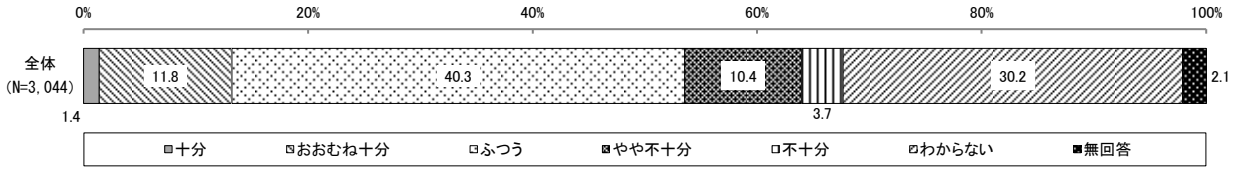
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.95 で、「ふつう」の３より 0.05 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

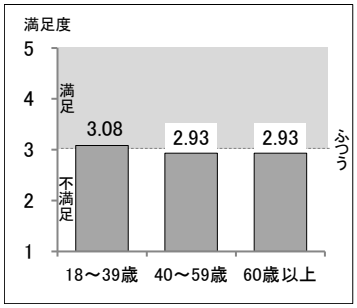
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 13.2%、「ふつう」は 40.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 14.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 53.5%であった。

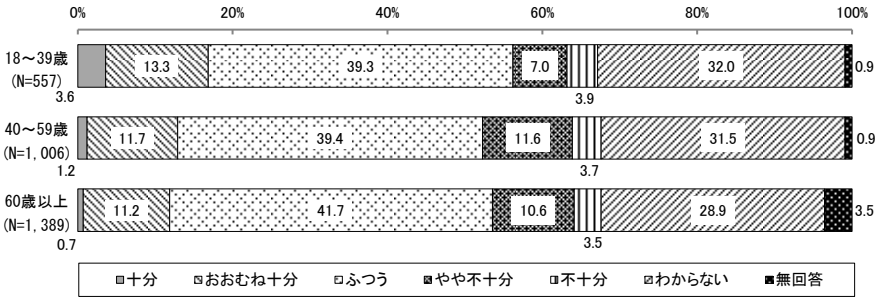






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.08 であり、不満を感じていない人の割合は 56.2%であった。一方、「40 歳～59 歳」及び「60 歳以上」の満足度は 2.93 であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ 52.3%、53.6%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 430 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、61 人（14.2%）から回答があった。

回答の一部

- 県内大学に限らず、地域の特性を活かした民間企業との研究開発をする必要がある。（男性／60 歳代／北秋田地域）
- 課題を地域住民から募集するなど、地域の方々に目に見える形で課題解決に取り組む大学であってほしい。（男性／70 歳以上／秋田地域）
- 県内の大学等と、地域活性化を目的としているＮＰＯなどのボランティア団体と協力して活動する必要があると思う。（男性／20 歳代／秋田地域）

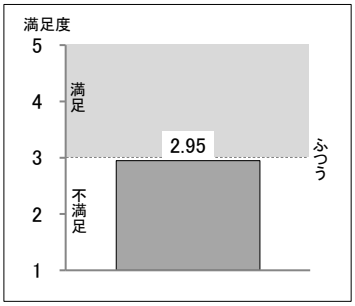
キ　地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に触れる機会の提供

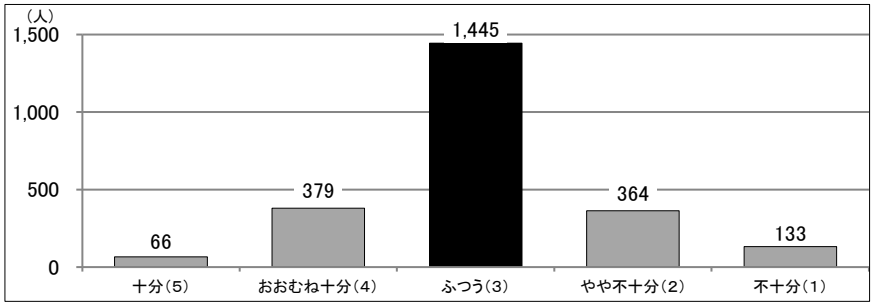
問 1-34　県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

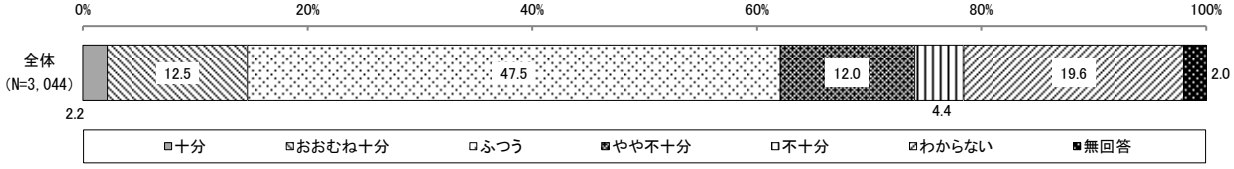
（ａ）満足度の状況

５段階評価の満足度の平均値は 2.95 で、「ふつう」の３より 0.05 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

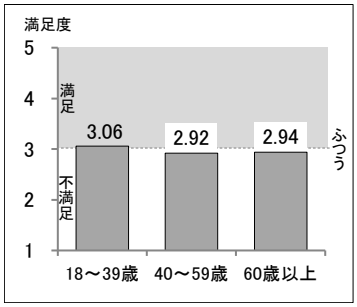
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 14.7%、「ふつう」は 47.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 16.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 62.2%であった。

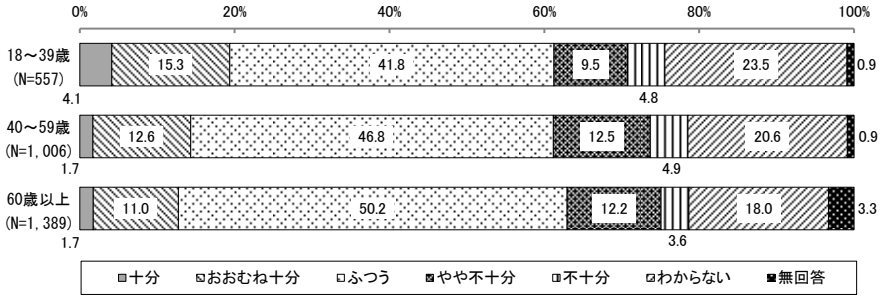






年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.06 であり、不満を感じていない人の割合は 61.2%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.92 であり、不満を感じていない人の割合は 61.1%であった。





（ｂ）「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 497 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、70 人（14.1%）から回答があった。

回答の一部

- いつどこでどんなことが行われているか、中々伝わってこない。今までの周知の仕方が、時代に合っていないのかもしれない。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 学校での勉強の他に、子ども達が生涯学習や芸術を学ぶ機会などを定期的に設けていく必要があると思う。そうしていくことで、もっと秋田を大切にして好きになる子ども達が増えると思う。（男性／20 歳代／秋田地域）
- 県央のみ機会が多いと思われる、県北、県央、県南で隔年開催するような芸術施策がほしい。（男性／70 歳以上／北秋田地域）

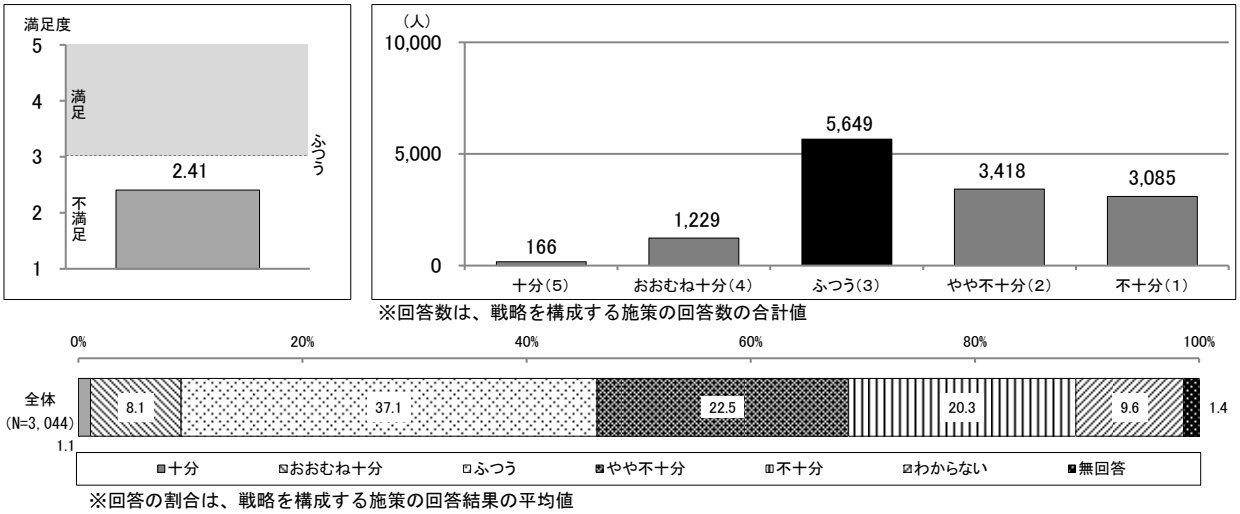
２　（参考）各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「１　各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略１　秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略（問1-1～問1-5）

５段階評価の満足度の平均値は 2.41 で、「ふつう」の３より 0.59 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

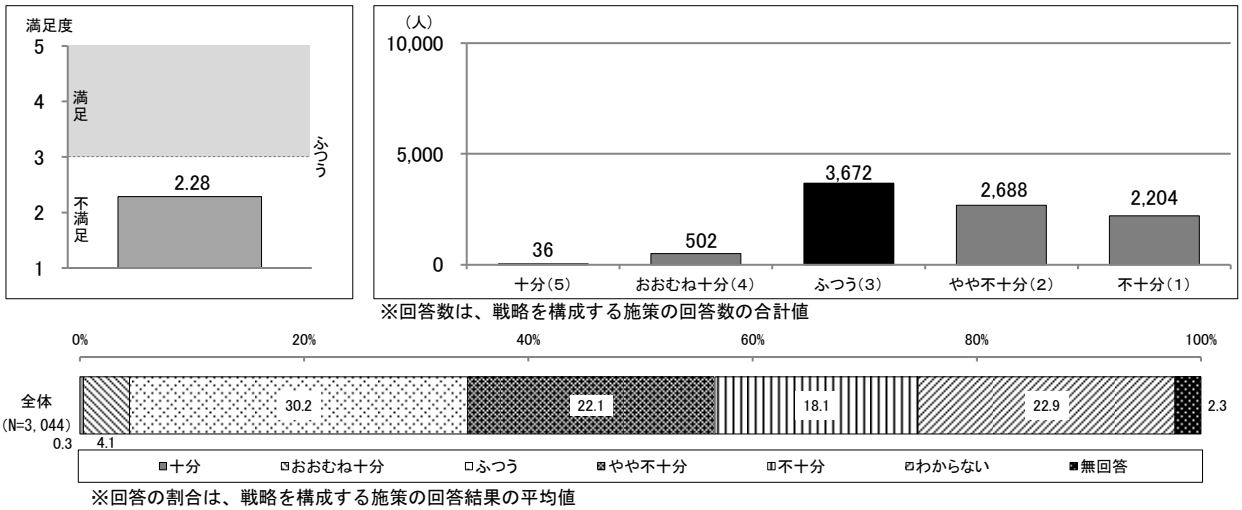
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 9.2%、「ふつう」は 37.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 42.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 46.3%であった。



戦略２　社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（問1-6～問1-9）

５段階評価の満足度の平均値は 2.28 で、「ふつう」の３より 0.72 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

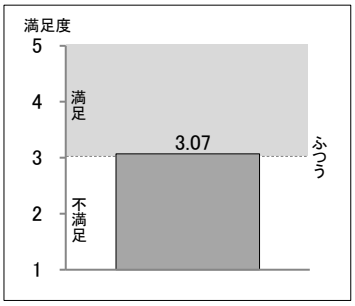
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 4.4%、「ふつう」は 30.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 40.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 34.6%であった。

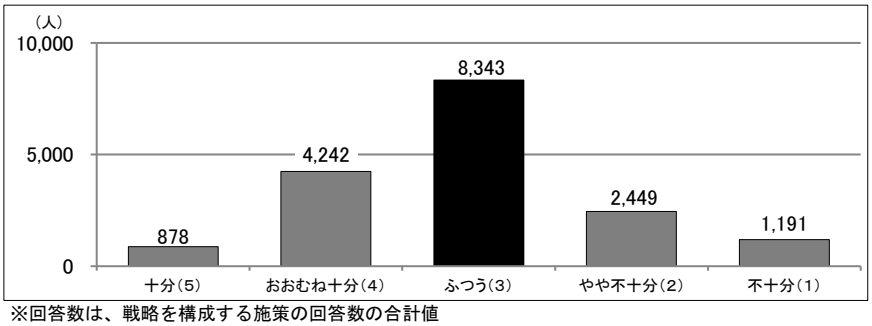


戦略３　新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（問1-10～問1-16）

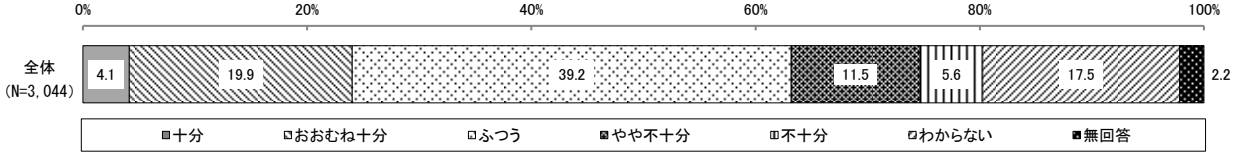
５段階評価の満足度の平均値は 3.07 で、「ふつう」の３より 0.07 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 24.0%、「ふつう」は 39.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 17.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 63.2%であった。





※回答数は、戦略を構成する施策の回答数の合計値

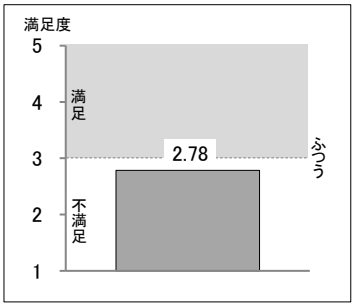


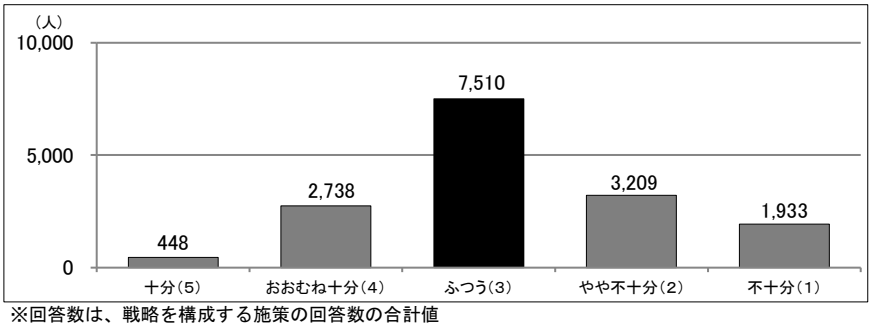
※回答の割合は、戦略を構成する施策の回答結果の平均値

戦略４　秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略（問1-17～問1-22）

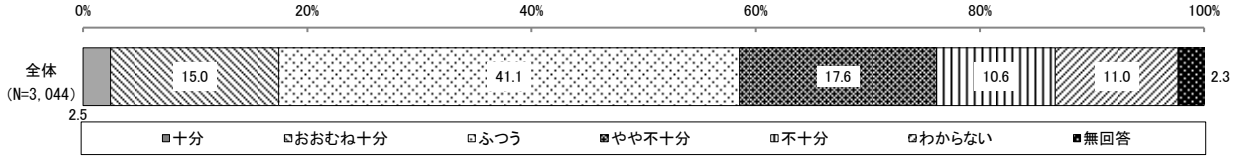
５段階評価の満足度の平均値は 2.78 で、「ふつう」の３より 0.22 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 17.5%、「ふつう」は 41.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 28.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 58.6%であった。





※回答数は、戦略を構成する施策の回答数の合計値

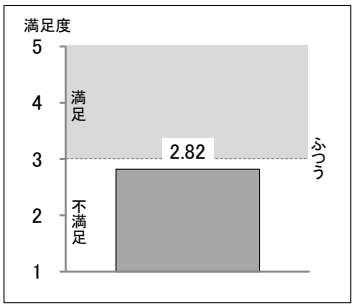


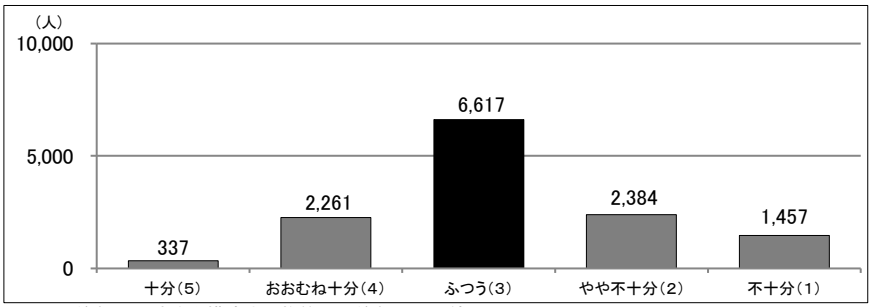
※回答の割合は、戦略を構成する施策の回答結果の平均値

戦略５　誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（問1-23～問1-27）

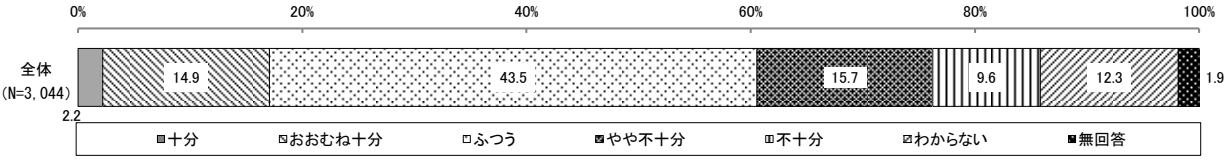
５段階評価の満足度の平均値は 2.82 で、「ふつう」の３より 0.18 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 17.1%、「ふつう」は 43.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 25.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 60.6%であった。





※回答数は、戦略を構成する施策の回答数の合計値

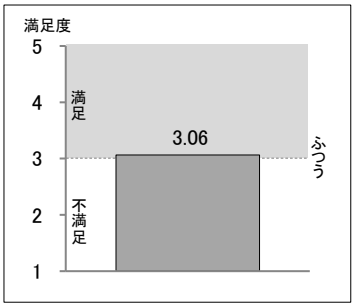


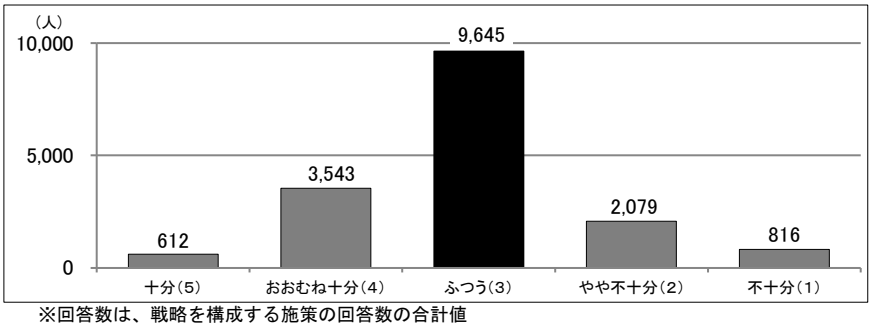
※回答の割合は、戦略を構成する施策の回答結果の平均値

戦略６　ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（問1-28～問1-34）

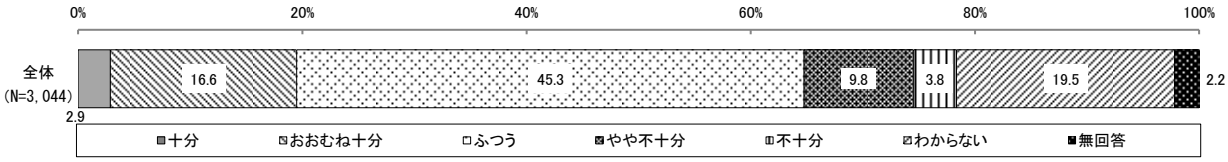
５段階評価の満足度の平均値は 3.06 で、「ふつう」の３より 0.06 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 19.5%、「ふつう」は 45.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 13.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 64.8%であった。





※回答数は、戦略を構成する施策の回答数の合計値

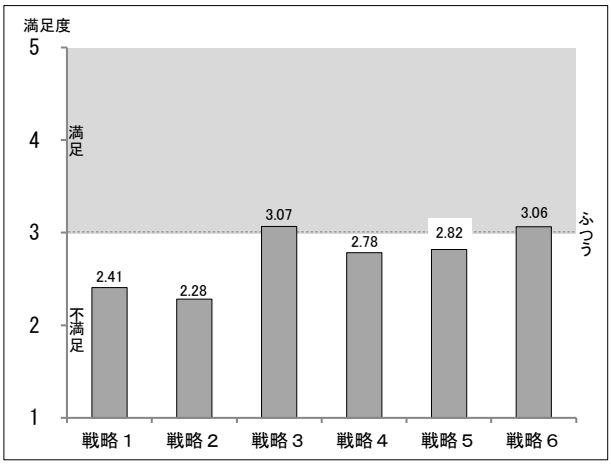


※回答の割合は、戦略を構成する施策の回答結果の平均値

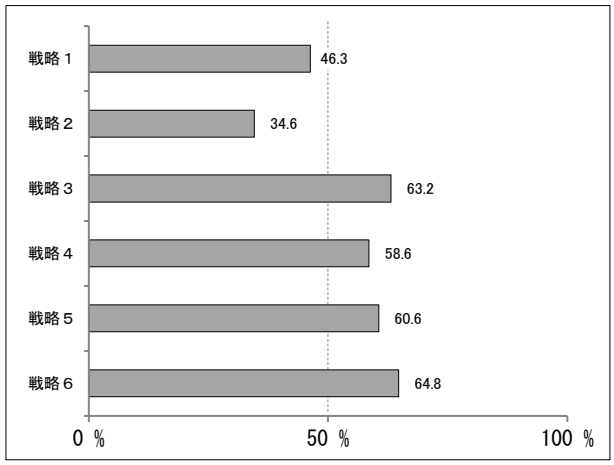
満足度の平均値が最も高かったのは「戦略３　新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略」の 3.07 で、不満を感じていない人の割合は 63.2%であった。次いで、「戦略６　ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」の 3.06 で、不満を感じていない人の割合は 64.8%であった。

満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略２　社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略」の 2.28 で、不満を感じていない人の割合は 34.6%であった。

〔満足度の平均値〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均値」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。

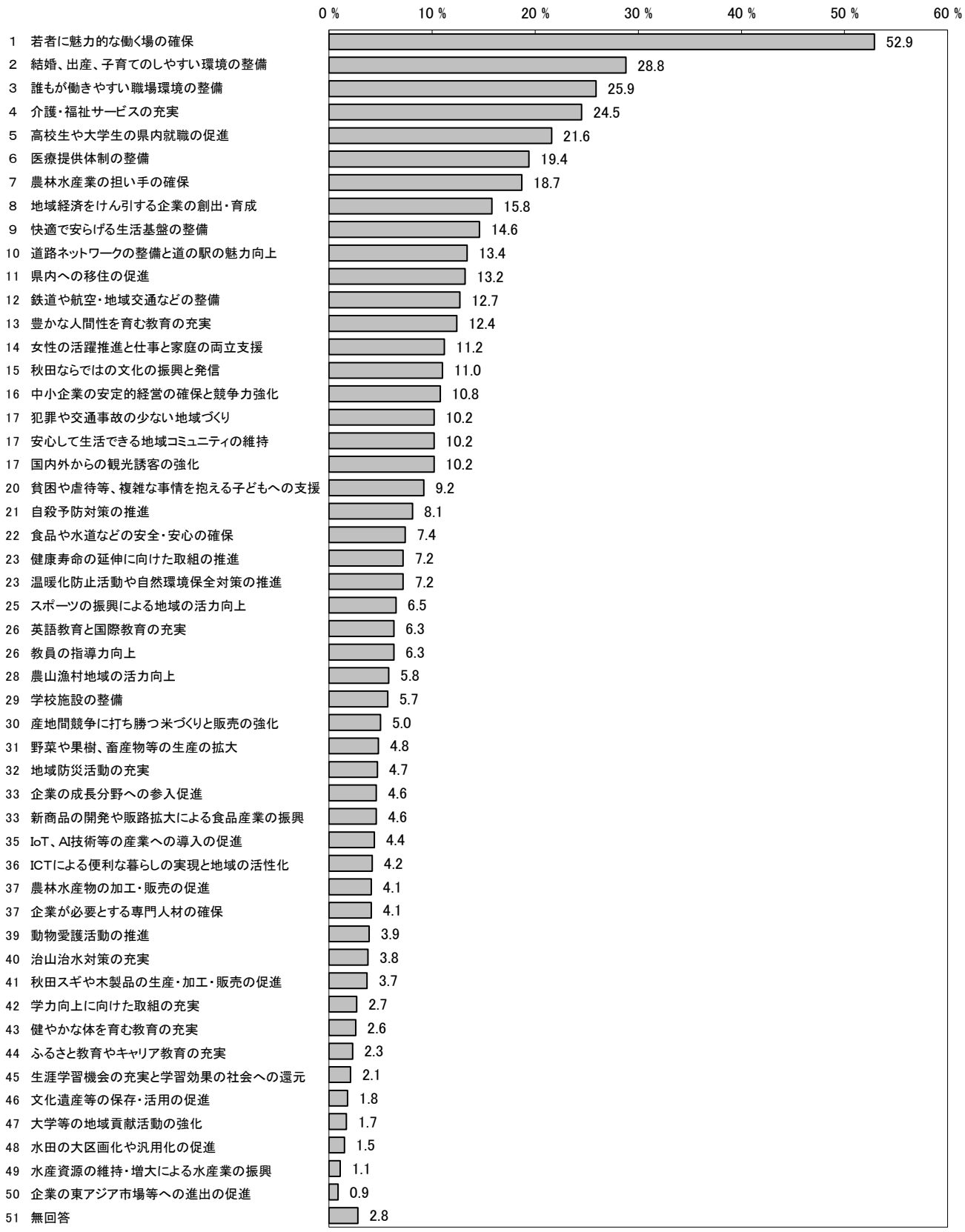
第２章　県政の重要課題について

重要課題として県に力を入れて欲しいこと（問２）

問１で満足度をお伺いした項目に関して、今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れて欲しいことは何ですか。５つまで選択して番号を記入してください。

【全体】

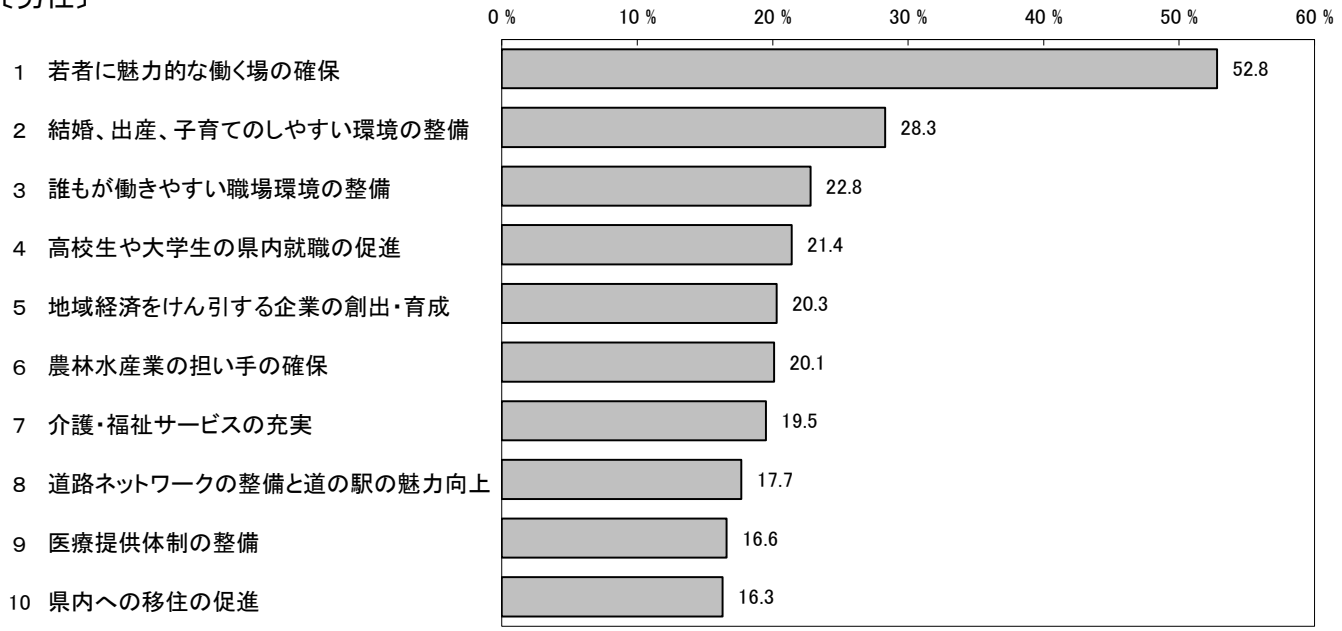
「若者に魅力的な働く場の確保」の割合が52.9％と最も高く、「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」の28.8％、「誰もが働きやすい職場環境の整備」の25.9％、「介護・福祉サービスの充実」の24.5％と続いている。


0 %
10 %
20 %
30 %
40 %
50 %
60 %
1 若者に魅力的な働く場の確保 52.9
2 結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備 28.8
3 誰もが働きやすい職場環境の整備 25.9
4 介護・福祉サービスの充実 24.5
5 高校生や大学生の県内就職の促進 21.6
6 医療提供体制の整備 19.4
7 農林水産業の担い手の確保 18.7
8 地域経済をけん引する企業の創出・育成 15.8
9 快適で安らげる生活基盤の整備 14.6
10 道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上 13.4
11 県内への移住の促進 13.2
12 鉄道や航空・地域交通などの整備 12.7
13 豊かな人間性を育む教育の充実 12.4
14 女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援 11.2
15 秋田ならではの文化の振興と発信 11.0
16 中小企業の安定的経営の確保と競争力強化 10.8
17 犯罪や交通事故の少ない地域づくり 10.2
17 安心して生活できる地域コミュニティの維持 10.2
17 国内外からの観光誘客の強化 10.2
20 貧困や虐待等、複雑な事情を抱える子どもへの支援 9.2
21 自殺予防対策の推進 8.1
22 食品や水道などの安全・安心の確保 7.4
23 健康寿命の延伸に向けた取組の推進 7.2
23 温暖化防止活動や自然環境保全対策の推進 7.2
25 スポーツの振興による地域の活力向上 6.5
26 英語教育と国際教育の充実 6.3
26 教員の指導力向上 6.3
28 農山漁村地域の活力向上 5.8
29 学校施設の整備 5.7
30 産地間競争に打ち勝つ米づくりと販売の強化 5.0
31 野菜や果樹、畜産物等の生産の拡大 4.8
32 地域防災活動の充実 4.7
33 企業の成長分野への参入促進 4.6
33 新商品の開発や販路拡大による食品産業の振興 4.6
35 IoT、AI技術等の産業への導入の促進 4.4
36 ICTによる便利な暮らしの実現と地域の活性化 4.2
37 農林水産物の加工・販売の促進 4.1
37 企業が必要とする専門人材の確保 4.1
39 動物愛護活動の推進 3.9
40 治山治水対策の充実 3.8
41 秋田スギや木製品の生産・加工・販売の促進 3.7
42 学力向上に向けた取組の充実 2.7
43 健やかな体を育む教育の充実 2.6
44 ふるさと教育やキャリア教育の充実 2.3
45 生涯学習機会の充実と学習効果の社会への還元 2.1
46 文化遺産等の保存・活用の促進 1.8
47 大学等の地域貢献活動の強化 1.7
48 水田の大区画化や汎用化の促進 1.5
49 水産資源の維持・増大による水産業の振興 1.1
50 企業の東アジア市場等への進出の促進 0.9
51 無回答 2.8

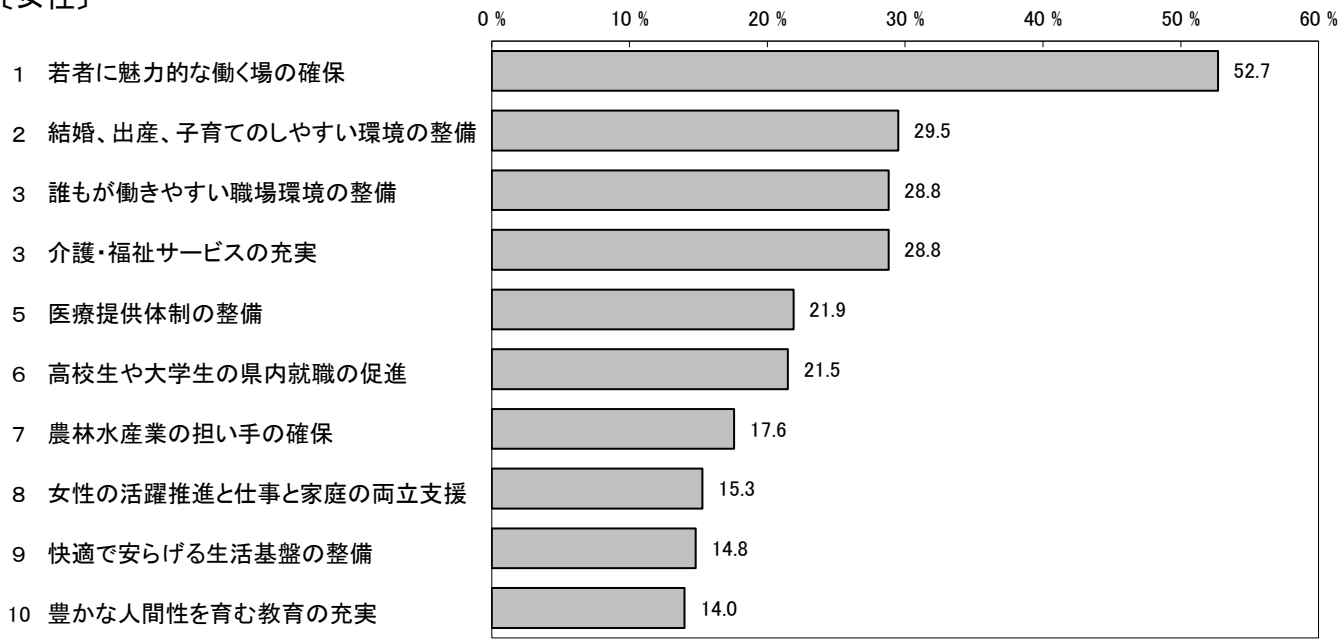
【性別】

上位 10 項目のうち７項目は男女で共通しているが、男女で異なる項目として、「地域経済をけん引する企業の創出・育成」、「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」、「県内への移住の促進」がそれぞれ男性の５位、８位、10 位となっている。また、「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」、「快適で安らげる生活基盤の整備」、「豊かな人間性を育む教育の充実」がそれぞれ女性の８位、９位、10 位となっている。

〔男性〕



〔女性〕

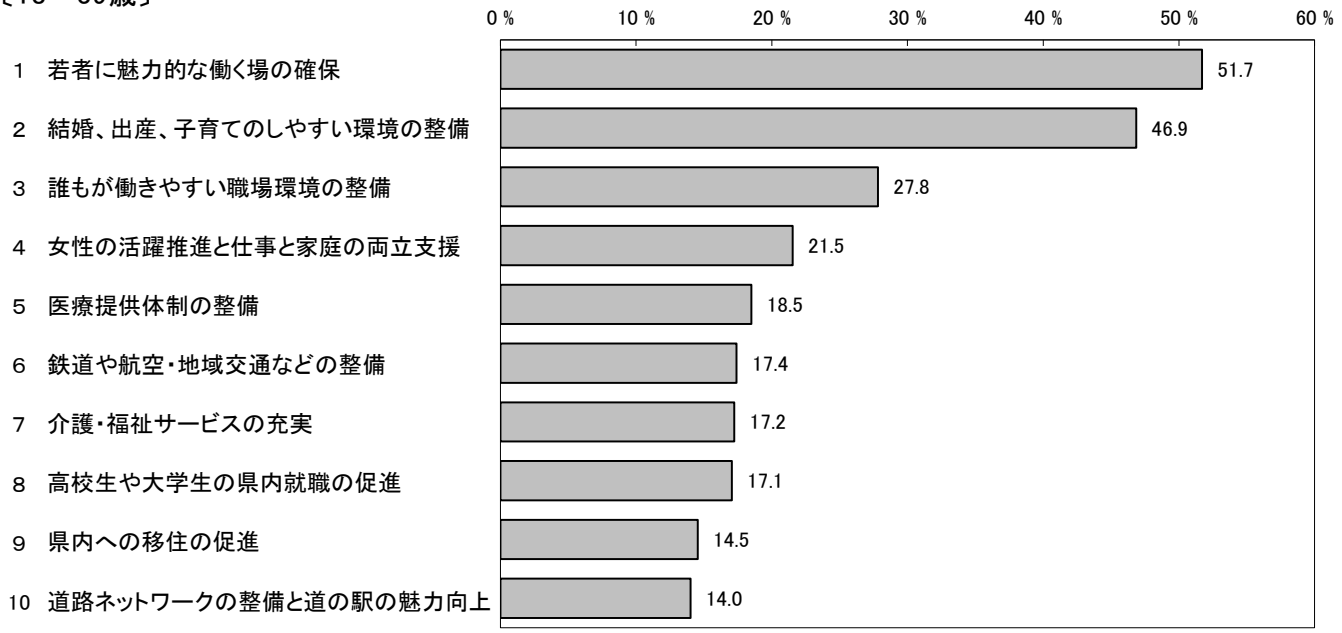


【年代別】

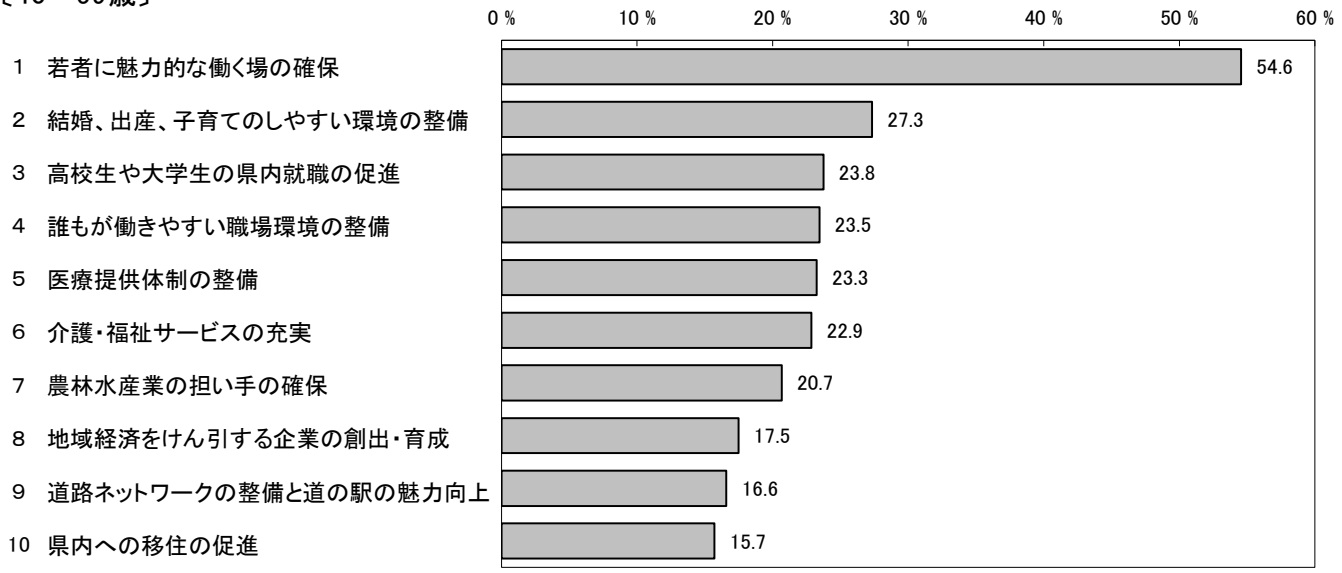
全年代共通で「若者に魅力的な働く場の確保」、「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」、「誰もが働きやすい職場環境の整備」が上位となっている。また、年代が上がるにつれて、「介護・福祉サービスの充実」の順位が上位となっている。

18～39 歳と 40～59 歳では、60 歳以上にない「県内への移住の促進」、「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」が上位 10 項目に入っている。18～39 歳では、他の年代にない「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」が４位、「鉄道や航空・地域交通などの整備」が６位となっている。60 歳以上では、他の年代にない「快適で安らげる生活基盤の整備」が９位、「豊かな人間性を育む教育の充実」が 10 位となっている。

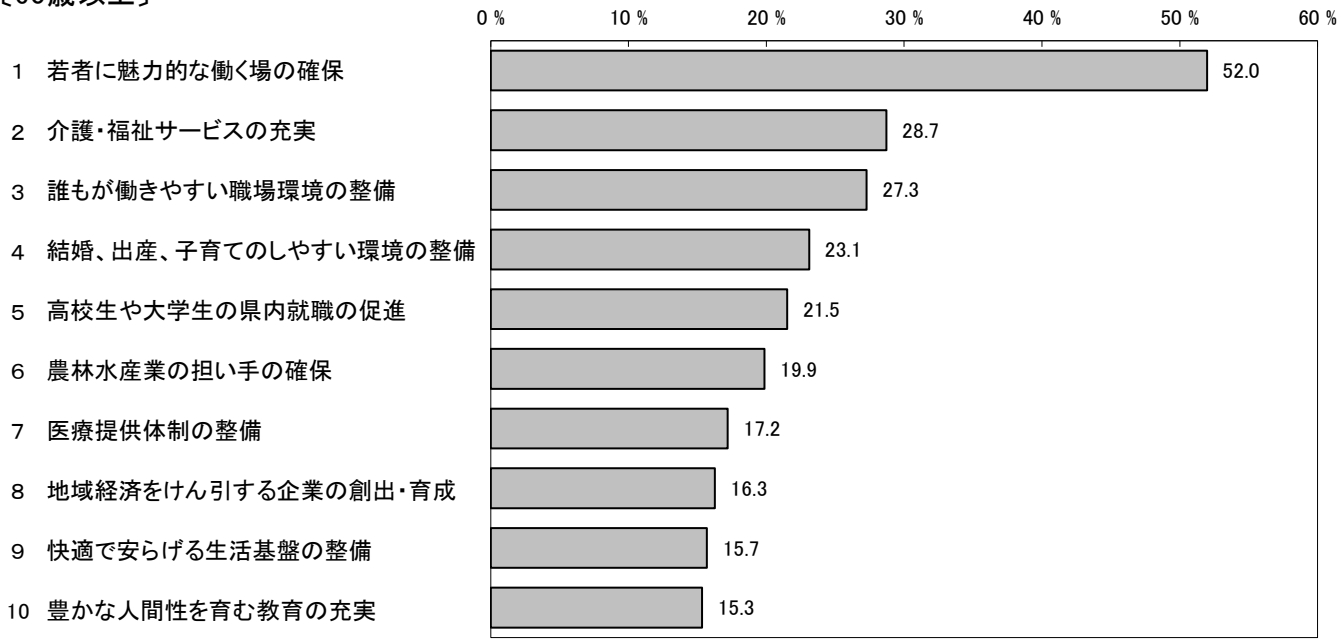
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕



〔60歳以上〕


0 %
10 %
20 %
30 %
40 %
50 %
60 %
1 若者に魅力的な働く場の確保
52.0
2 介護・福祉サービスの充実
28.7
3 誰もが働きやすい職場環境の整備
27.3
4 結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備
23.1
5 高校生や大学生の県内就職の促進
21.5
6 農林水産業の担い手の確保
19.9
7 医療提供体制の整備
17.2
8 地域経済をけん引する企業の創出・育成
16.3
9 快適で安らげる生活基盤の整備
15.7
10 豊かな人間性を育む教育の充実
15.3

第３章　県の特定課題について

特定の課題に関する意識（問３）

１　県の広報活動について

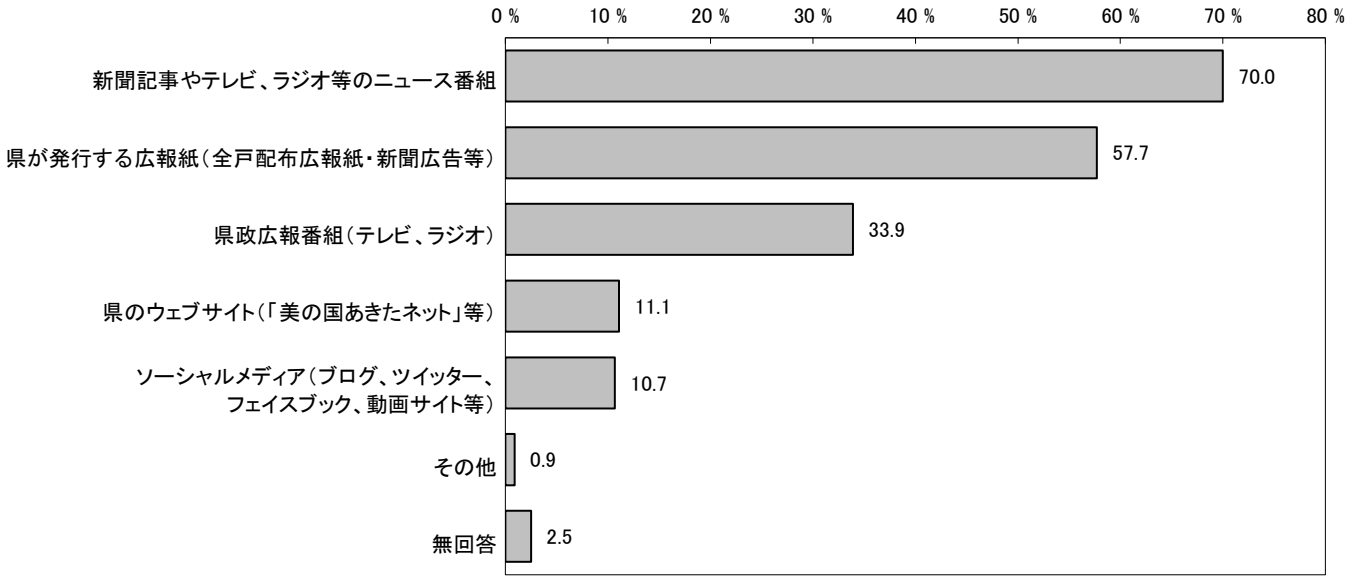
（１）県が発信する情報の取得方法

①　あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（○はいくつでも）。

全体では、「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が70.0％と最も高く、「県が発行する広報紙」の57.7％、「県政広報番組」の33.9％と続いている。

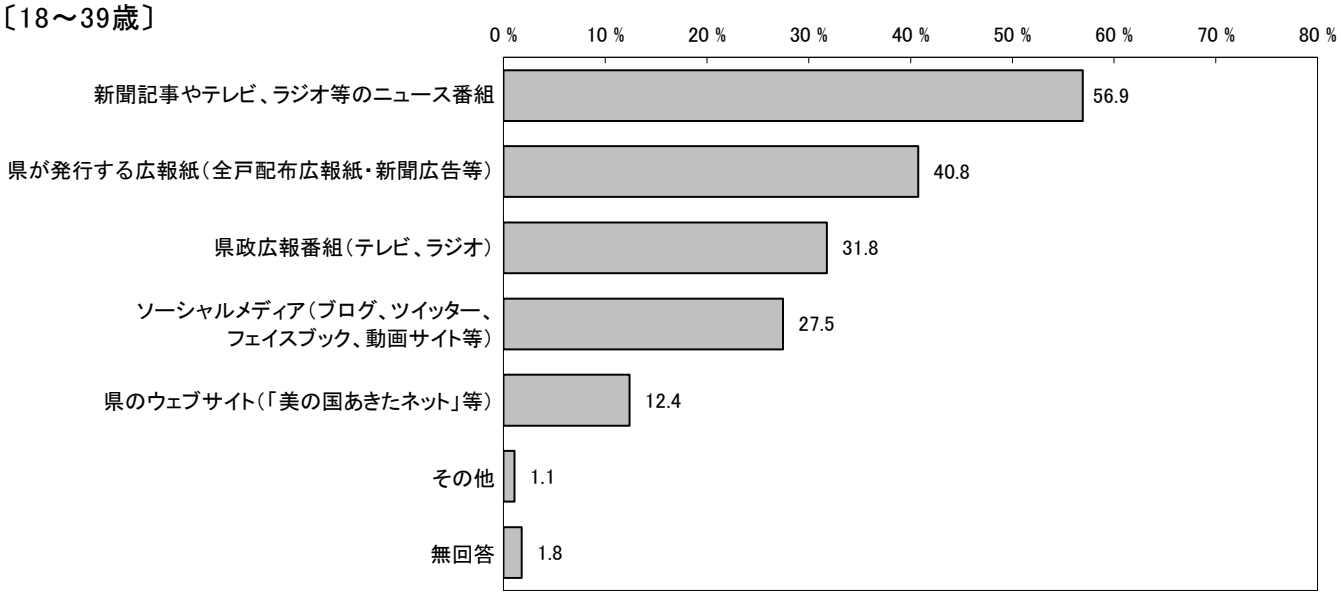
年代別では、全年代共通で「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が最も高い。また、「ソーシャルメディア」の割合は、18～39歳で27.5％と最も高いのに対し、60歳以上で2.4％と最も低い。

【全体】

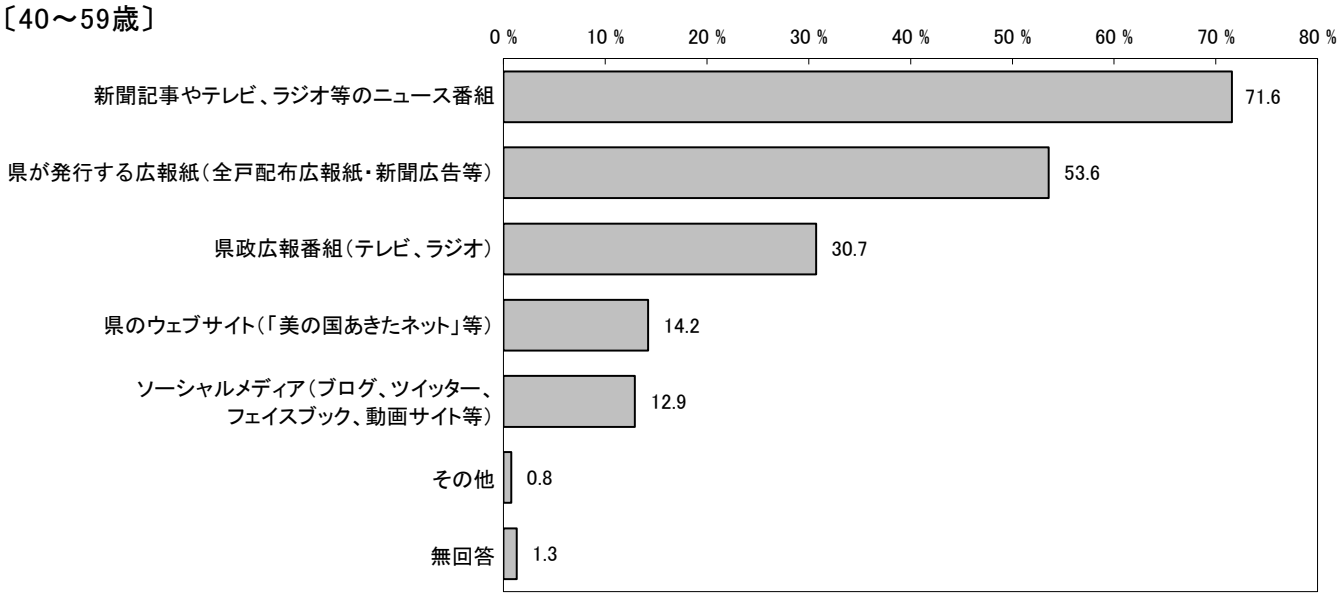


【年代別】

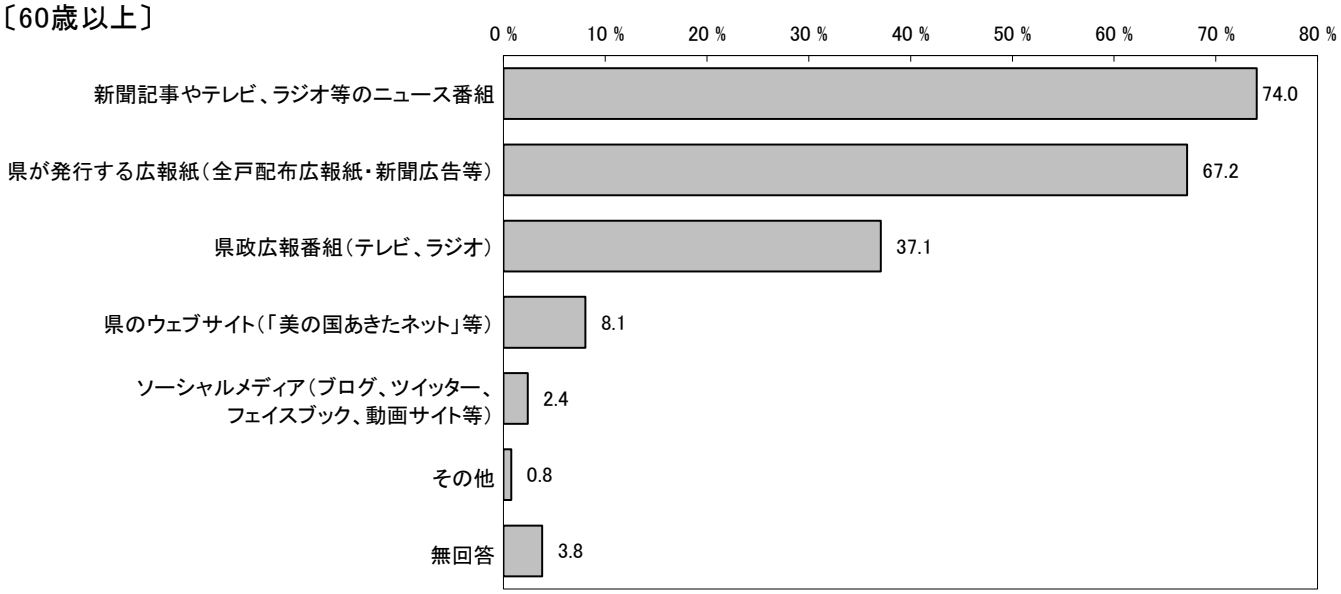
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕



〔60歳以上〕



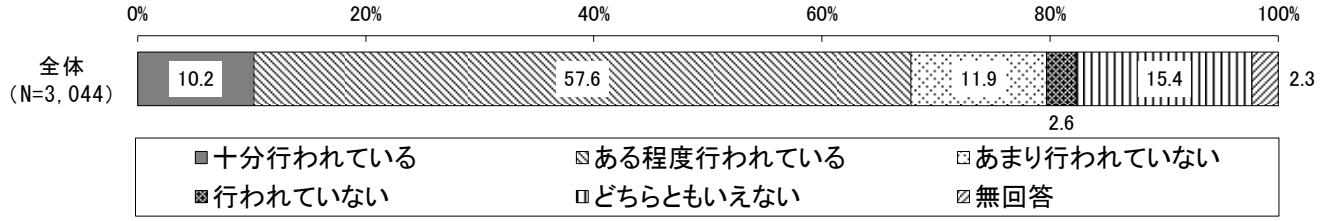
（２）広報活動の現状評価

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は１つ）。

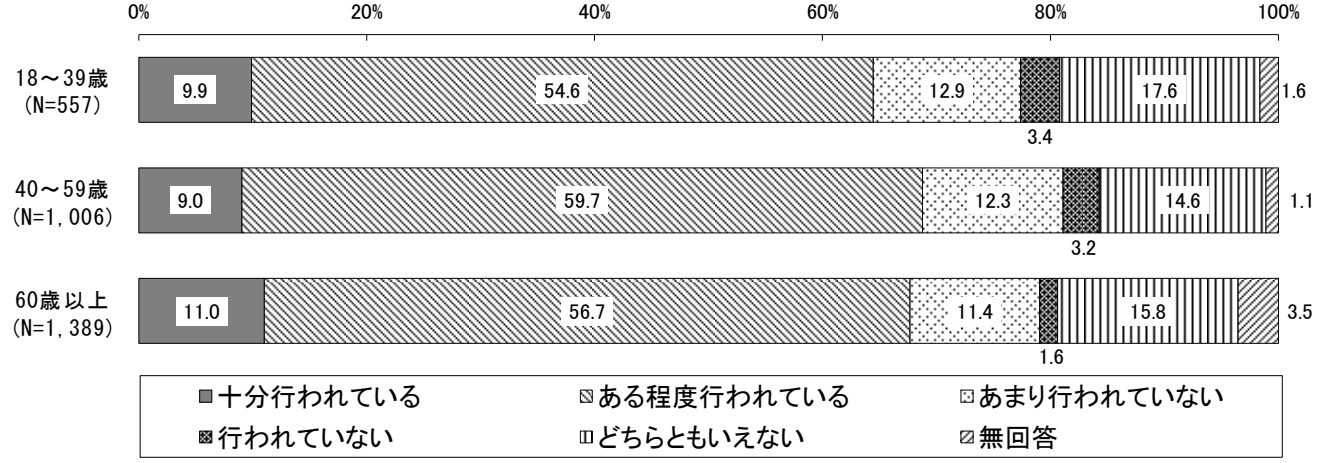
全体では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は 67.8％で、「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合 14.5%よりも高い。

年代別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は、40～59 歳で 68.7％と最も高い。「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合は、18～39 歳で 16.3％と最も高い。

【全体】



【年代別】



２　家庭での防災活動について

（１）家庭での災害時に備えた備蓄状況

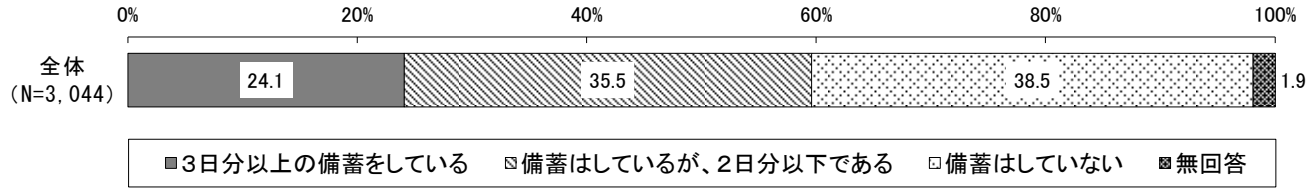
① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家族人数×３日分）をしていますか（○は１つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含みます。

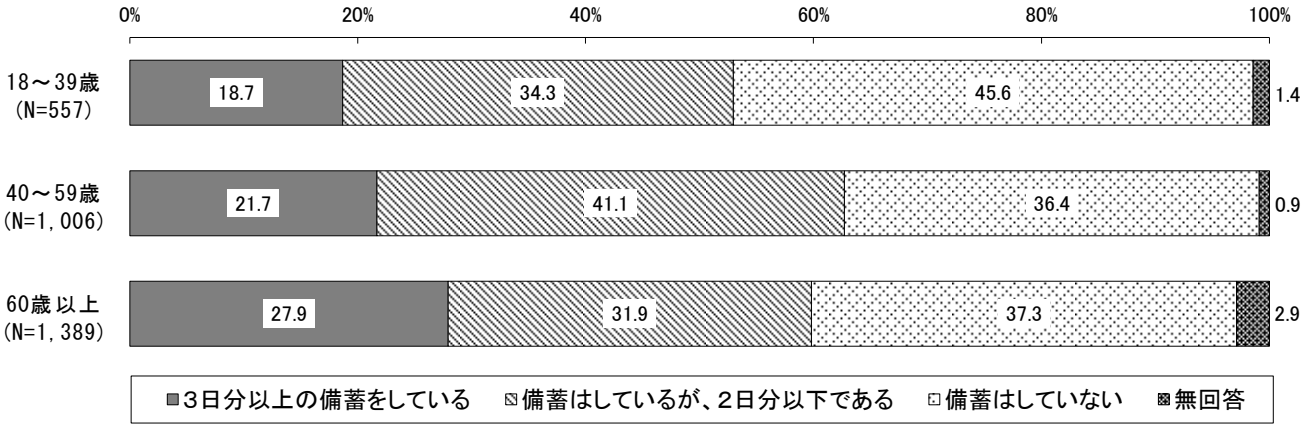
全体では、「３日分以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、２日分以下である」を合わせた割合は 59.6％で、「備蓄はしていない」の割合 38.5％よりも高い。

年代別では、「３日分以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、２日分以下である」を合わせた割合は、40～59 歳で 62.8％と最も高い。「備蓄はしていない」の割合は、18～39 歳で 45.6％と最も高い。

【全体】



【年代別】



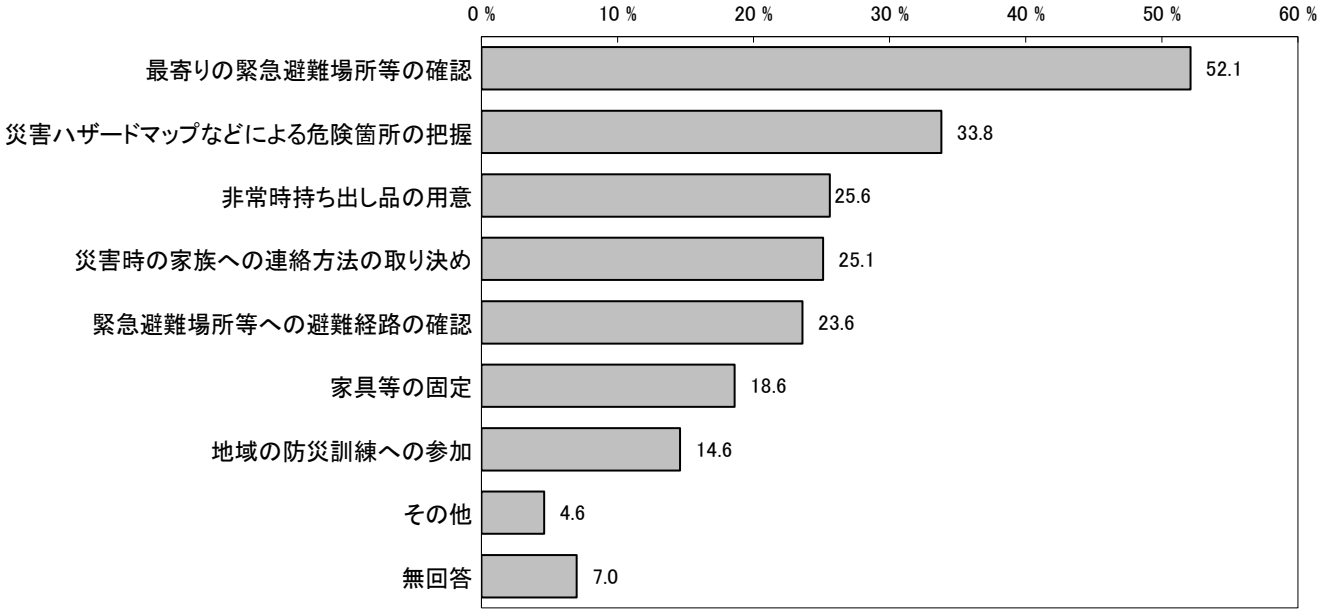
（２）災害に備えた家庭での防災活動の状況

②　あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（○はいくつでも）。

全体では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」の割合が 52.1％と最も高く、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の 33.8％、「非常持ち出し品の用意」の 25.6％、「災害時の家族への連絡方法の取り決め」の 25.1％と続いている。

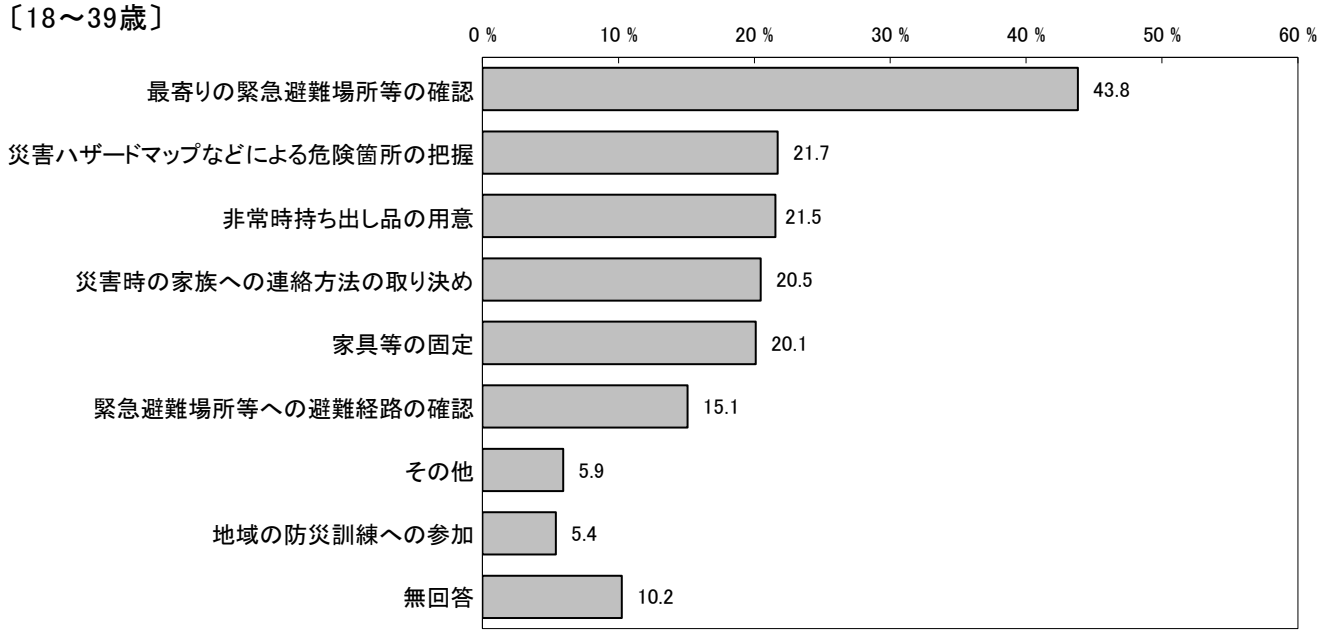
年代別では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」の割合は、40～59 歳で 54.7％と最も高いのに対し、18～39 歳で 43.8％と最も低い。また、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の割合は、60 歳以上で 39.2％と最も高いのに対し、18～39 歳で 21.7％と最も低い。

【全体】

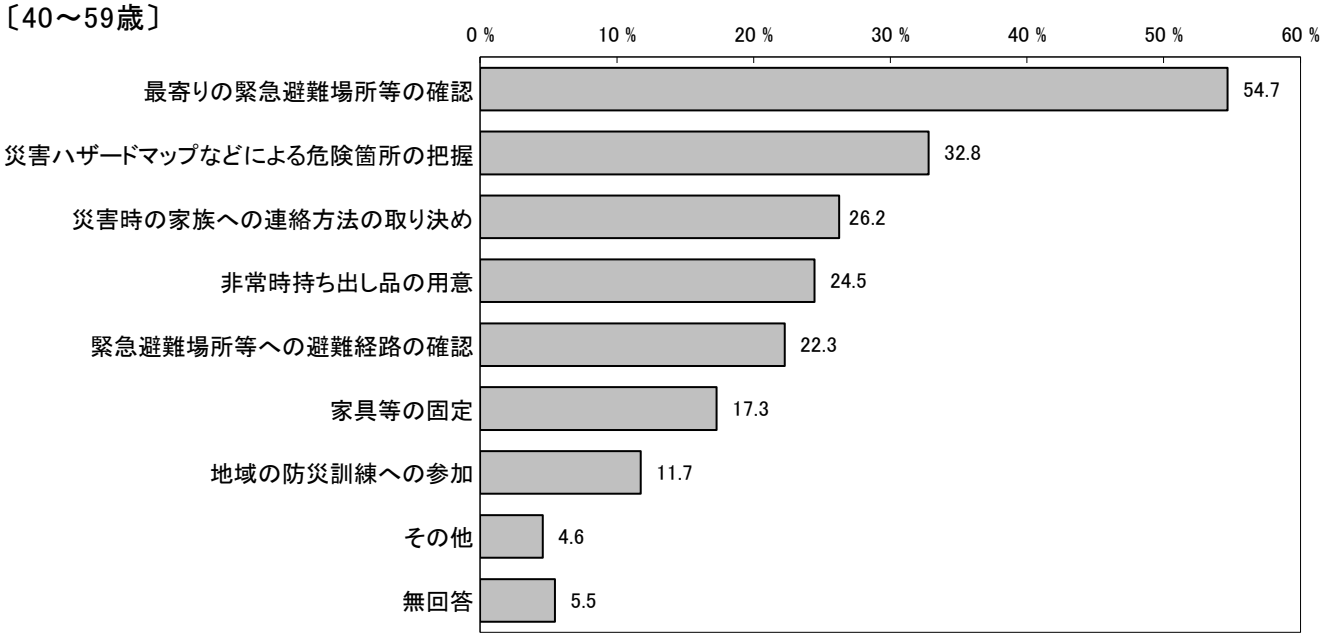


【年代別】

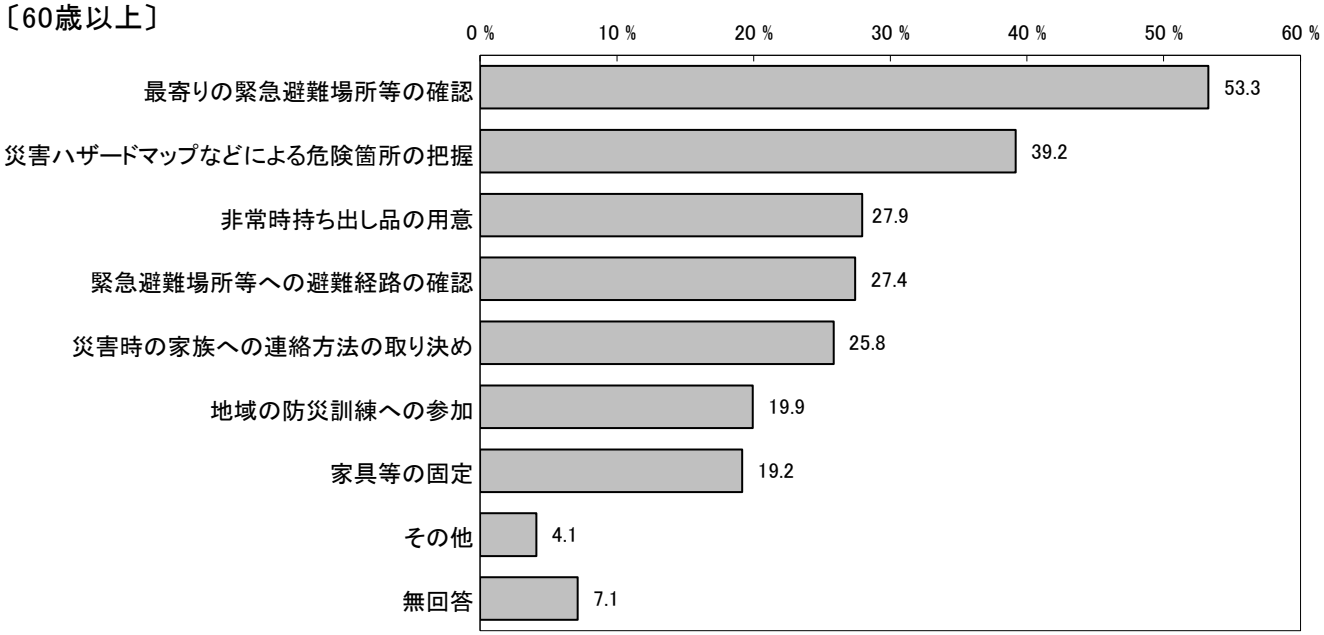
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕


0 %
10 %
20 %
30 %
40 %
50 %
60 %
最寄りの緊急避難場所等の確認
54.7
災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握
32.8
災害時の家族への連絡方法の取り決め
26.2
非常時持ち出し品の用意
24.5
緊急避難場所等への避難経路の確認
22.3
家具等の固定
17.3
地域の防災訓練への参加
11.7
その他
4.6
無回答
5.5

〔60歳以上〕


0 %
10 %
20 %
30 %
40 %
50 %
60 %
最寄りの緊急避難場所等の確認
53.3
災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握
39.2
非常時持ち出し品の用意
27.9
緊急避難場所等への避難経路の確認
27.4
災害時の家族への連絡方法の取り決め
25.8
地域の防災訓練への参加
19.9
家具等の固定
19.2
その他
4.1
無回答
7.1

３　読書活動について

（１）読書への興味

① あなたは読書（※）が好きですか（○は１つ）。

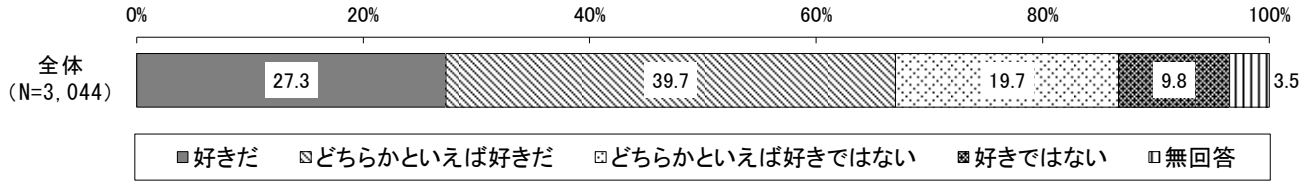
※読書には、新聞（日刊紙の電子購読版を含む。）、雑誌、電子書籍、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注）も含みます。

（注）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したＣＤやカセット等のことです。

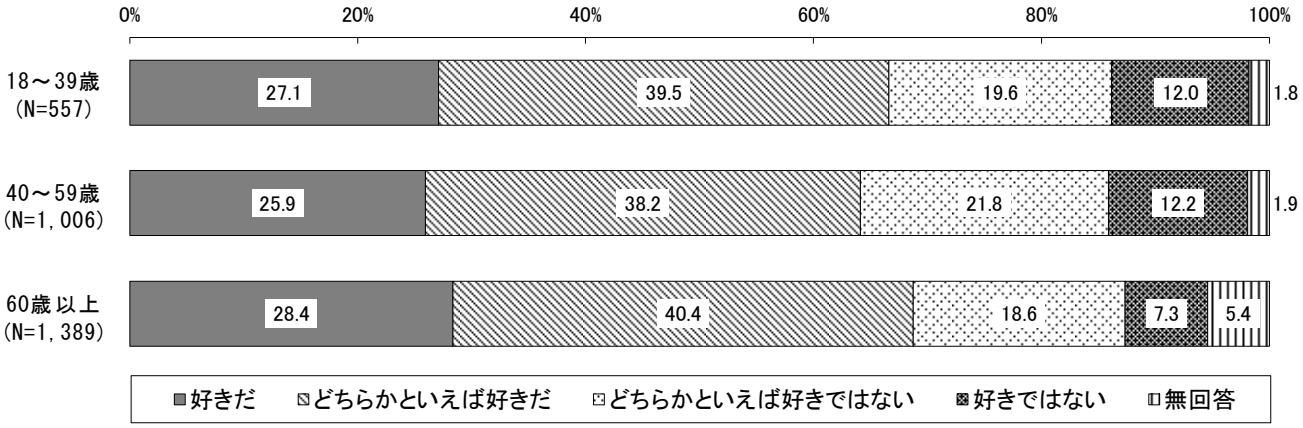
全体では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合（読書を好きと感じている人の割合）は 67.0％で、「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合 29.5％よりも高い。

年代別では、読書を好きと感じている人の割合は、60 歳以上で 68.8％と最も高い。「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合は、40～59 歳で 34.0％と最も高い。

【全体】



【年代別】



（２） １日の平均読書時間

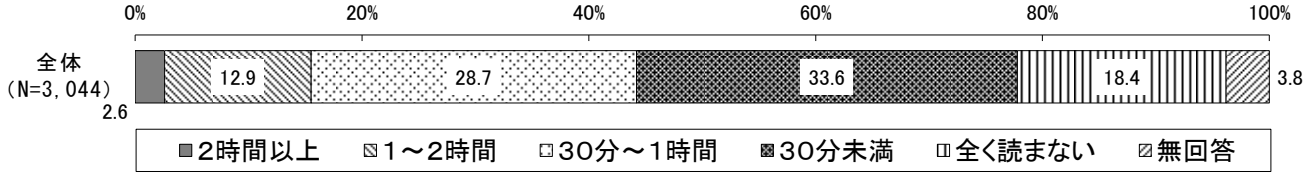
② あなたは１日平均（※）どれくらい読書をしていますか（○は１つ）。

※子どもへの読み聞かせ時間も含みます。
※休日まとめ読みの場合は、１日平均に置き換えてください。

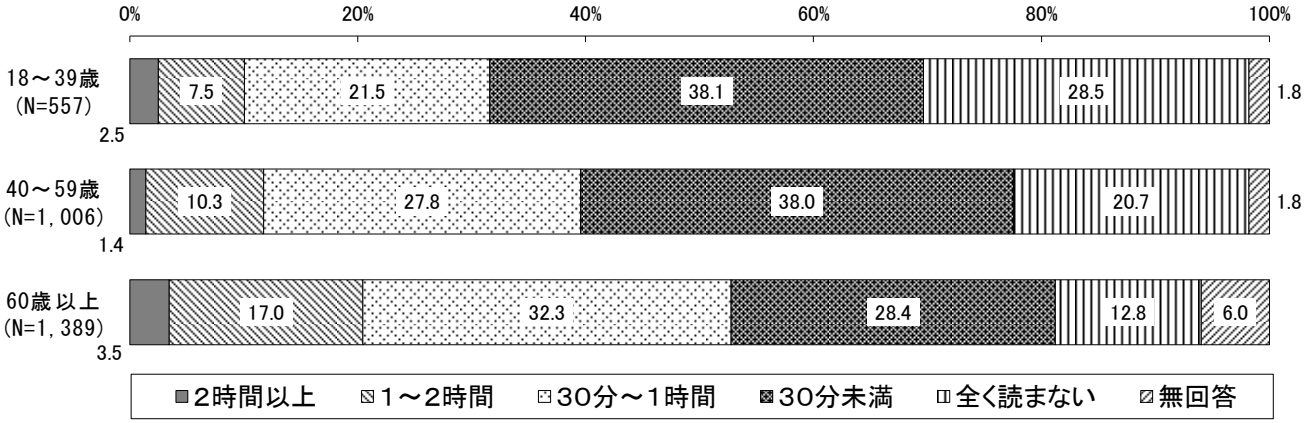
全体では、「２時間以上」、「１～２時間」及び「30 分～１時間」を合わせた割合（30 分以上読書をする人の割合）は 44.2％となっている。また、「全く読まない」の割合は 18.4％となっている。

年代別では、30 分以上読書をする人の割合は、60 歳以上で 52.8％と最も高い。「全く読まない」の割合は、18～39 歳で 28.5％と最も高い。

【全体】



【年代別】



4　農業への就業について

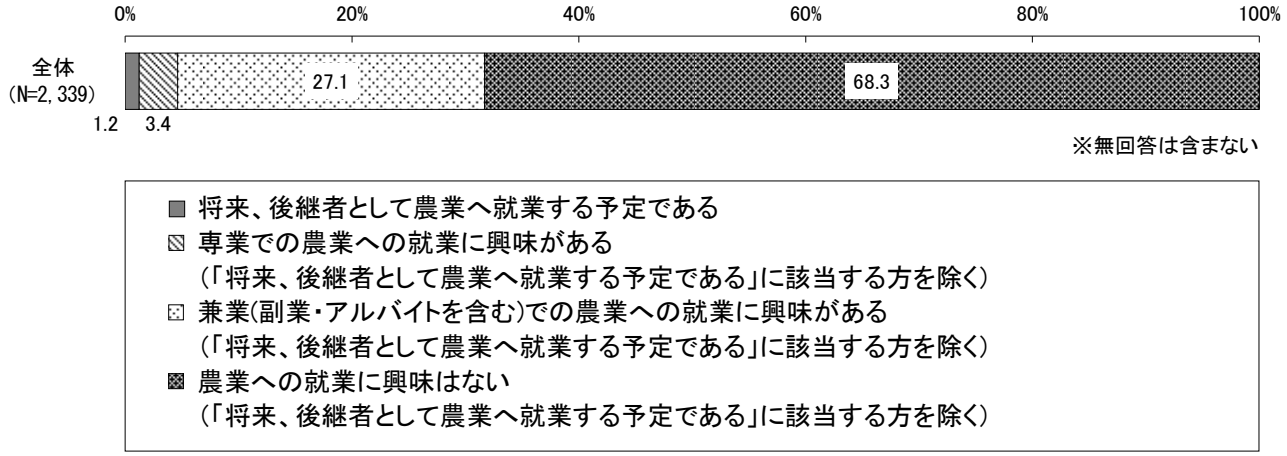
（１）農業への就業についての興味

> ①　現在、農業へ就業していない方にお聞きします。あなたは、農業への就業について、どのように考えていますか（○は１つ）。

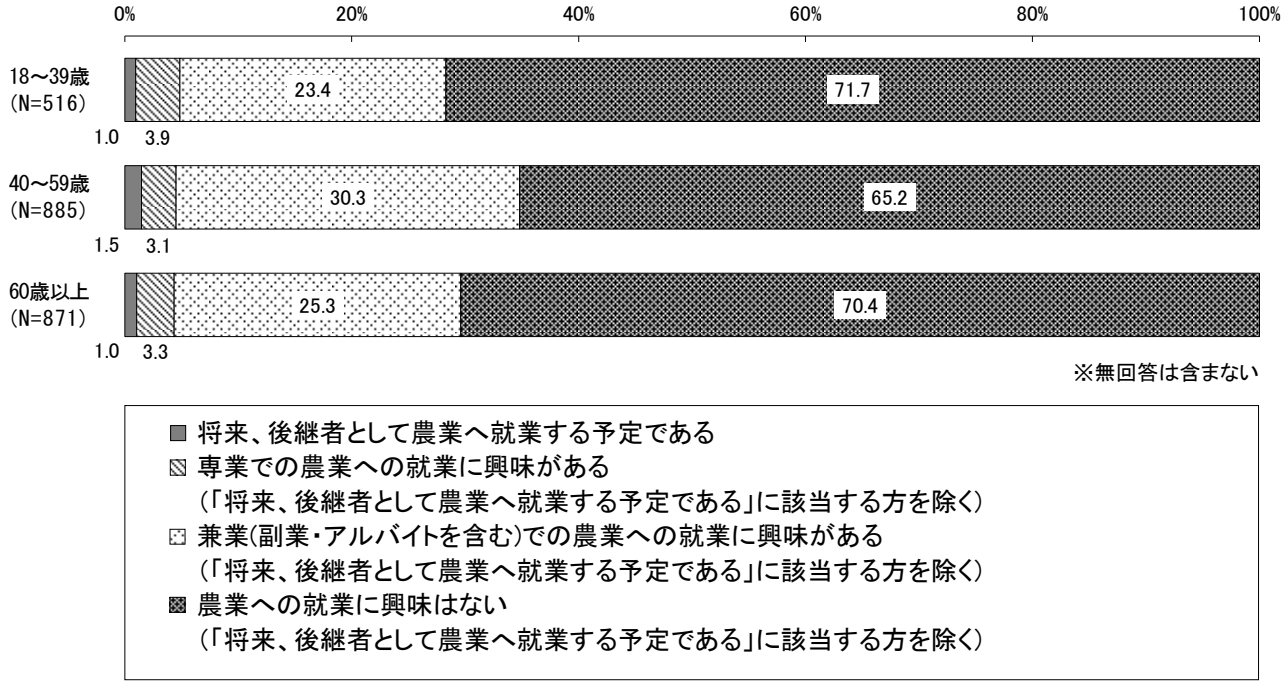
全体では、「農業への就業に興味はない」の割合が 68.3％と最も高く、「専業での農業への就業に興味がある」と「兼業(副業・アルバイトを含む)での農業への就業に興味がある」を合わせた割合 30.5％よりも高い。また、「将来、後継者として農業へ就業する予定である」の割合は 1.2％となっている。

年代別では、「専業での農業への就業に興味がある」と「兼業(副業・アルバイトを含む)での農業への就業に興味がある」を合わせた割合は、40～59 歳で 33.4％と最も高い。「農業への就業に興味はない」の割合は、18～39 歳で 71.7％と最も高い。

【全体】



【年代別】



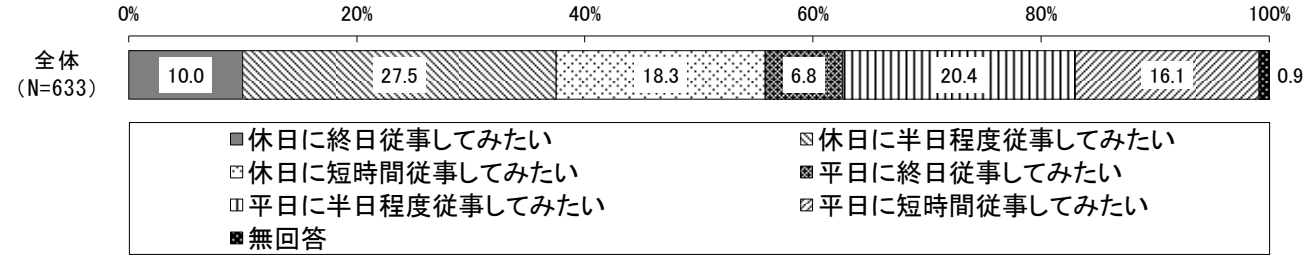
（２）農業へ就業するとした場合、希望する勤務形態

> ② ①で「兼業(副業・アルバイトを含む)での農業への就業に興味がある」を選んだ方にお聞きします。あなたが実際に農業へ就業するとした場合、どのような勤務形態で従事してみたいですか（○は１つ）。

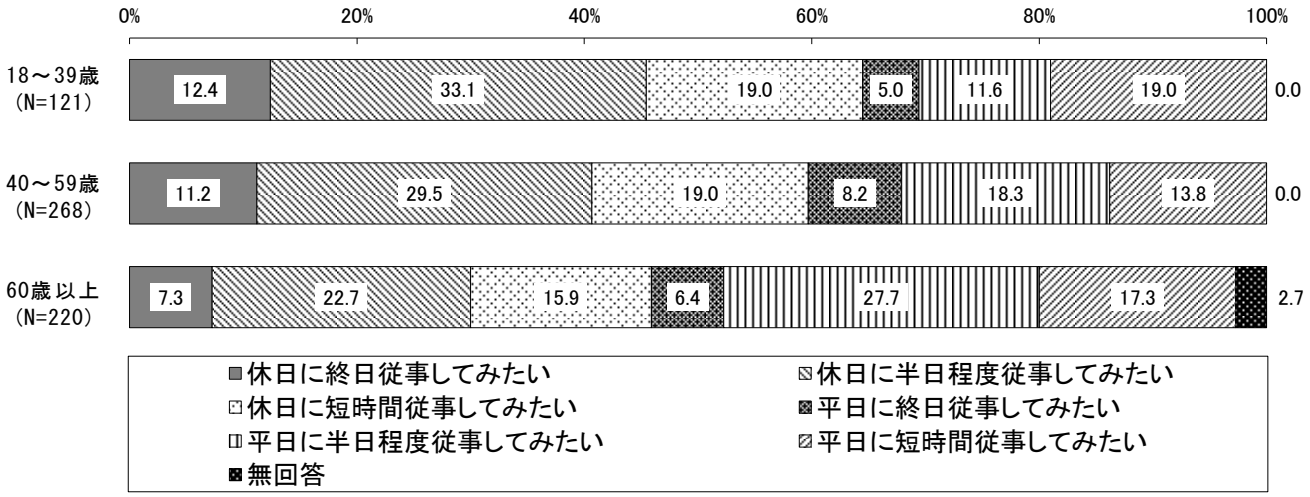
全体では、「休日に半日程度従事してみたい」の割合が 27.5%と最も高く、「平日に半日程度従事してみたい」の 20.4%、「休日に短時間従事してみたい」の 18.3%と続いている。

年代別では、「休日に半日程度従事してみたい」の割合は、18～39 歳で 33.1%と最も高い。「平日に半日程度従事してみたい」の割合は、60 歳以上で 27.7%と最も高い。

【全体】



【年代別】



5　海岸漂着ごみ対策について

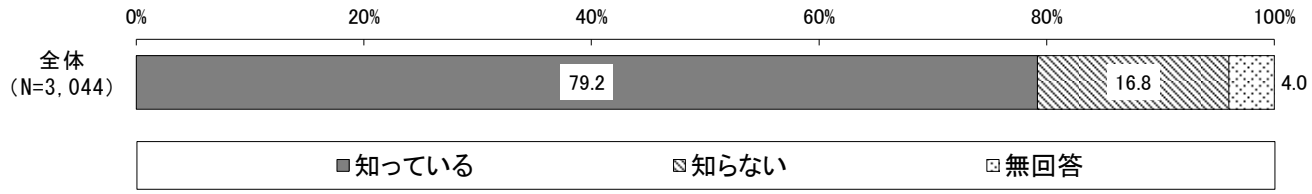
海岸漂着ごみ問題に関する認知度

> ①　秋田県の海岸には毎年のようにごみが漂着し、海岸を汚すなどの問題が発生していますが、あなたは、このことを知っていますか（どちらかに○）。

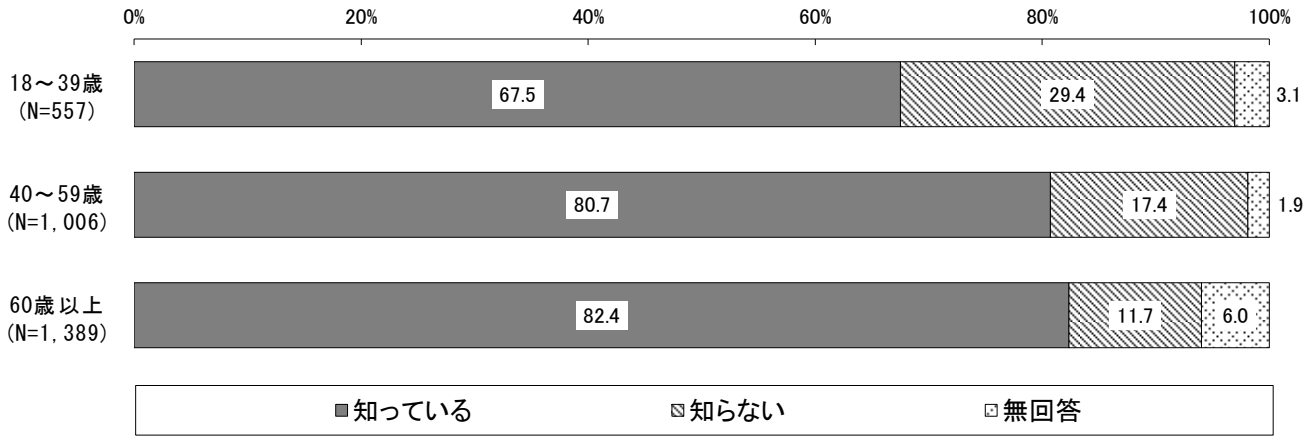
全体では、「知っている」の割合が 79.2％で、「知らない」の割合は 16.8％となっている。

年代別では、「知っている」の割合は、60 歳以上で 82.4％と最も高い。「知らない」の割合は、18～39 歳で 29.4％と最も高い。

【全体】



【年代別】



６　がん対策について

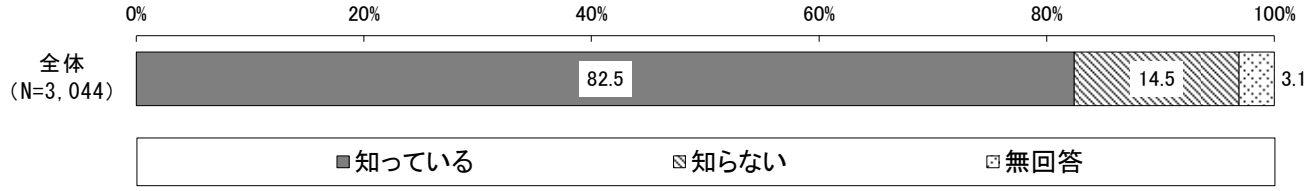
（１）日本人のがん発症率に関する認知度

①　あなたは、日本人の２人に１人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

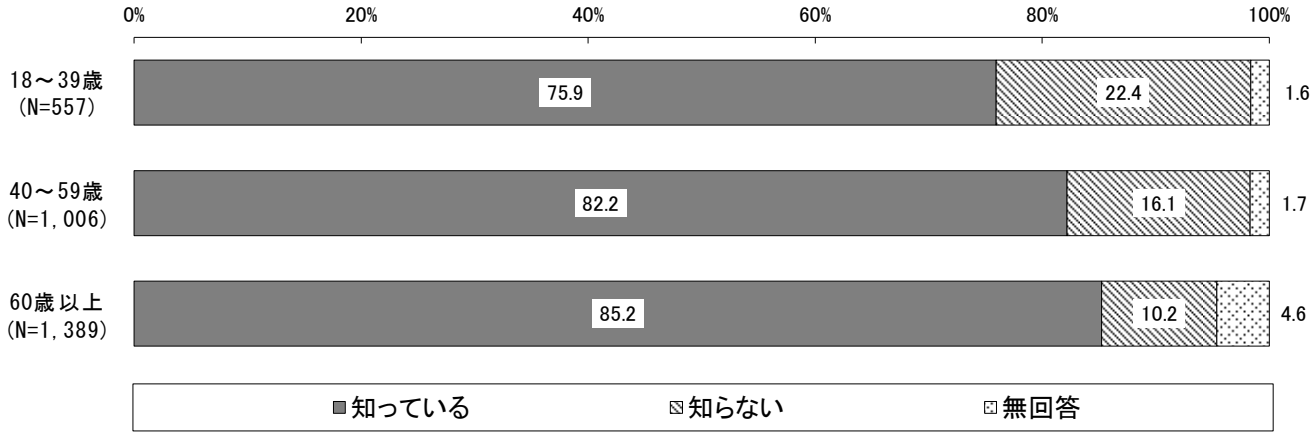
全体では、「知っている」の割合は 82.5％で、「知らない」の割合は 14.5％となっている。

年代別では、「知っている」の割合は、60 歳以上で 85.2％と最も高い。「知らない」の割合は、18～39 歳で 22.4％と最も高い。

【全体】



【年代別】



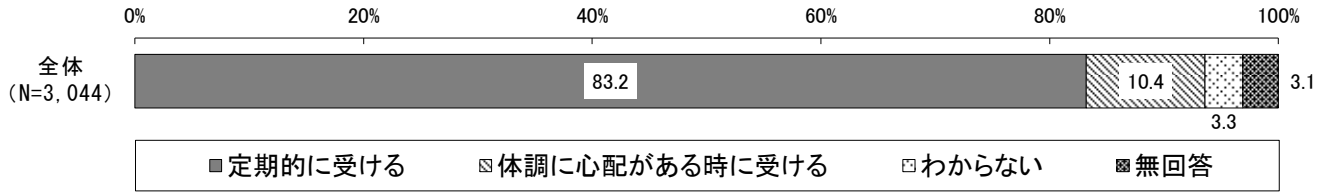
（２）がん検診の受診時期に対する考え方

②　あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（○は１つ）。

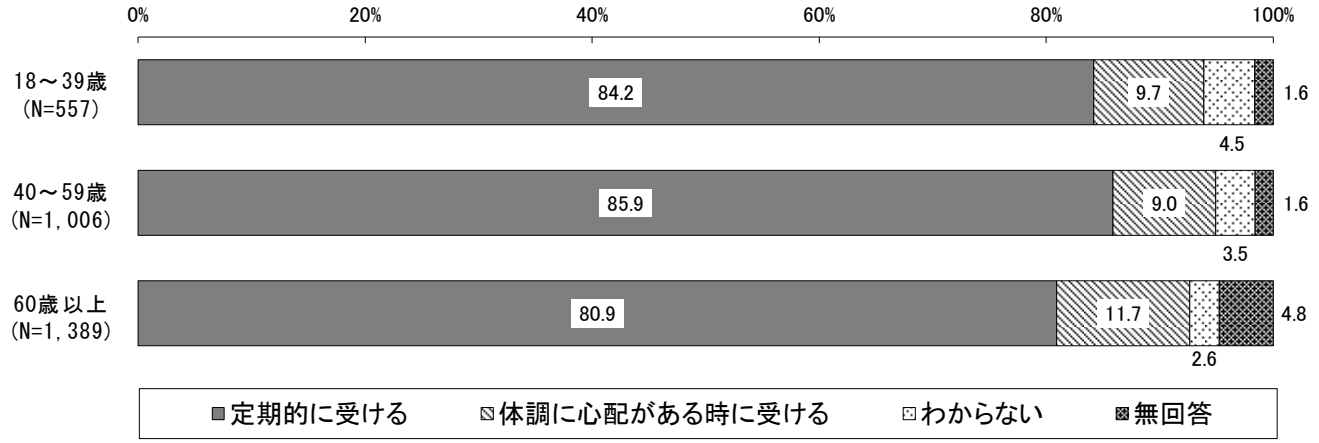
全体では、「定期的に受ける」の割合は 83.2％で、「体調に心配がある時に受ける」の割合は 10.4％となっている。

年代別では、「定期的に受ける」の割合は、40～59 歳で 85.9％と最も高い。

【全体】



【年代別】



7　社会活動・地域活動について

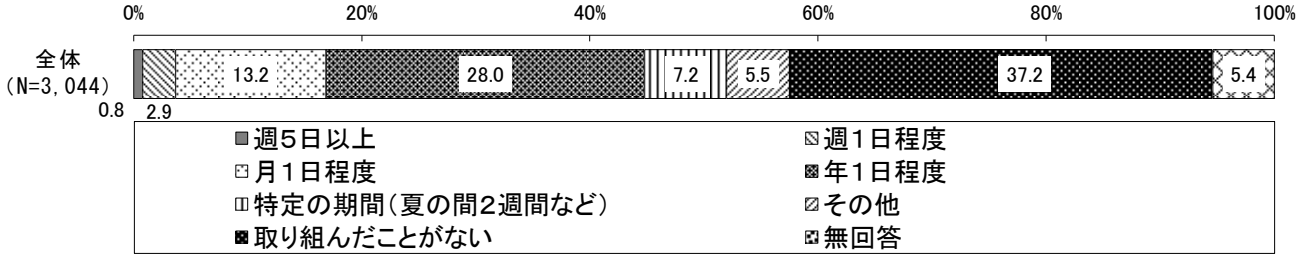
社会活動・地域活動への取組の頻度

> ①　あなたが、ここ１年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」（※）に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか（○は１つ）。
>
> ※「社会活動・地域活動」の具体例
> 地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

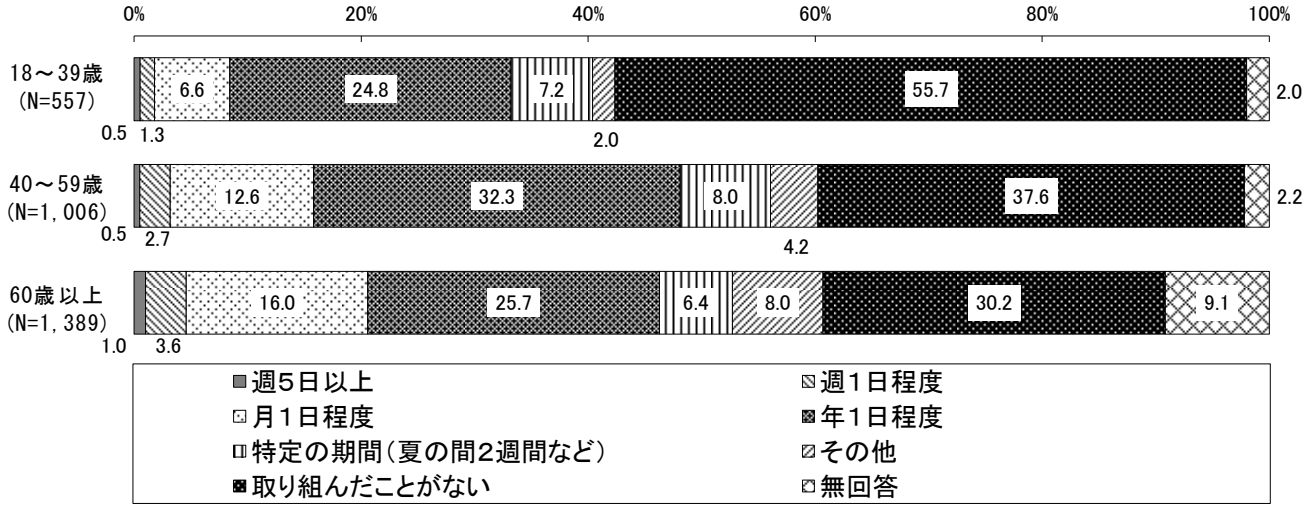
全体では、「取り組んだことがない」の割合が 37.2％と最も高く、「年１日程度」の 28.0％、「月１日程度」の 13.2％と続いている。

年代別では、「取り組んだことがない」の割合は、18～39 歳で 55.7％と最も高く、60 歳以上で 30.2％と最も低い。

【全体】



【年代別】



８　自転車の安全な利用について

自転車損害賠償責任保険への加入状況

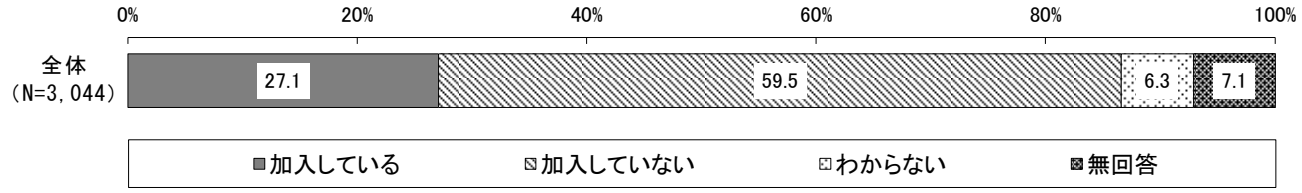
① あなたは「自転車損害賠償責任保険（※）」に加入していますか（○は１つ）。

※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。
※自転車保険単独のものや、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約、共済、職場の団体保険などがあります。

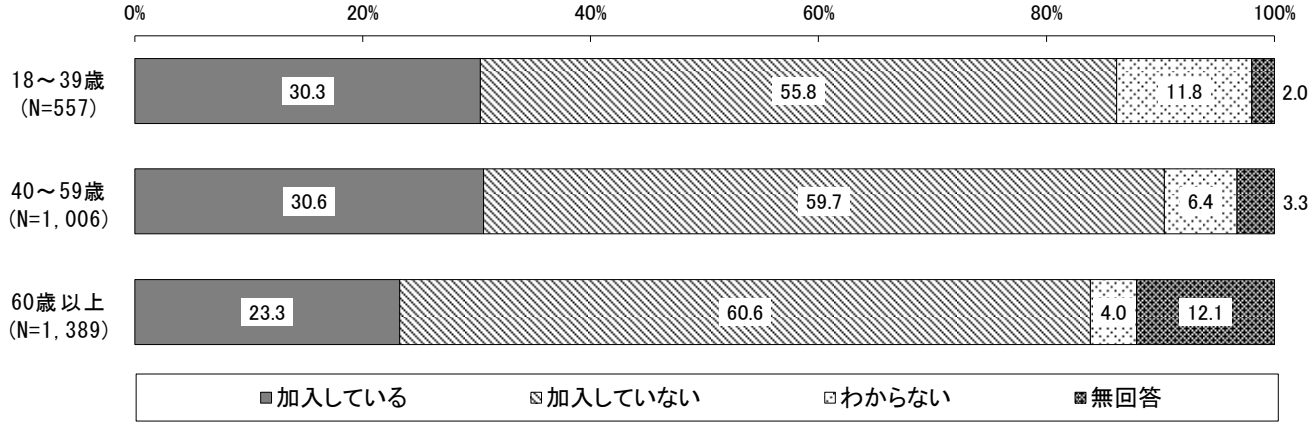
全体では、「加入している」の割合は 27.1％で、「加入していない」の割合は 59.5％となっている。

年代別では、「加入している」の割合は、40～59 歳で 30.6％と最も高い。「加入していない」の割合は、60 歳以上で 60.6％と最も高い。

【全体】



【年代別】



９　男女共同参画について

「男は仕事、女は家庭」の考え方

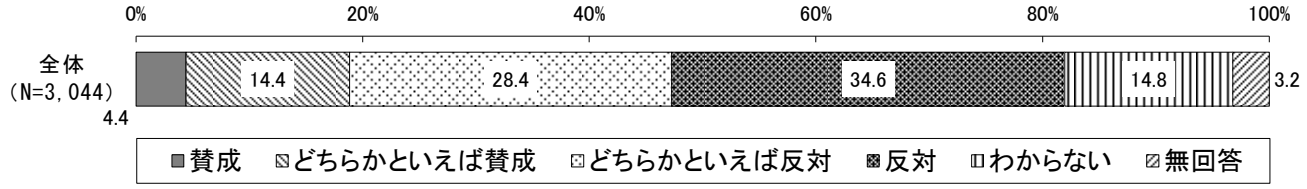
> ①　「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか（○は１つ）。

全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は 18.8％で、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合 63.0％よりも低い。

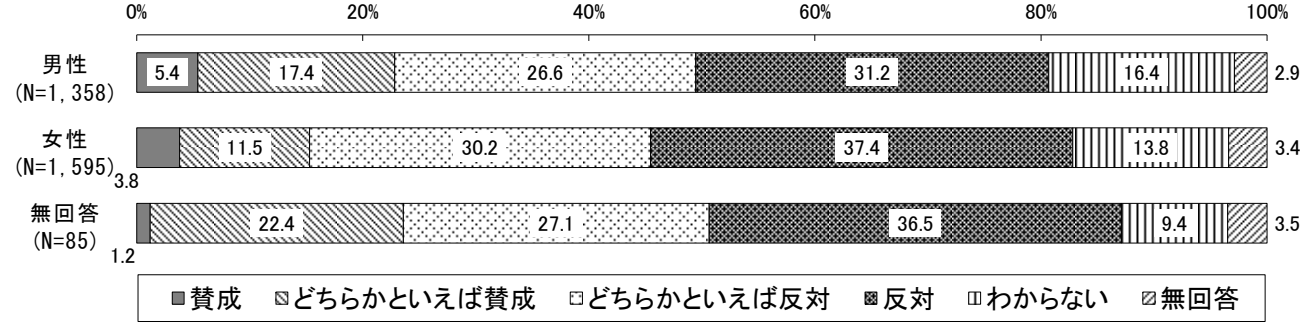
性別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、男性が女性より高く、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、60 歳以上で 23.8％と最も高い。「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、18～39 歳で 69.5％と最も高い。

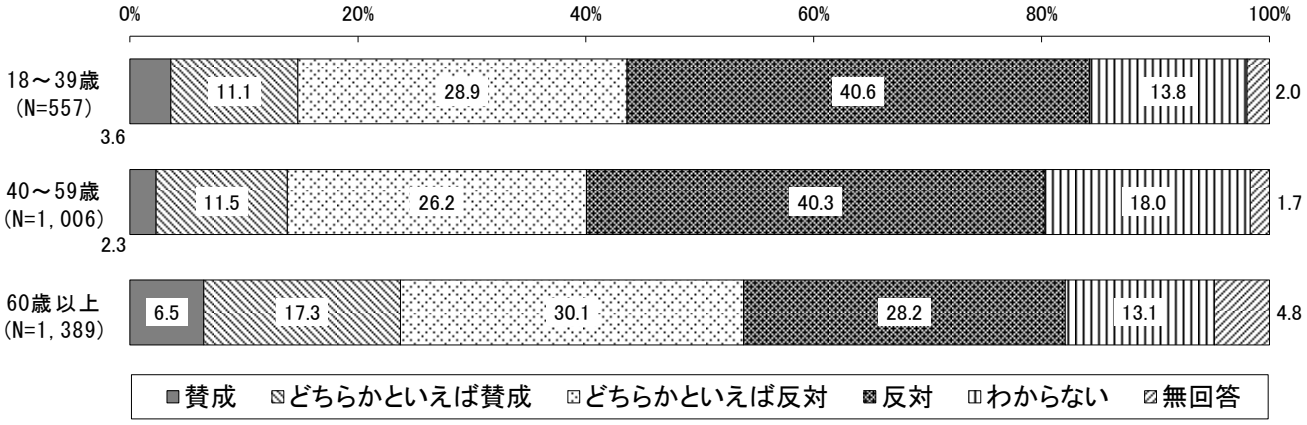
【全体】



【性別】



【年代別】



10　環境保全活動について

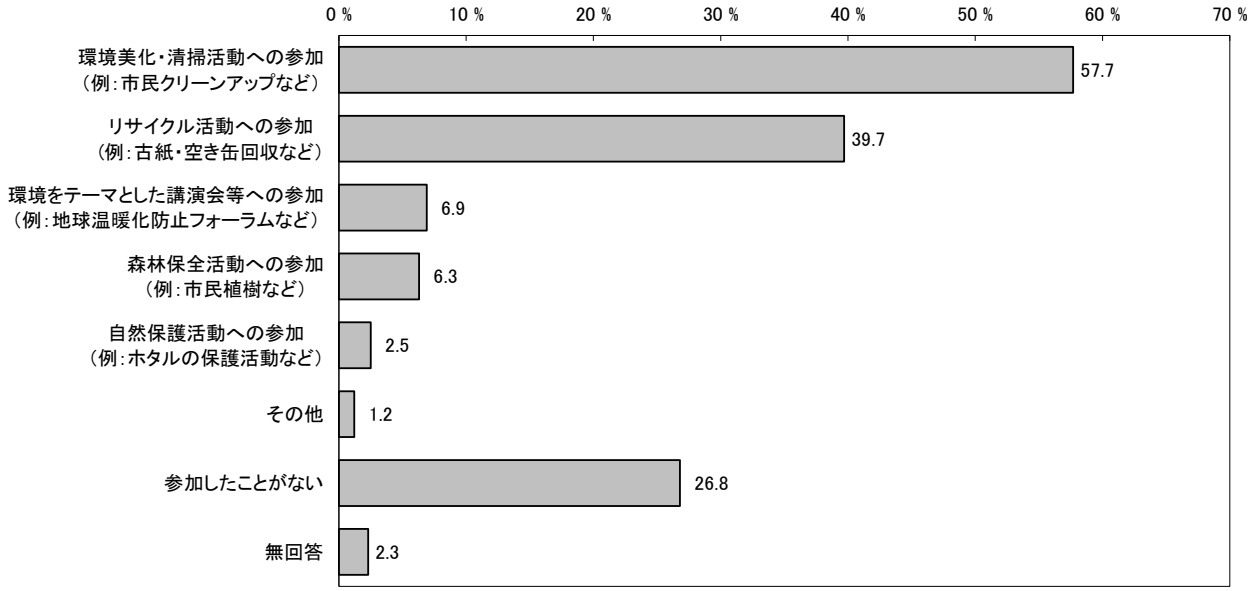
環境保全活動への参加状況

①　あなたは、これまで環境保全活動に参加したことがありますか（○はいくつでも）。

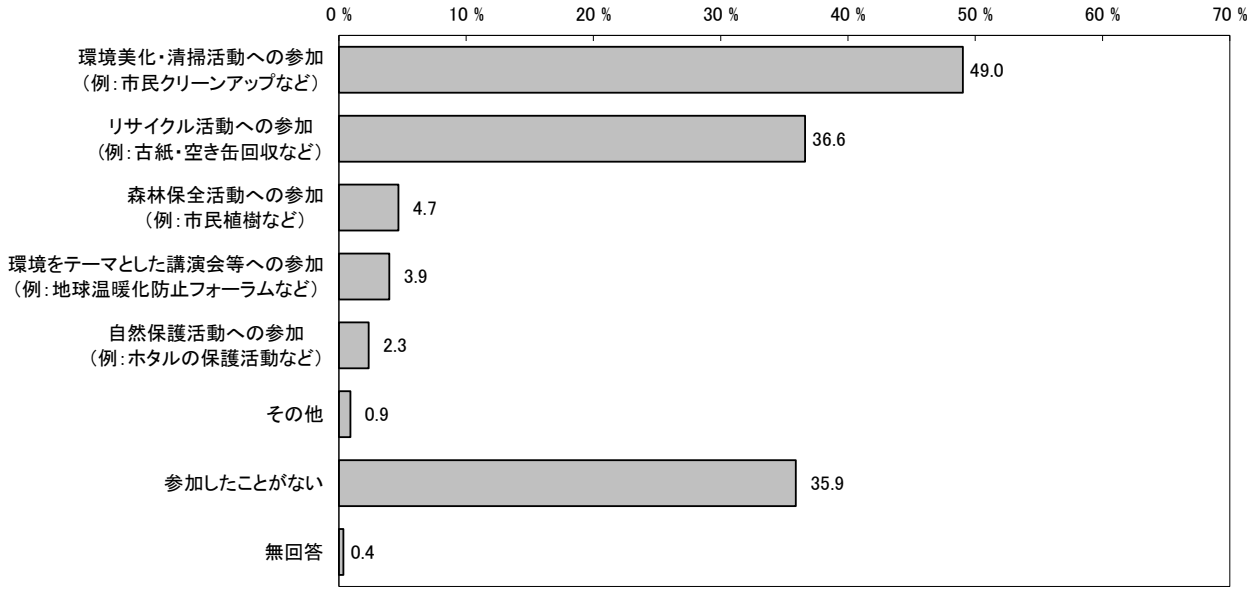
全体では、「環境美化・清掃活動への参加」の割合が 57.7%と最も高く、「リサイクル活動への参加」の39.7%、「参加したことがない」の 26.8%、「環境をテーマとした講演会等への参加」の 6.9%と続いている。

年代別では、全年代共通で「環境美化・清掃活動への参加」の割合が最も高く、「リサイクル活動への参加」がそれに続いている。また、年代が低くなるにつれて、「参加したことがない」の割合が高くなっている。

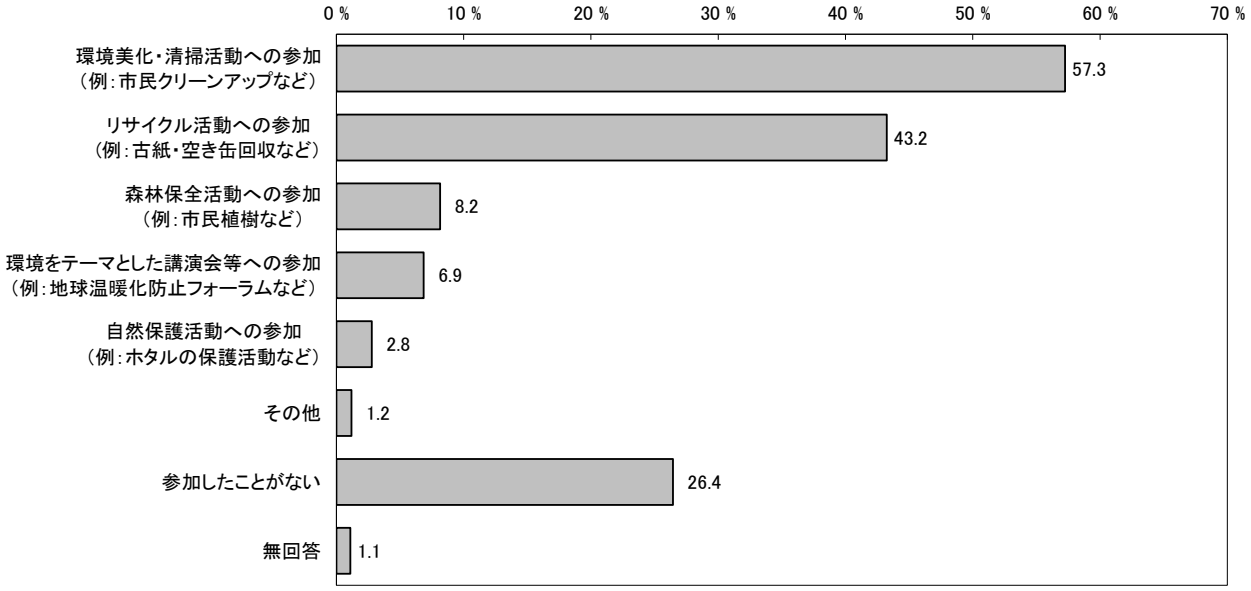
【全体】



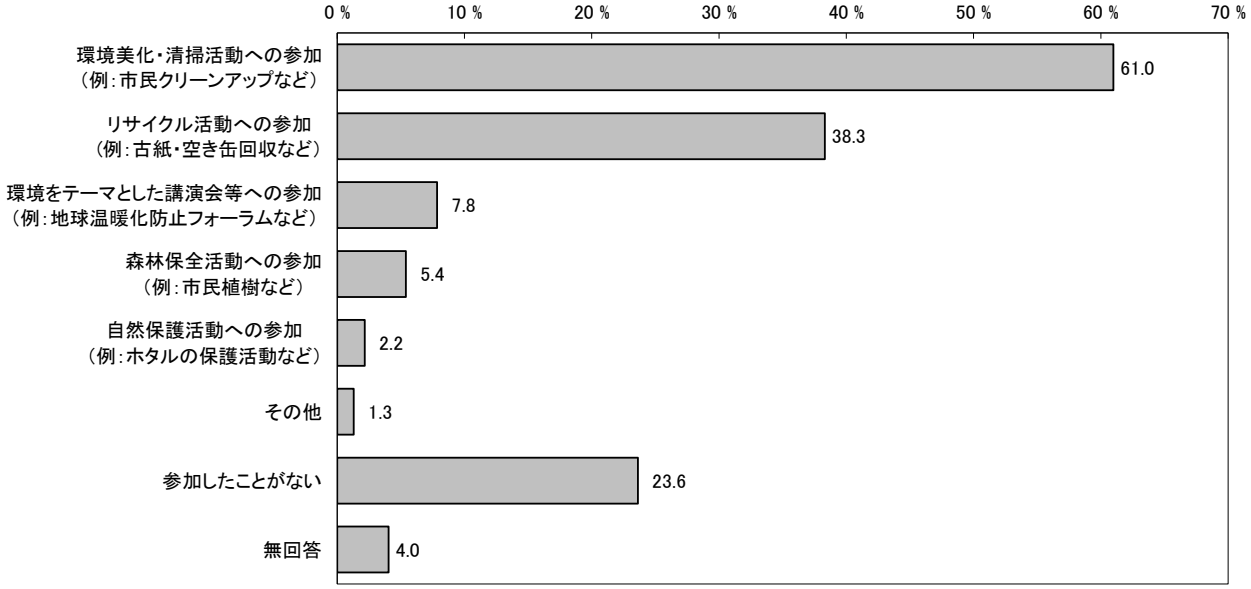
【年代別】
〔18～39 歳〕



〔40～59 歳〕


0 %
10 %
20 %
30 %
40 %
50 %
60 %
70 %
環境美化・清掃活動への参加
（例：市民クリーンアップなど）
57.3
リサイクル活動への参加
（例：古紙・空き缶回収など）
43.2
森林保全活動への参加
（例：市民植樹など）
8.2
環境をテーマとした講演会等への参加
（例：地球温暖化防止フォーラムなど）
6.9
自然保護活動への参加
（例：ホタルの保護活動など）
2.8
その他
1.2
参加したことがない
26.4
無回答
1.1

〔60 歳以上〕


0 %
10 %
20 %
30 %
40 %
50 %
60 %
70 %
環境美化・清掃活動への参加
（例：市民クリーンアップなど）
61.0
リサイクル活動への参加
（例：古紙・空き缶回収など）
38.3
環境をテーマとした講演会等への参加
（例：地球温暖化防止フォーラムなど）
7.8
森林保全活動への参加
（例：市民植樹など）
5.4
自然保護活動への参加
（例：ホタルの保護活動など）
2.2
その他
1.3
参加したことがない
23.6
無回答
4.0

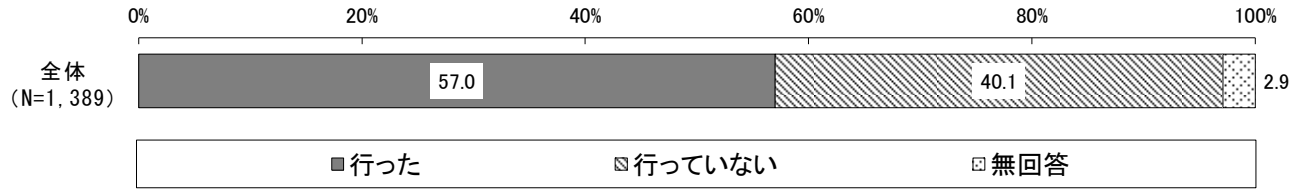
11　高齢者の社会参加について

６０歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和元年度）

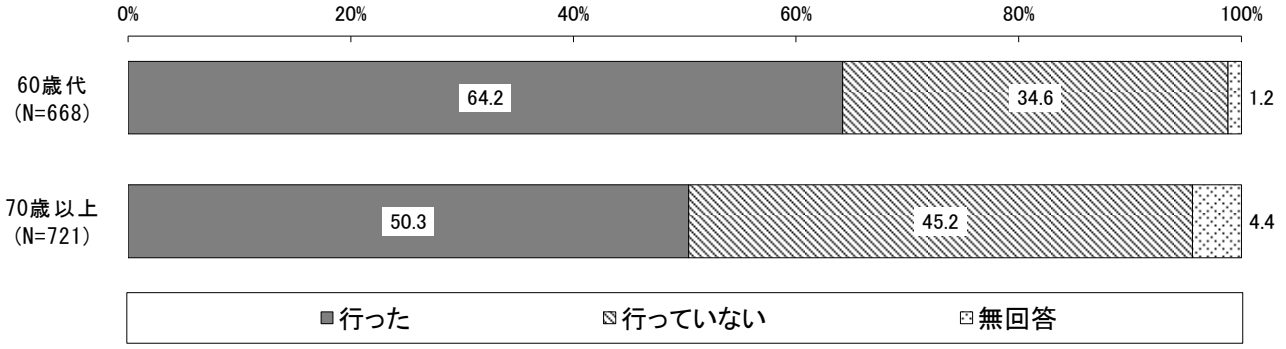
①　６０歳以上の方にお聞きします。あなたは、令和元年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに〇）。

全体では、「行った」の割合は 57.0％で、「行っていない」の割合は 40.1％となっている。
年代別では、「行った」の割合は、60 歳代で 64.2％と 70 歳以上より高くなっている。

【全体】



【年代別】



12　子ども・若者への支援について

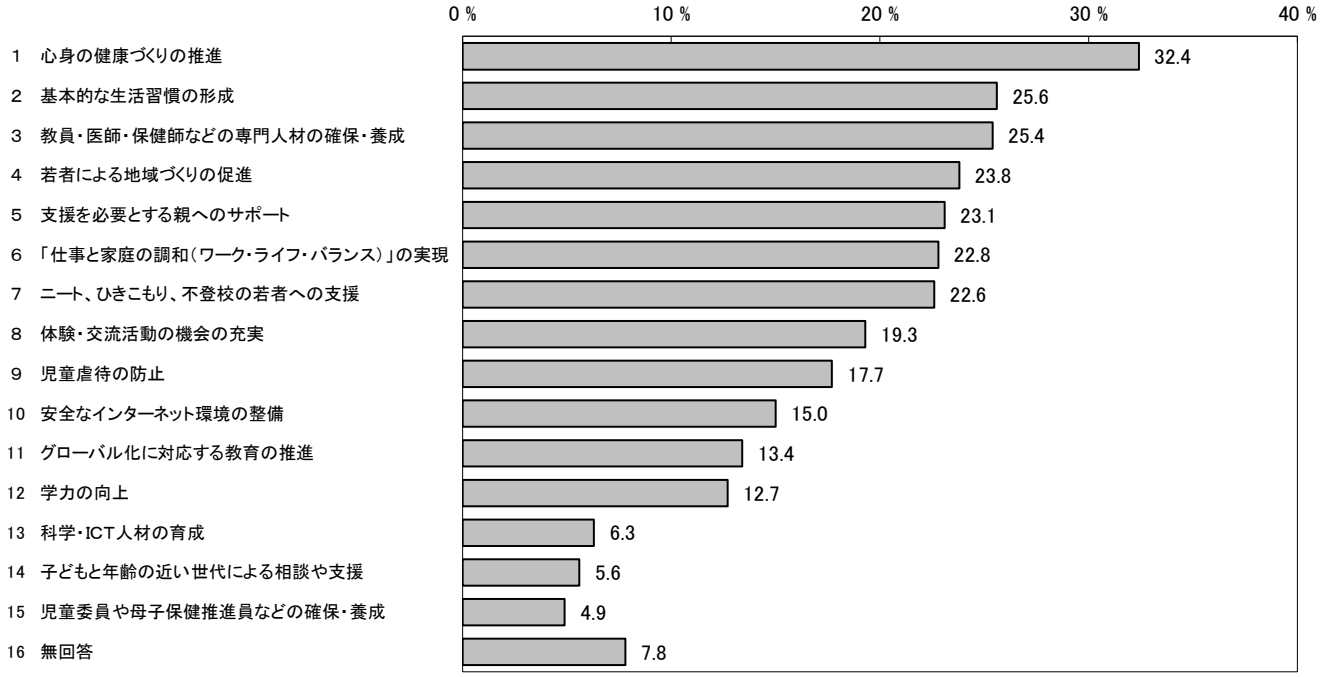
子ども・若者への支援で、県に特に力を入れてほしいこと

> ①　すべての子ども・若者が健やかに成長し、希望を持って社会生活を送ることができるようにするために、あなたが県に特に力を入れてほしいことは何ですか。下から３つまで選択して番号を記入してください。

全体では、「心身の健康づくりの推進」の割合が32.4％と最も高く、「基本的な生活習慣の形成」の25.6％、「教員・医師・保健師などの専門人材の確保・養成」の25.4％、「若者による地域づくりの促進」の23.8％と続いている。

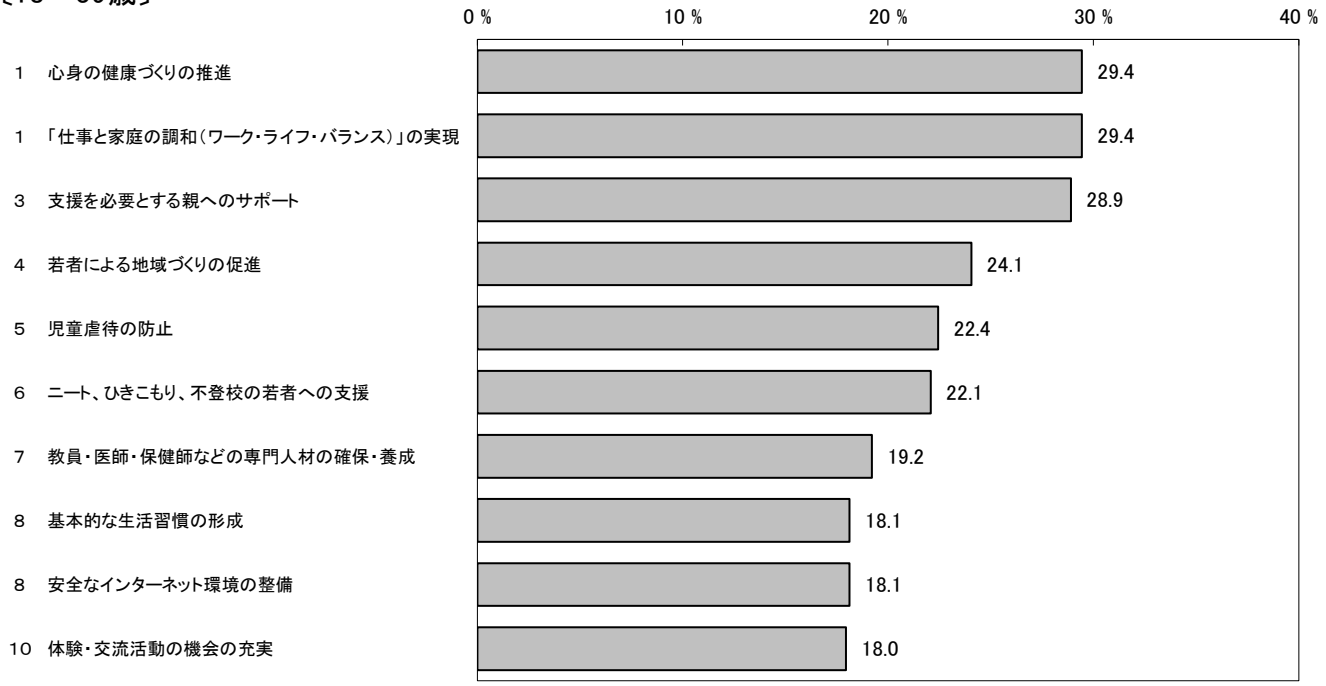
年代別では、全年代共通で「心身の健康づくりの推進」が１位となっている。また、年代が上がるにつれて、「基本的な生活習慣の形成」の順位が上位になっている。さらに、年代が下がるにつれて、「「仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス)」の実現」の順位が上位になっている。

【全体】

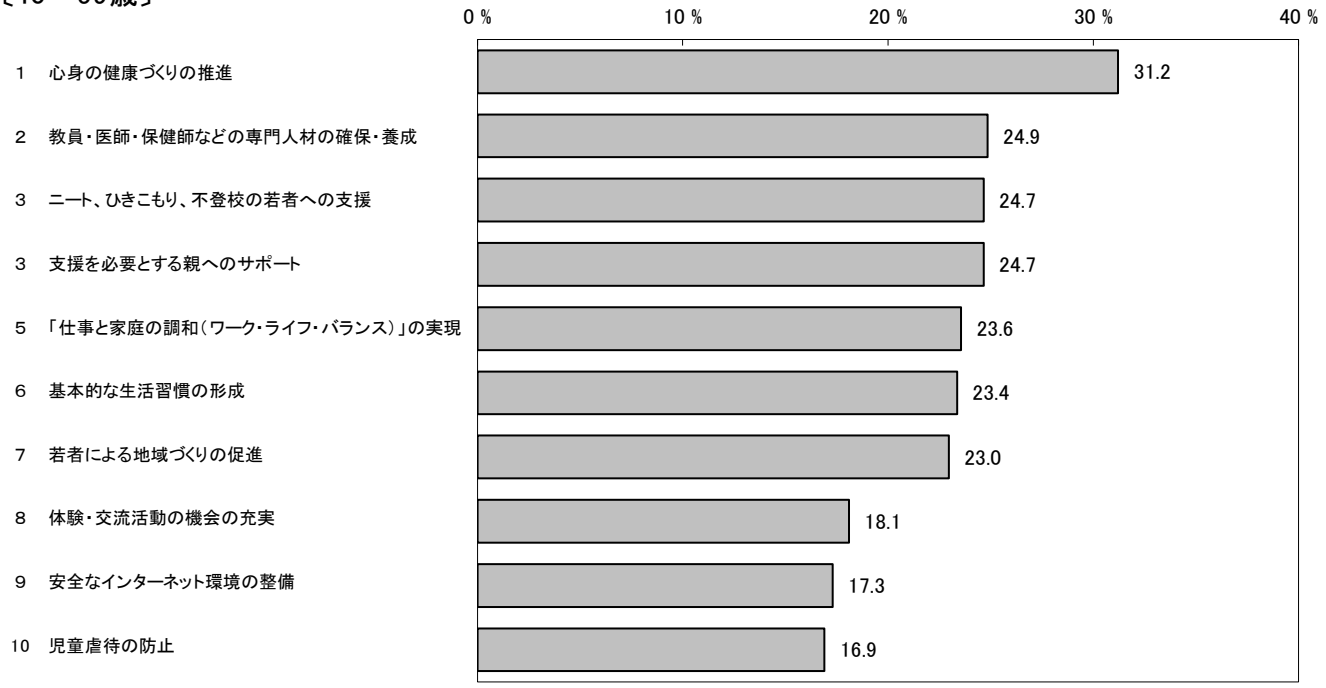


【年代別】

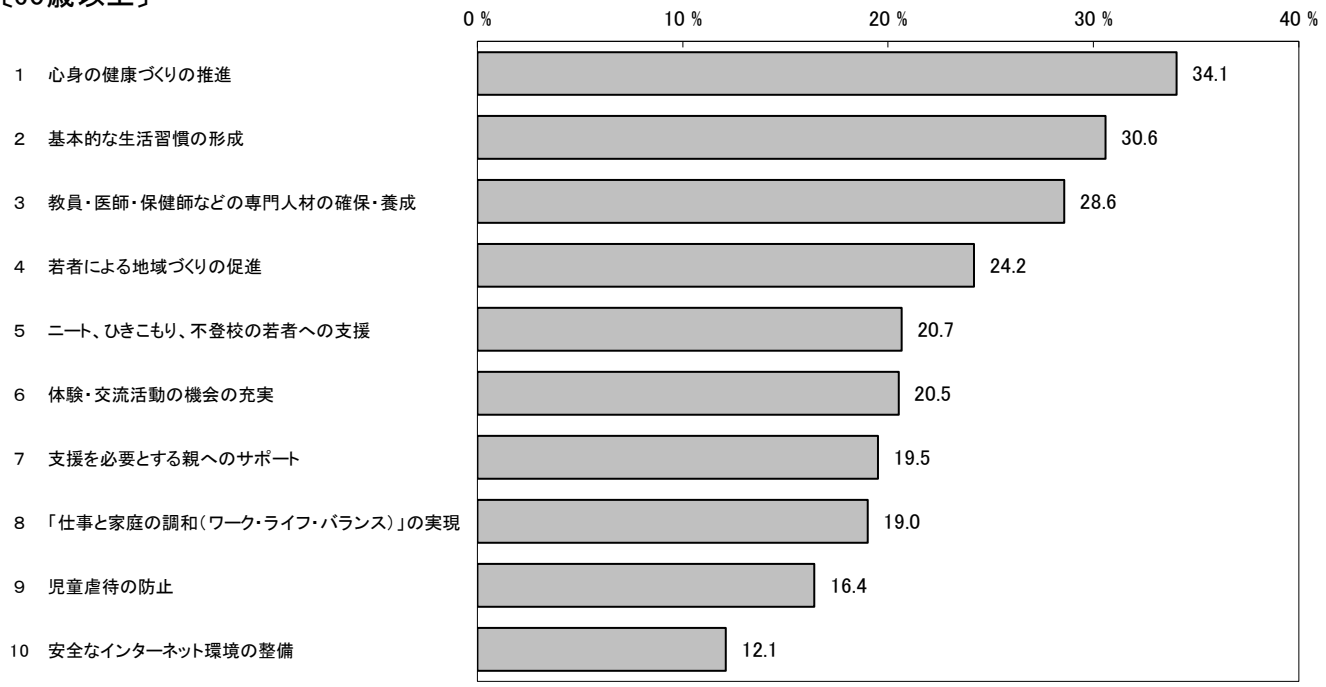
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕



〔60歳以上〕


0 %
10 %
20 %
30 %
40 %
1 心身の健康づくりの推進
34.1
2 基本的な生活習慣の形成
30.6
3 教員・医師・保健師などの専門人材の確保・養成
28.6
4 若者による地域づくりの促進
24.2
5 ニート、ひきこもり、不登校の若者への支援
20.7
6 体験・交流活動の機会の充実
20.5
7 支援を必要とする親へのサポート
19.5
8 「仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現
19.0
9 児童虐待の防止
16.4
10 安全なインターネット環境の整備
12.1

第４章　県政への自由意見について

県に力を入れて欲しいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。（問４）

【集計の方法】

回答は、内容からＡ～Ｎの 14 項目に分類した。同一の回答者が複数の意見を記入している場合には、項目を分けて別意見として扱っている。

１　自由意見の項目別件数

項番	項　　目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	94
B	移住・定住に関すること	59
C	女性・若者の活躍支援に関すること	16
D	地域社会の維持・活性化に関すること	53
E	商工業・雇用・労働に関すること	177
F	農林水産業に関すること	65
G	観光に関すること	29
H	文化・スポーツに関すること	22
I	道路・交通ネットワークに関すること	51
J	健康・医療・福祉に関すること	99
K	教育に関すること	55
L	県土の保全・防災に関すること	7
M	身近な生活・環境に関すること	46
N	県政全般に対する意見・その他	437
	合　　計	1,210

２　主な自由意見

749 人から、1,210 件の意見があった。一部を抜粋して掲載する。誤字等は修正しているため、掲載文は回答の原文とは異なる場合がある。

Ａ．少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること

●秋田の豊かな自然を生かした、秋田に合った少子化対策があるのではないかと思います。（女性／５０歳代／秋田地域）

●子育て支援にもっと力を入れてほしい。（男性／４０歳代／秋田地域）

●子育て支援センターなど子どもを遊ばせる場所をもう少し作ってほしい。（女性／３０歳代／仙北地域）

●子育てについては、助けられることは多いと思います。しかし、県外に出た若い世代に、伝わっていないと思います。帰ってきたいふるさとであると、知らないのでは？　小・中・高校にいる間に、せっかくの取組を伝え、定着させるべきかと思います。（女性／４０歳代／雄勝地域）

●子どもが多い家庭への支援が足りないと思います。子ども手当てが出ているのはわかりますが、それだけでその一家が十分に生活していけているか疑問であり、共働きをしても、子ども一人にかかる学校のお金には、充分ではないと思います。子どもが多い家庭にもっと充実した支援をお願いします。（女性／５０歳代／秋田地域）

●保育士の処遇改善を求める。離職率が高いのは賃金だけではないが、賃金が上がることが望ましい。（女性／３０歳代／由利地域）

●昔よりも結婚をしない人が多いように感じます。外に出なくなったり、出会いの場がないのではないか？と考えます。若い人達が集まれる場や、催し等、何か考えて頂きたいです。（女性／５０歳代／平鹿地域）

●県人口がもっと増えるように、特に若い夫婦が安心して出産できるよう、各方面から支援があったらと思う。（男性／６０歳代／北秋田地域）

Ｂ．移住・定住に関すること

●若者がなぜ県外へ出ていくのか。もう少し若者の意見を聞き、それに沿った取り組みを推進してほしいと思います。いつも課題として挙がっていますが、何も前へ進んでいないようにしか見えません。もっとスピーディーで斬新な改革が必要だと思います。（女性／５０歳代／秋田地域）

●学力№１だとしても、その学力をもって県外に行ってしまっては（就職、進学などで）人口は減るばかり。大学、就職先などその先を確保しないと意味がない。（女性／３０歳代／秋田地域）

●ふるさと秋田に若者や学生が残りたい！と思えるような事業（雇用創出、地域づくりｅｔｃ…）を展開してもらいたいです。（男性／２０歳代／雄勝地域）

●若い人たちが秋田にいたいと思えるような県にしてほしい。（女性／３０歳代／山本地域）

●秋田は、冬はちょっと大変ですが住みやすい方だと思います。仕事・子育ての魅力をもっと発信し、帰郷・移住する人が増えてくれたらと思います。（男性／６０歳代／仙北地域）

●人口減少社会として、県外国外からもっと積極的に移住者を募り、また安心して生活できるまでサポートすべきと思います。企業の誘致や、このコロナの状況を踏まえて、リモート勤務可能な県外居住者や、家族の呼び戻しなどについても、積極的に働きかけが必要だと思う。（女性／４０歳代／仙北地域）

Ｃ．女性・若者の活躍支援に関すること

●女性が働きやすい職場づくり（給料面など）。（女性／５０歳代／秋田地域）

●男女共同参画について、「男は仕事、女は家庭」という考え方が、秋田県の現状を表していると思います。共働きをしなければ暮らしていけないのに、働きながら家事をこなして、育児もこなし、さらには介護も行う人もいます。しかし、秋田の根底には「男は仕事、女は家庭」の考えがあるのです。この状態で男女平等、男女共同参画が実現できると思うのでしょうか？　女性の地位向上が必須です。そして、女性がもっと多様な生き方、働き方ができることが理想です。（女性／２０歳代／仙北地域）

●男女格差への意識改革。（女性／４０歳代／北秋田地域）

●もっと若者が働きやすい秋田県であってほしい。（女性／６０歳代／雄勝地域）

●一人でも多くの若い方が主体性をもってイキイキ過ごせる、そんな秋田ができていけば頼もしいと思います。（女性／６０歳代／秋田地域）

Ｄ．地域社会の維持・活性化に関すること

●高齢化により地域の人々もいなくなってしまい、生活するための衣食住に影響することが心配される。交通体系の強化、移動販売がこれからは必要。（男性／５０歳代／山本地域）

●子どもたちが少なくて、地域の元気がなくなってきていると思う。（女性／６０歳代／平鹿地域）

●活発で、老いも若きもいろいろな行事に参加して、元気な町であったらと思います。（性別不明／年代不明／居住地域不明）

●若者が興味のありそうな企画、展示、販売などがある建物やまちづくり。若者、高齢の方が一緒に楽しめる場所がもっとほしいと思う。（女性／５０歳代／雄勝地域）

●各市町村の中心街の廃れが目立ち、淋しい感じがします。活性化してほしいと思います。（女性／６０歳代／北秋田地域）

Ｅ．商工業・雇用・労働に関すること

●秋田県の人口が年々減少しているのは誰もが知っていることだと思います。働く場があれば地元に残りたいと話している若者が多いので働く場を確保してほしい。（女性／６０歳代／秋田地域）

●もっと若者が働ける場を増やしてほしいです。（女性／４０歳代／山本地域）

●人口減少のためには、働く場所の確保が大切だと思う。子どもたちに聞くと、なりたい仕事が秋田にないから、将来は秋田にいないという子どもが多い。（女性／４０歳代／平鹿地域）

●県外の大学に行った子どもたちは、便利な環境や過ごしやすい気候に慣れてしまい、秋田に魅力を感じず、そのまま都会で就職してしまいます。「自分の希望する仕事が、秋田にない」と言われてしまえば、戻っておいでとは言えません。もっと学生が就職したいと思える企業誘致ができればと思います。（女性／５０歳代／秋田地域）

●県出身の優秀な人材を県内へ引き戻す求心力が必要。魅力的な就職先や企業を増やす支援をしてほしい。特にＩＴ企業。（男性／７０歳以上／北秋田地域）

●地域経済を牽引できる企業はまだ少ない。企業誘致等により誰もが働きやすい職場環境を整備してもらいたい。（男性／７０歳以上／秋田地域）

●企業誘致。すでに力を入れているのは知っているが、実を結んでほしい。雇用が安定して、税収が増えないと、他のやるべき施策にも予算が回らない。（女性／３０歳代／居住地域不明）

●秋田で企業を興す若者がもっと増えるよう手助けをよろしくお願いしたい。（男性／６０歳代／秋田地域）

●最低賃金を上げてほしい。（女性／３０歳代／由利地域）

●労働者の賃金を上げることに取り組んでほしい。（男性／４０歳代／仙北地域）

●県内企業の所得水準を向上し、地元定着率を高め、地元でお金の回る仕組みづくり。（男性／７０歳以上／秋田地域）

●中年以上の仕事の確保。転職先が全くない。（男性／５０歳代／平鹿地域）

●６０歳以上でも働ける会社を多くしてほしい。（男性／４０歳代／秋田地域）

●ワークライフバランスについて、首都圏ではいろいろな働き方、企業の工夫があるが、県内では古くからの考えがまだまだ…。企業の問題とは思いますが県全体で意識改革をしていくのはどうでしょうか。ｅｘ）病院で２交代３交代勤務を自由に選べる、在宅ワーク推奨など。（女性／３０歳代／山本地域）

●新型コロナウイルスの影響により、中小企業の皆様が困っていることをテレビ等で知りました。県によりきめ細かい応援をしていただき、コロナによる倒産をなくしてほしいです。（男性／７０歳以上／雄勝地域）

●コロナウイルスの流行で大変な企業への補助金の助成（長い時間をかけてもフォローをしてほしい。）。（女性／３０歳代／秋田地域）

●コロナウイルスによる社会情勢の変化で、地方にも光が当たるであろう昨今、リモートやオンラインを使った仕事が生かされると思う。秋田にとってはチャンスと捉えている。「暮らしやすさ」を強調し、事務所やオフィスを積極的に誘致し、若者を引き込むこともできる。その支援に力を入れてはどうか。（女性／５０歳代／仙北地域）

●真面目な県民性が功を奏してコロナの感染者が少なかったのは、良かったと思います。企業誘致も、この県民性を生かして企業が増えていってくれればと思います。（男性／７０歳以上／雄勝地域）

Ｆ．農林水産業に関すること

●地場産業である農林水産業の担い手育成に力を入れていただきたい。（女性／６０歳代／由利地域）

●高齢化が進み、農業従事者が年々少なくなっています。若者が農業に興味を持てるような環境を作ってもらいたい。（女性／５０歳代／仙北地域）

●農業に興味があるが、資金の無い人への後押し。県で支援する農業での副業があってもいいと思う。（男性／４０歳代／雄勝地域）

●現在農業に従事していますが、世代間の考え方など隔たりが多く、最終的に離農するという形が多く見られます。農業県としても取組をしてもらいたいです。（男性／２０歳代／仙北地域）

●秋田の農業を全国、世界へ発信してほしい。ＩＴ、ＳＮＳを駆使して。（男性／３０歳代／北秋田地域）

●県内で生産された農産物や水産物の地産地消をもっと推進していただきたい。（女性／７０歳以上／秋田地域）

●稲の新品種に期待しています。民衆になじみ深いものにしてもらいたいです。そして、少しでも値の高い米になってほしいと思っています。他県の主力品種と同じように、秋田の米として確立していったらよいのではと考えます。高い米を目指して、おいしい米をつくる代わりに生活が少しでも楽になるように。農家の高齢化に少しでも活力を！（女性／６０歳代／由利地域）

Ｇ．観光に関すること

●秋田の魅力をもっと全国にアピールして、観光に力を入れてほしい。（男性／５０歳代／雄勝地域）

●観光県であるがＰＲが足りない。ナマハゲ、竿燈、その他自然風景、温泉、男鹿での島巡り等をＴＶなどで大々的に宣伝しては。（男性／７０歳以上／秋田地域）

●観光資源の効率的なＰＲ。白神・十和田湖は青森県、八幡平は岩手県、栗駒山は宮城県、鳥海山は山形県のイメージがあり、他県に負けている。（男性／４０歳代／鹿角地域）

●観光地の充実化（若者に見せてあげられる場所が無い。）。（女性／２０歳代／秋田地域）

●大都市と離れているハンディキャップはあると思う。逆に離れていることを有利にできる施策を。田舎を売りにした滞在、宿泊型の施設など。（男性／４０歳代／秋田地域）

Ｈ．文化・スポーツに関すること

●スポーツの強化（高校野球、Ｂリーグ、Ｊリーグｅｔｃ…）。（男性／５０歳代／雄勝地域）

●スポーツをもっと盛んにしてほしい。（男性／３０歳代／秋田地域）

●文化活動への支援をお願いしたい。地方でも色んな芸術に触れることができる場所であってほしい。特に子どもたちには、音楽、演劇、美術など、秋田にいてもどんどん面白いものをみてほしい。県はそういうものを作ろうとする人たちを応援したり、みたいと思う人たちの気持ちを汲んでほしい。（女性／３０歳代／平鹿地域）

●伝統芸能や文化財の伝統継承の機会を増やす。（男性／３０歳代／秋田地域）

●文化、芸術に力を入れた町づくり。（女性／４０歳代／秋田地域）

Ｉ．道路・交通ネットワークに関すること

●地域の交通の面がもっと充実するようお願いしたいです。（女性／７０歳以上／秋田地域）

●交通網が、中心部以外では非常に不便。（女性／５０歳代／秋田地域）

●高速道の整備が遅れていることが、県内、県外企業の活動に重要な影響を及ぼしていると思われる。早期の改善が望まれる。（女性／７０歳以上／秋田地域）

●秋田道の片側二車線の早期実現。（女性／４０歳代／仙北地域）

●東北６県の中でも、どこに行くにもアクセスが悪く不便で、観光客も来にくい。（女性／４０歳代／仙北地域）

Ｊ．健康・医療・福祉に関すること

●医師や保健師の方の養成、人材の確保にもう少し力を入れるべきだと思う。（男性／４０歳代／秋田地域）

●県の中央と地方では、かなり温度差があると思います。特に、病院関係に関して感じます。（女性／７０歳以上／鹿角地域）

●医療の体制（県内、地域によってバラツキがある。）。（男性／６０歳代／鹿角地域）

●介護、福祉サービスの充実について。介護・福祉現場での働き手が少なくサービスが行き届かないケースが多いと感じる。サービスの充実の為には、マンパワーが欠かせないと思うが、現実は厳しい。超高齢化社会の秋田県にとって、とても大事な問題であり、働き手を確保するためにも考えてほしい。（女性／５０歳代／鹿角地域）

●高齢者が安全・安心に暮らせる、充実した生活ができる、介護サービスに力を入れてくれたらなと思います。（女性／７０歳以上／雄勝地域）

●8050 問題への積極的な取組。（女性／４０歳代／秋田地域）

●障害をもった子どもに対しても、もっと安心して暮らせるように支援してほしい。（女性／３０歳代／秋田地域）

●秋田県だけではないですが、小学校・中学校・高校で、児童や高齢者、障がい者への何かしらの対応ができるような福祉的な教育の時間があったらいいと思います。障がい者への視線が冷たかったり、高齢者に優しくなかったり…。そのような時代はもう終わらせたいです。大人になる前に、福祉的な考えを、思いやりを持っていただきたいです。（女性／２０歳代／仙北地域）

●コロナ、その他の未知のウイルスに迅速に対応できるよう備えることが大切だと思います。（性別不明／年代不明／居住地域不明）

●新型コロナウイルス感染者や医療従事者への誹謗中傷について、県はもっと積極的に他人の名誉を傷つける事がないように声明を出すべきだったのではないかと考えている。今後もそれを望んでいる。（女性／５０歳代／秋田地域）

Ｋ．教育に関すること

●子ども一人一人に対する教育の充実と学力の定着に力を入れてほしい。（女性／６０歳代／平鹿地域）

●小学校から英語に力を入れていますが、まだまだです。せっかく良い大学があるので協力できる体制を。（女性／４０歳代／秋田地域）

●起業教育の充実。（男性／５０歳代／秋田地域）

●特定の地域で育ったがために、子どもがやりたいこと（スポーツや部活、習い事）を制限される状況がある。特に、廃部になった部活動は復活することができないなど、大人の事情が子どもたちにとっての足枷になっている。そのため、子どもがやりたいことに自由に挑戦できるような社会づくりを望みます。（女性／５０歳代／秋田地域）

●公立の小中高等学校の教室にエアコンを設置していただきたいです。猛暑の教室で勉強するなんて、今の時代にそぐわないと思います。（女性／４０歳代／秋田地域）

●専門知識を学べる専門学校を増やしてほしい。（女性／４０歳代／平鹿地域）

Ｌ．県土の保全・防災に関すること

●ここ数年、災害が毎年のようにあります。対策をよろしくお願いします。（女性／５０歳代／北秋田地域）

●天災への徹底した備え。自然が多く高齢者が多いため。（男性／３０歳代／由利地域）

●地震、洪水等の自然災害への対策が最重要だと思います。（男性／５０歳代／秋田地域）

●地域防災のために各市町村と強力に連絡をとり、住民参加を定着させてほしい。（男性／６０歳代／由利地域）

●秋田県は自然災害等が他県に比べると少ないと感じる（台風・地震など）。住みやすいと思うが、何か災害等があった場合への対応力はどうなのだろうと感じることがある。防災意識の啓発等をやってほしいです。（女性／２０歳代／秋田地域）

Ｍ．身近な生活・環境に関すること

●熊対策や獣害の対策に取り組んでほしい。（女性／７０歳以上／鹿角地域）

●高齢者が安全、安心できる生活環境を望みます。（男性／７０歳以上／北秋田地域）

●子どもや孫たちの今後について、犯罪に巻きこまれないよう特に力を入れてほしいと思います。（女性／７０歳以上／山本地域）

●他県に比べて、道路の破損が目立ちますので、対処してほしいと思います。（女性／６０歳代／北秋田地域）

●豪雪地帯でも安心して暮らせる施策。（男性／５０歳代／雄勝地域）

Ｎ．県政全般に対する意見・その他

●人口減少に歯止めを…。人口増で、いろいろな面を回復することができると思う。（女性／４０歳代／秋田地域）

●これからの秋田をつくっていく世代が全国に誇れる秋田を残してほしいです。（男性／２０歳代／雄勝地域）

●レジャー施設を増やしてほしい。（女性／３０歳代／仙北地域）

●もっと秋田を全面に押し出したＰＲを作ったらよいと思う。秋田にゆかりのある有名人を起用したＣＭなどで全国、全世界に秋田の魅力を発信していってほしいです。秋田の四季は素晴らしいし、もっともっと秋田を知ってほしいと思います。（男性／３０歳代／秋田地域）

●観光、農林水産、移住、企業誘致、Ｕターンなど、いずれにしても県全体の情報発信をもっと強化した

方がいいと思う。情報社会に埋もれないよう、他県に負けない力強い発信をしていってほしい。（女性／４０歳代／山本地域）

●わかりやすい秋田。暮らしに必要なこと、知りたいことがどんな人でも、どんな年代の人でも、どんな方法でもアクセスしやすくなってほしい。自分の関わりのある分野以外、県政について広く関心を持つことが難しいと感じている。（女性／４０歳代／北秋田地域）

●今回新型コロナの緊急事態宣言において国や県からの説明がありましたが、私たち年寄りには横文字ばかりで全く理解できませんでした。今後こういった重要なことに関しては日本語でわかりやすく説明していただけないでしょうか？よろしくお願いします。（女性／７０歳以上／山本地域）

●県独自の支援の名称を県民に身近なものにしてほしい。また、支援策や取組内容を説明する文章には、身近な言葉を使ってほしい。（男性／３０歳代／秋田地域）

●イージスアショアは反対です。新屋がだめになって、秋田の別の場所という話が出ていますが、ほかの所でも反対です。（女性／５０歳代／由利地域）

●イージスアショア建設に反対する意味が分からない。県として新屋地区の意見だけを聞いて反対しているのか？国が道路を作ってくれて、海岸も整備してもらって、あげく日本の安全を見守る事ができるのはすごいことではないですか。土地の値段が下がるなんて、だまっていても秋田は人口減少で買う人も住む人もいなくなります。若者に定着してもらわなければならない。なおさら国からの提案を受け入れ、今後の若者たちの就業の場の確保や、観光の目玉になるであろう事業をした方がいいのではないですか。安全面で問題が出たなら、その時考えて対処すればいい話で、何も起こっていないうちから、あーだこーだ言うのはおかしい。だから今まで秋田は発展できずにいるのではないですか。（女性／６０歳代／秋田地域）

●現在の秋田県は、年配の方の考えが中心であり、もっと若い２０代～３０代の方の考えを得ることが必要だと思う。（男性／５０歳代／秋田地域）

●より若い世代の意見を取り入れてほしい。（女性／３０歳代／秋田地域）

●県北、中央、県南地域の特長を生かした、若者に魅力ある地域づくりが必要である。今後の県政運営に期待しています。（男性／６０歳代／秋田地域）

●秋田の可能性や秘めた能力を活かしきれていないように思う。目先の課題も重要だが、中、長期的な課題にも更に力を入れて取組んでほしい。（男性／４０歳代／秋田地域）

●難しい問題ではあるが、少子高齢化対策。経済対策。今現在も大事だが、５年後、１０年後に結びつく対策を県民に分かりやすく見える形で推進するのが重要だと思う。余力があるうちなら、対策を打ち出しても耐え凌ぐ事も政策に取り組むこともできるが行き詰ってからは何もできない。その時期はもう来

ていると思う。（男性／４０歳代／山本地域）

●県の施策を、もっとスピード感をもって進行してほしい。（男性／３０歳代／秋田地域）

●各項目は、全国でもそれなりに実施している。もっと秋田県独自で、重点事項（施策）を絞るなりして、県の特長を全面に出して政策を進めてほしい。（男性／６０歳代／秋田地域）

●他県との差別化を図るためにも、何か一つでも特化させるべきだと思います。（男性／４０歳代／北秋田地域）

●秋田県は秋田県にとっての「最善の模索」でいいと思います。都会に合わせる必要のないこと、秋田にしかできないことをうまく取り込んでいただきたいと思います。（男性／５０歳代／秋田地域）

●４７都道府県一丸となり日本を発展させることは大切だと思いますが、未曽有の事態が起きた時に自立できる県であることも必要だとコロナ禍で強く感じました。（女性／６０歳代／秋田地域）

●新型コロナウイルスにより見込まれる、社会経済や国民生活の変容も見据えた取組が大切である。（男性／７０歳以上／由利地域）

●様々な手続きの電子化を進めてもらいたい。全ての手続きで電子化に対応できれば(紙という選択肢も残しつつ)、手軽さと先進性に魅力を感じ、移住や、秋田での起業を考える人が増えるかもしれない。やるなら中途半端ではなく、スマホ１つで完結するくらい徹底的に。「これは無理」、「あれはできない」、「前例がない」でアイデアを潰すのはもったいない。できない理由を探す前に、できる方法を探してほしい。遊び心を持った県政運営を期待します。突拍子もないアイデアでも、批判に対してなるほどと思える答えを用意できるなら、遊びや悪ふざけではなく、良い仕事だと思う。大変だと思いますが、頑張ってください。（男性／２０歳代／居住地域不明）

付属資料：調査票

令和2年度　県民意識調査

令和2年5月

調　査　票

【調査の目的】

◇この調査は、秋田県が実施する調査で、県の取組に関する皆様の満足度やご意見等をお伺いし、各種政策の立案や政策評価等に反映させることを目的としています。

【調査票の取扱い】

◇調査結果は、全て統計的に処理しますので、回答内容が個人情報と結びついた形で公表されることはありません。

【記入に当たってのお願い】

◇この調査には、宛名のご本人がお答えください。
　※ご本人が何らかの事情により回答できない場合、代理の方の回答は不要です。
◇ボールペンや鉛筆等で記入してください。
◇回答を１つだけ選んでいただく質問と、複数選んでいただく質問があります。

この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

6月5日(金)までに投函してください。

なお、返信用封筒に住所、氏名等の記入は不要です。

©2015 秋田県んだッチ

◆左下のＱＲコードまたは「秋田県 電子申請・届出サービス」（https://s-kantan.jp/pref-akita-u/offer/offerList_initDisplay.action）から、パソコン、スマートフォン、タブレット等を利用したインターネット回答が可能です。
　※インターネット回答の場合は、調査票の返送は不要です。

【問い合わせ先】

◇この調査に関する質問等は、以下までお問い合わせください。
〒０１０－８５７０　秋田市山王四丁目１番１号
秋田県企画振興部　総合政策課　計画・評価班
電　話：０１８（８６０）１２１７（直通）
ＦＡＸ：０１８（８６０）３８７３
メール：seisaku@pref.akita.lg.jp

問１　県では、『第3期ふるさと秋田元気創造プラン』(※)に基づき、「時代の変化を捉え力強く未来を切り拓く秋田」を創り上げていくことを目指し、様々な取組を進めていますが、次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。ご自身の実感に近いものを「5」～「1」の5段階から選んでお答えください。

また、お答えが「2」または「1」の場合は、よろしければその理由や、県が取り組むべきだと思うことについて、お聞かせください。

※『第３期ふるさと秋田元気創造プラン』とは、平成 30 年度からの４年間に、県が取り組むべき政策等を取りまとめた県政運営の指針です。

	項目	あなたの満足度（１つ選び番号に○をしてください）					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
1	若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
2	高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
3	安心して子育てができる社会になっている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
4	女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
5	地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					

（参考資料）

若者の定着や地域の活力維持に関する取組の状況

1 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

・将来にわたり拡大が見込まれる成長分野（輸送機・新エネルギー・医療福祉・ICT（情報通信技術））への県内企業の参入を促進するとともに、同分野の企業誘致を重点的に推進

・IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）等の技術革新の進展により求められるICT人材の確保・育成のため、県内ICT企業のPRや、中高校生向け情報教育を実施

・啓発セミナー等の開催により働き方改革を推進するとともに、就労環境の整備や女性の復職を支援

◎雇用創出数（企業誘致や成長産業の振興、農林水産業や観光産業による新規雇用創出）
2,552 人（H28）⇒ 2,334 人（H30）

2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

・高校生や大学生が県内企業の魅力に触れる機会として、企業見学会・企業説明会等を開催

・大学生と保護者の県内就職への意識醸成に向けた情報発信の強化のほか、県内就職者への経済的支援として奨学金返還に対する助成を実施

・移住相談や移住フェア等を通じて秋田暮らしの魅力を発信

・Ａターン就職を支援するため、東京都や秋田市等でＡターンフェアを開催

合同就職面接会

◎人口の社会減
△4,100 人（H27）⇒ △3,917 人（H30）

3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

・あきた結婚支援センターの運営支援を通じて結婚を希望する独身男女をサポート

・市町村が地域の実情やニーズに応じて行う子ども・子育て支援事業に対して支援

・保育料や副食費への助成など、子育て世帯への経済的支援を充実

園庭で楽しく遊ぶ園児たち

◎婚姻件数
3,510 組（H28）⇒ 3,052 組（H30）

◎出生数
5,666 人（H28）⇒ 5,040 人（H30）

4 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

・経済団体等と連携した普及啓発や企業表彰の実施等により、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた気運を醸成

・「あきた女性活躍・両立支援センター」を設置し、企業訪問やアドバイザーの派遣等により企業の取組を支援

◎女性の活躍に関する行動計画を策定した企業数
64 社（H28）⇒ 174 社（H30）

◎従業員の仕事と子育てに関する行動計画を策定した企業数　262 社（H28）⇒ 361 社（H30）

5 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

・集落機能を維持するため、複数集落単位で地域の将来をデザインする「コミュニティ生活圏」の形成を支援

地域の将来についての検討会

・県と市町村が協働し、人口減少社会における生活課題の解決に向けた住民主体の支え合いの仕組みづくりを推進

◎社会活動・地域活動に参加した人の割合
42.0%（H28）⇒ 62.1%（H30）

項目		あなたの満足度 （１つ選び番号に〇をしてください）					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
6	地域経済を牽引（けん）することができる競争力を持った企業が増えている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］「不十分」または「やや不十分」に〇をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
7	中小企業の安定した経営が確保されている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
8	企業誘致が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
9	産業人材の確保・育成が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					

産業の振興に関する取組の状況

6　成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

・航空機・自動車関連分野における加工技術の向上や販路開拓を支援

・再生可能エネルギーの導入拡大と関連産業への県内企業の参入を促進

・医工連携による県内企業と大手医療機器メーカーとのマッチングを支援

・「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」の活動を通じて、県内企業における先進技術の導入を促進

AI ロボット「Sota」

◎輸送用機械器具製造業の製造品出荷額

1,124 億円（H28）⇒ 1,568 億円（H29）

◎医療機器関連製造業の製造品出荷額等

548 億円（H27）⇒ 595 億円（H29）

7　中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

・産業デザインやマーケティングに関する助言・指導、県産業技術センターの研究員による技術支援を実施

・生産性の向上を図るため、専門アドバイザーが生産現場での改善を支援

・中小企業の円滑な事業承継に向け、商工団体や「秋田県事業引継ぎ支援センター」と連携したマッチング支援等を実施

秋田県中小企業応援キャラクター「がんばっけさん」

◎製造品出荷額等（従業員4人以上の事業所）

1 兆 2,153 億円（H27）⇒ 1 兆 3,347 億円（H30）

◎製造品付加価値額（従業員4人以上の事業所）

4,739 億円（H27）⇒ 5,023 億円（H30）

8　国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

・企業の海外展開に向けた活動経費を支援

・世界への物流の玄関口となる港湾施設を整備

・首都圏、東海地区等における積極的な誘致活動等により、直接大手自動車メーカーと取引を行う企業や、大手ＩＴ企業、アニメ関連企業を誘致

海の玄関口“秋田港”

◎秋田港国際コンテナ取扱量（実入り）

50,776TEU（H28）⇒ 51,205TEU（R1）（速報値）

※「TEU」＝貨物コンテナの量を表す単位

◎企業の誘致件数及び誘致済企業の施設・設備の拡充件数　22 件（H28）⇒ 28 件（R1）

9　産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

・働き方改革を推進するためのセミナーや専門家による集中支援を実施

働き方改革推進セミナー

・女性が働きやすい環境の整備に取り組む企業を支援

・県技術専門校において、輸送機や新エネルギー関連のカリキュラムを実施

◎成長産業等における雇用創出数

1,691 人（H28）⇒ 1,423 人（H30）

◎若者や女性等の働きやすい環境の整備に取り組む企業数　330 社（H28）⇒ 575 社（H30）

項目		あなたの満足度 （１つ選び番号に○をしてください）					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
10	農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
11	えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
12	あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
13	飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
14	秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
15	ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
16	豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					

農林水産業の振興に関する取組の状況

10　秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

・生産規模の拡大を目指す意欲的な経営体を育成

・県外からの移住者や新規学卒者・Ｕターン者など、多様なルートと幅広い年代から新規就業者を確保・育成

首都圏での移住就業セミナー

◎農業法人数（認定農業者）　576 法人（H28）⇒ 705 法人（R1）

◎担い手への農地集積率　73.2%（H28）⇒ 75.0%（H30）

11　複合型生産構造への転換の加速化

・ねぎやキクなどの園芸メガ団地や大規模畜産団地を整備

・「えだまめ出荷量日本一」や「しいたけ三冠王(量･額･単価)」を目指して生産を拡大

・「秋田牛」や「比内地鶏」のブランド力強化に向けた取組を推進

大規模団地のねぎ収穫作業

◎主要園芸品目の系統販売額

160 億円（H28）⇒ 156 億円（H30）

◎畜産産出額

352 億円（H27）⇒ 359 億円（H30）

12　秋田米の戦略的な生産･販売と水田フル活用

・秋田米の安定生産やブランド力の向上を促進するとともに、食味が特に優れた新品種(秋系 821)の市場デビューに向けた取組を実施

・水田の大区画化や排水対策を図るほ場整備を実施

◎全国に占める秋田米のシェア　5.47%（※）⇒ 5.95%（H30）

※ H23～27 の最高値と最低値を除いた３年平均

◎米の生産費　10,500 円/60kg（H27）⇒ 10,100 円/60kg（H29）

13　農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

・県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売を促進

・食品メーカーなど異なる業種との連携による新商品の開発や新ビジネスの創出を促進

新商品のPR

◎6次産業化事業体販売額

143 億円（H27）⇒ 172 億円（H29）

14　「ウッドファーストあきた」による林業･木材産業の成長産業化

・資源の循環利用を図るため、低コスト再造林を推進

・立木等の情報を Web 上で共有化する木材クラウドの整備や、低コストな素材供給体制づくりを促進

・新たな木質部材の開発と非住宅建築への活用を促進

◎素材生産量（燃料用含む）

1,470 千㎥（H28）⇒ 1,519 千㎥（H30）

◎スギ製品出荷量

591 千㎥（H28）⇒ 640 千㎥（H30）

15　つくり育てる漁業と広域浜プラン推進による水産業の振興

・つくり育てる漁業の対象魚種（ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケ、トラフグ）などの稚魚を育成・放流

・Ｒ元年9月に開催した天皇陛下御即位記念全国豊かな海づくり大会あきた大会を契機として、地魚のＰＲや高品質化に向けた支援を強化

◎海面漁業協同組合員1人当たりの漁業生産額

288.0 万円（H28）⇒ 283.2 万円（H30）

◎つくり育てる漁業の対象魚種の漁業生産額

9.7 億円（H27）⇒ 8.2 億円（H30）

16　地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

・農山漁村での都市住民との交流活動や食ビジネスの取組を促進

・草刈りや植樹など地域住民による農地、森林を守る活動を促進

◎中山間地域資源活用プラン策定地域数（累積）

37 地域（H28）⇒ 53 地域（R1）

◎水と緑の森づくり推進事業参加者数

23,362 人（R1）

	項目	あなたの満足度 （1つ選び番号に○をしてください）					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
17	国内外から観光誘客が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
18	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
19	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
20	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
21	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
22	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					

観光・文化・スポーツの振興に関する取組の状況

17 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

・見て、触れて、楽しめる、秋田ならではの体験型観光を推進

・宿泊施設の整備など、観光客の旅の満足度の向上に向けた受入環境の充実を支援

なまはげ体験

◎観光地点等入込客数（延べ人数）

3,159 万 6 千人（H28）⇒ 3,484 万 4 千人（H30）

18 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

・日本酒や発酵食品等の更なる高品質化とブランド力の強化を促進

・発酵食など本県独自の食文化を観光コンテンツとして磨き上げ、誘客へ活用

あきた発酵ツーリズム拠点施設「田屋」

◎食料品・飲料等製造品出荷額等

1,205 億円（H27）⇒ 1,401 億円（H29）

19 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした多彩な文化事業を実施し、国内外へ秋田ならではの文化を発信

・青少年音楽コンクールなど若者をはじめとした多くの県民が参加しやすい環境の整備と地域における文化活動への支援を実施

・本県文化の中核拠点となる「あきた芸術劇場」の整備を推進

あきた芸術劇場（イメージ図）

◎文化事業への来場者数

44 万 9,311 人（H28）⇒ 46 万 5,879 人（H30）

20 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

・モーグルワールドカップ秋田たざわ湖大会等の開催による交流人口の拡大

・ジュニア層の強化を競技力向上の柱に据えた一貫指導体制を確立

・ノーザンハピネッツやブラウブリッツ、ノーザンブレッツの活動を支援

モーグルワールドカップ秋田たざわ湖大会

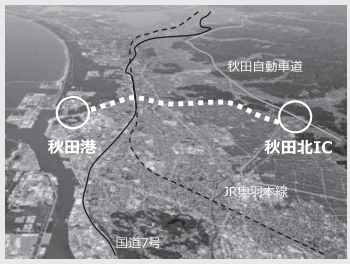
◎成人の週1回以上のスポーツ実施率

49.5%（H28）⇒ 50.5%（R1）

21 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

・秋田自動車道「湯田 IC～横手 IC」間のうち、15.4km の4車線化が事業化

・重要港湾秋田港と秋田自動車道秋田北 IC を結ぶ「秋田港アクセス道路」の事業に着手



秋田港アクセス道路

◎県内高速道路の供用率

90%（H28）⇒ 90%（R1）

22 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

・台湾からの定期便・チャーター便の誘致に向けたセールスを実施

・LCCなど新たな国内航空路線の誘致に向けた取組を推進

・国や市町村と連携し、生活バス路線の運行費等を支援

国際定期便（イメージ）

◎秋田県と県外間の旅客輸送人員数

539 万 2 千人（H27）⇒ 601 万 5 千人（H29）

項目		あなたの満足度 （1つ選び番号に○をしてください）					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
23	食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
24	誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
25	どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
26	高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
27	全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					

健康づくりや医療・福祉の充実に関する取組の状況

23 健康寿命日本一への挑戦

・市町村や経済団体、保健医療団体、報道機関等、多様な主体と連携した健康づくり県民運動を推進

健康寿命日本一ウェブサイト「秋田健」ロゴ

ウェブサイト
QRコード

・テレビ・ラジオCM、新聞紙面やウェブサイト等を活用した普及啓発等を通じて、県民一人ひとりの健康意識を高揚

禁煙ステッカー

・相談窓口の設置、事業所訪問や出前講座の実施等により、県民の受動喫煙防止への取組を推進

・屋内禁煙に取り組む小規模飲食店を対象とした改装費等の補助や、禁煙ステッカー等啓発資材の配布により、飲食店の禁煙化を支援

◎健康寿命

男性 71.21 年、女性 74.53 年（H28）

24 心の健康づくりと自殺予防対策

・民・学・官の連携による自殺予防街頭キャンペーン等の普及啓発や、様々な悩みを抱える方の相談支援体制を整備

・県内自殺者の過半数を占める高齢者の自殺を予防するため、戸別訪問を強化するとともに、高齢者の心理等を学ぶゲートキーパー講座などを実施

・若者の自殺を予防するため、インターネット上で相談窓口を周知する取組や、県立高校でのSOSの出し方講座、教職員のSOSの受け方研修会などを実施

◎自殺による人口 10 万人当たり死亡率

23.8（H28）⇒ 20.3（H30）

25 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

・県立循環器・脳脊髄センター新棟において診療を開始するなど、高齢化の進行により医療ニーズが高まっている脳・循環器疾患の包括的な医療提供体制を強化

◎脳血管疾患による人口 10 万人当たり年齢調整死亡率　37.9（H28）⇒ 35.5（H30）

◎がんによる人口 10 万人当たり 75 歳未満年齢調整死亡率　87.4（H28）⇒ 80.0（H30）

26 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

・職員の処遇改善や育成等に積極的な事業所を県が認証する「介護サービス事業所認証評価制度」の普及を推進

・教育を通じた障害者理解の促進など、障害者差別解消推進条例による共生社会の実現に向けた取組を強化

◎介護施設等の介護職員数

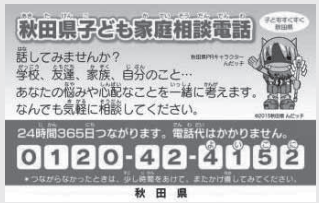
20,891 人（H28）⇒ 21,228 人（H29）

27 次代を担う子どもの育成

・里親制度の普及・啓発、里親の育成、里親支援体制の整備、里親支援コーディネーターの配置等により、社会的養護が必要な子どもの里親委託を推進

・「秋田県児童虐待防止宣言」を策定するなど、児童虐待防止についての取組を強化

・学習支援や家計改善支援など、子どもの貧困対策を強化



秋田県子ども家庭相談電話カード

◎里親委託児童数

16 人（H28）⇒ 28 人（R1）

項目		あなたの満足度 （１つ選び番号に○をしてください）					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
28	学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
29	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
30	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
31	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
32	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
33	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					
34	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。	5	4	3	2	1	N
		［自由記述］					

教育・人づくりに関する取組の状況

28　自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

産業教育フェアでの販売体験

・起業体験やボランティア活動など、地域の活性化に貢献する体験活動や地域の伝統を受け継ぐ活動を推進

・県立高校等に就職支援員や職場定着支援員等を配置し、就職支援、県内就職の促進、職場への定着支援等の取組を実施

◎高校生の県内就職率　65.0%（H28）⇒ 67.6%（R1）

29　子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

・主体的に問題を解決する「探究型授業」の充実を図るため、学校訪問等により授業改善を推進

・少人数学級によるきめ細かな教育や社会人等外部人材の活用による専門性の高い教育を展開

◎授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合（小4～中2）
91.0%（H28）⇒ 90.4%（R1）

30　世界で活躍できるグローバル人材の育成

・英語コミュニケーション能力の育成に向け、外国語指導助手や外部検定試験を活用

・小学校３年生から高校３年生までを対象に県内各地でイングリッシュキャンプを開催

◎英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合　37.1%（H28）⇒ 39.1%（R1）

31　豊かな人間性と健やかな体の育成

・スクールカウンセラー等の専門家の配置により教育相談体制を充実

・地域人材を活用し、授業の充実を図るとともに部活動を支援

地域人材を活用した授業

◎自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合（小6・中3）　83.0%（H29）⇒ 86.0%（R1）

◎運動やスポーツをすることが「好き」な児童生徒の割合（小5・中2）　65.6%（H29）⇒ 65.9%（R1）

32　子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

・学校と地域の協働活動を推進する人材育成や、地域と連携した安全教育活動を展開

・能代地区専門系統合校の整備を進めたほか、老朽化した一部の県立学校校舎を改築

地域での見守り活動

◎授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合（小6・中3）
83.8%（H29）⇒ 86.2%（R1）

33　地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

・各大学等の多様な資源を活用し、地域社会や産業の課題解決に向けた取組を推進

・高校教育と大学教育の連携など学生の確保に向けた多様な取組を推進

◎県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究数　89 件（H28）⇒ 105 件（H30）

◎県内高卒者の県内大学・短大への進学率
28.4%（H29）⇒ 28.8%（R1）

34　地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

・県生涯学習センターや公民館、学校などで様々なテーマの生涯学習講座を開催

・R 元年 12 月に大湯環状列石（鹿角市）と伊勢堂岱遺跡（北秋田市）を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録に向けて推薦されることに決定

◎芸術・文化施設をセカンドスクール的に利用した小・中学生の割合　26.6%（H28）⇒ 18.6%（R1）

問２　県の重要課題について、お伺いします。

今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れてほしいことは何ですか。
下から５つまで選択して番号を記入してください。

◆若者の定着や地域の活力維持

1　若者に魅力的な働く場の確保
2　高校生や大学生の県内就職の促進
3　県内への移住の促進
4　結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備
5　女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援
6　安心して生活できる地域コミュニティの維持

◆産業の振興

7　企業の成長分野への参入促進
8　地域経済をけん引する企業の創出・育成
9　中小企業の安定的経営の確保と競争力強化
10　企業の東アジア市場等への進出の促進
11　企業が必要とする専門人材の確保
12　誰もが働きやすい職場環境の整備
13　ＩｏＴ、ＡＩ技術等の産業への導入の促進

◆農林水産業の振興

14　農林水産業の担い手の確保
15　野菜や果樹、畜産物等の生産の拡大
16　産地間競争に打ち勝つ米づくりと販売の強化
17　水田の大区画化や汎用化の促進
18　農林水産物の加工・販売の促進
19　秋田スギや木製品の生産・加工・販売の促進
20　水産資源の維持・増大による水産業の振興
21　農山漁村地域の活力向上

◆観光・文化・スポーツの振興

22　国内外からの観光誘客の強化
23　新商品の開発や販路拡大による食品産業の振興
24　秋田ならではの文化の振興と発信
25　スポーツの振興による地域の活力向上
26　道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上
27　鉄道や航空・地域交通などの整備

◆健康づくりや医療・福祉の充実

28　健康寿命の延伸に向けた取組の推進
29　自殺予防対策の推進
30　医療提供体制の整備
31　介護・福祉サービスの充実
32　貧困や虐待等、複雑な事情を抱える子どもへの支援

◆教育・人づくり

33　ふるさと教育やキャリア教育の充実
34　学力向上に向けた取組の充実
35　英語教育と国際教育の充実
36　豊かな人間性を育む教育の充実
37　健やかな体を育む教育の充実
38　教員の指導力向上
39　学校施設の整備
40　大学等の地域貢献活動の強化
41　生涯学習機会の充実と学習効果の社会への還元
42　文化遺産等の保存・活用の促進

◆安心・安全な生活環境の確保

43　治山治水対策の充実
44　地域防災活動の充実
45　温暖化防止活動や自然環境保全対策の推進
46　犯罪や交通事故の少ない地域づくり
47　食品や水道などの安全・安心の確保
48　動物愛護活動の推進
49　快適で安らげる生活基盤の整備
50　ＩＣＴによる便利な暮らしの実現と地域の活性化

問3　県の特定課題について、お伺いします。

以下の質問について、**当てはまる選択肢の番号に○**をつけてください（「子ども・若者への支援について」は、選択肢から３つまで選択して番号を記入してください）。

県の広報活動について

①　あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（○はいくつでも）。

1　県が発行する広報紙（全戸配布広報紙・新聞広告等）
2　県のウェブサイト（「美の国あきたネット」等」）
3　県政広報番組（テレビ、ラジオ）
4　新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組
5　ソーシャルメディア（ブログ、ツイッター、フェイスブック、動画サイト　等）
6　その他（　　）

②　あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は１つ）。

1　十分行われている
2　ある程度行われている
3　あまり行われていない
4　行われていない
5　どちらともいえない

家庭での防災活動について

①　あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家族人数×３日分）をしていますか（○は１つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含みます。

1　３日分以上の備蓄をしている
2　備蓄はしているが、２日分以下である
3　備蓄はしていない

②　あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（○はいくつでも）。

1　地域の防災訓練への参加
2　災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握
3　最寄りの緊急避難場所等の確認
4　緊急避難場所等への避難経路の確認
5　災害時の家族への連絡方法の取り決め
6　非常時持ち出し品の用意
7　家具等の固定
8　その他（　　）

読書活動について

① あなたは読書（※）が好きですか（○は１つ）。

※読書には、新聞（日刊紙の電子購読版を含む。）、雑誌、電子書籍、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注）も含みます。

（注）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したＣＤやカセット等のことです。

1　好きだ	2　どちらかといえば好きだ
3　どちらかといえば好きではない	4　好きではない

② あなたは１日平均（※）どれくらい読書をしていますか（○は１つ）。

※子どもへの読み聞かせ時間も含みます。

※休日まとめ読みの場合は、１日平均に置き換えてください。

1　２時間以上	2　１～２時間
3　３０分～１時間	4　３０分未満
5　全く読まない	

農業への就業について

① 現在、農業へ就業していない方にお聞きします。あなたは、農業への就業について、どのように考えていますか（○は１つ）。

1　将来、後継者として農業へ就業する予定である
2　「専業」での農業への就業に興味がある（１に該当する方を除く）
3　「兼業」（副業・アルバイトを含む）での農業への就業に興味がある（１に該当する方を除く）
4　農業への就業に興味はない（１に該当する方を除く）

② ①で「３」を選んだ方にお聞きします。あなたが実際に農業へ就業するとした場合、どのような勤務形態で従事してみたいですか（○は１つ）。

1　「休日」に「終日」従事してみたい
2　「休日」に「半日程度」従事してみたい
3　「休日」に「短時間」従事してみたい
4　「平日」に「終日」従事してみたい
5　「平日」に「半日程度」従事してみたい
6　「平日」に「短時間」従事してみたい

海岸漂着ごみ対策について

① 秋田県の海岸には毎年のようにごみが漂着し、海岸を汚すなどの問題が発生していますが、あなたは、このことを知っていますか（どちらかに○）。

1　知っている	2　知らない

がん対策について

① あなたは、日本人の２人に１人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

1　知っている	2　知らない

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（○は１つ）。

1　定期的に受ける	2　体調に心配がある時に受ける
3　わからない	

社会活動・地域活動について

① あなたが、ここ１年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」（※）に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか（○は１つ）。

※「社会活動・地域活動」の具体例
地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い　等

1　週５日以上	2　週１日程度
3　月１日程度	4　年１日程度
5　特定の期間（夏の間２週間など）	
6　その他（具体的に　　）	
7　取り組んだことがない	

自転車の安全な利用について

① あなたは「自転車損害賠償責任保険（※）」に加入していますか（○は１つ）。

※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。
※自転車保険単独のものや、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約、共済、職場の団体保険などがあります。

1　加入している	2　加入していない
3　わからない	

男女共同参画について

① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか（○は１つ）。

1　賛成	2　どちらかといえば賛成
3　どちらかといえば反対	4　反対
5　わからない	

環境保全活動について

① あなたは、これまで環境保全活動に参加したことがありますか（○はいくつでも）。

1 環境美化・清掃活動への参加（例：市民クリーンアップなど）
2 自然保護活動への参加（例：ホタルの保護活動など）
3 森林保全活動への参加（例：市民植樹など）
4 リサイクル活動への参加（例：古紙・空き缶回収など）
5 環境をテーマとした講演会等への参加（例：地球温暖化防止フォーラムなど）
6 その他（　　）
7 参加したことがない

高齢者の社会参加について

① ６０歳以上の方（※）にお聞きします。あなたは、令和元年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。
※６０歳未満の方は次の質問に進んでください。

1 行った　　2 行っていない

子ども･若者への支援について

① すべての子ども・若者が健やかに成長し、希望を持って社会生活を送ることができるようにするために、あなたが県に特に力を入れてほしいことは何ですか。下から３つまで選択して番号を記入してください。

◆子ども・若者の健やかな育成
1 基本的な生活習慣の形成
2 心身の健康づくりの推進
3 学力の向上

◆困難を有する子ども・若者の支援
4 児童虐待の防止
5 ニート、ひきこもり、不登校の若者への支援
6 支援を必要とする親へのサポート

◆未来にチャレンジする子ども・若者の応援
7 グローバル化に対応する教育の推進
8 科学・ＩＣＴ人材の育成
9 若者による地域づくりの促進

◆子ども・若者の成長を支える人材の養成
10 児童委員や母子保健推進員などの確保・養成
11 教員・医師・保健師などの専門人材の確保・養成
12 子どもと年齢の近い世代による相談や支援

◆子ども・若者の成長のための社会環境づくり
13 体験・交流活動の機会の充実
14 安全なインターネット環境の整備
15 「仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現

問4　［自由記述］県に力を入れて欲しいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。

©2015 秋田県んだッチ

問5　あなたご自身について、お伺いします。

回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについてお聞かせください。
（最も近いと感じる選択肢の**番号1つに○**をつけてください。）

① あなたの性別

1 男性　　2 女性　　3 その他

② あなたの年齢

1 18～19 歳　　2 20～29 歳　　3 30～39 歳　　4 40～49 歳

5 50～59 歳　　6 60～69 歳　　7 70 歳以上

③ １８歳未満の子どもの有無

1 現在 18 歳未満の子どもを養育している　　2 していない

④ あなたのご出身

1 秋田県の出身　　2 秋田県以外の出身

⑤ あなたのお住まいの地域

1 鹿角地域（鹿角市、小坂町）

2 北秋田地域（大館市、北秋田市、上小阿仁村）

3 山本地域（能代市、藤里町、三種町、八峰町）

4 秋田地域（秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村）

5 由利地域（由利本荘市、にかほ市）　　6 仙北地域（大仙市、仙北市、美郷町）

7 平鹿地域（横手市）　　8 雄勝地域（湯沢市、羽後町、東成瀬村）

⑥ あなたの主なお仕事の業種

1 農業　2 林業　3 漁業　4 建設業　5 製造業　6 情報通信業

7 運輸業・郵便業　8 卸売業・小売業(観光関連)　9 卸売業・小売業(観光関連以外)

10 宿泊業　11 飲食サービス業　12 学術研究・学校教育・学習支援

13 医療・保健　14 福祉　15 公務（1～14 以外）　16 その他の業種

17 学生　18 無職

これで調査は終わりです。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、**6月5日（金）まで**に投函してください。

令和２年度　県民意識調査報告書

令和２年８月

発　　行　秋田県　企画振興部　総合政策課

〒010-8570　秋田県秋田市山王４丁目１番１号

TEL 018-860-1217　FAX 018-860-3873

調査機関　株式会社フィデア情報総研

〒010-0951　秋田県秋田市山王３丁目４番 23 号

TEL 018-883-0200　FAX 018-883-0209